

給與	囑託手當	外國人一時囑託ノ給料、殘務調理者ノ手當等ハ本節ニ屬ス
贈與及謝金	物品贈與、屍體解剖祭祀料等ノ類ハ本節ニ屬ス	
慰勞金	囑託、雇員、傭人勉勵手當等ハ本節ニ屬ス	
訓育費	訓育上直接必要ナル諸經費ハ本目ニ屬ス	
體育設備費	體育ニ關スル基本用費ハ本目ニ屬ス	
學生費	勉學獎勵費ハ本節ニ屬ス	
被服費	被服ノ洗濯料等ノ類ハ本目ニ屬ス	
受託製品費	本目中他ノ節ニ屬セサル直接本目ニ必要ナル諸費ハ本節ニ屬ス	
林道開墾費	人件費、物件費共本目ニ屬ス	
式日諸費	儀式ニ關スル直接必要ナル諸費ハ本目ニ屬ス	
農場及演習林費	一 動物購買、飼料、治療ニ關スル諸費 二 種付料、褥草代等ノ類ハ本節ニ屬ス	
雜費	宿直及徹夜補助料、非常炊出補助費ノ類ハ本節ニ屬ス	

道路費	道路維持費ハ本節ニ屬ス
水路費	水路維持費ハ本節ニ屬ス
諸手数料	一 物品取扱手数料ノ類 二 登記印紙代ノ類ハ本節ニ屬ス
職工獎勵諸費	職工勉勵手當ハ本節ニ屬ス
雜用費	他ノ費目ニ屬セサル雜用費
死亡手當	例 ラヂオ聴取料、關稅(物品購入等ニシテ關稅ノミヲ支拂フ場合)ノ類ハ本節ニ屬ス 外國旅費規則南洋群島、關東州、南滿洲旅費規則在外研究員規程ニ依リ支給スル死亡手當ハ本目ニ屬ス

備考

- 一 物品ノ修繕ハ當該費目ノ所屬トス
- 一 支出科目ヲ定ムルハ大體ニ於テ用途ニ從フヲ原則トス
- 一 解疏ノ必要ナシト認ムヘキモノハ之ヲ省ク

科目使用之件

明治四十年十月七日
會計課長 通牒

支拂豫算ノ配賦ナキ科目ニ付支出ヲ要スルトキハ大臣ノ認可ヲ受ケラルヘキコトハ學校及圖書館出納事務取扱規程第十四條ニ規定相成居候處休職俸給、退官賜金、死亡賜金、賞與等ニシテ本省ノ發令ニ依リ當然支出ヲ要スルモノハ支出科目ノ既ニ設定セラレタルモノニ付テハ別ニ御稟請ヲ要セス直ニ使用相成可然候依命此段及通牒候也

電話架設ニ要スル經費支出ニ關スル件

大正十二年十月二十九日
會計課長 回答

十月十八日附會發第一〇五號伺貴校寄宿舎ニ電話架設ニ要スル經費支出ノ儀ハ支障無之コトト存ス右回答ス(神戸高等商船學校長宛)

現在本校電話裝置一座ハ蘆屋郵便局所管ニ屬シマズルカ寄宿舎ノ位置ハ之レカ所管ヲ異ニシテ御影郵便局ニ屬スル次第デアリマス

本校ハ生徒全部ヲ寄宿舎ニ收容スルノ制度デアリマスカラ所屬職員モ同舎内ニ於テ執務ヲ致シマスル關係上電話裝置ノ必要カアリマス依テ之レカ特設方ヲ御影郵便局へ前年及本年兩度ニ申込ヲ致シマシタル處承認ヲ得ス右ハ不得已事由ノアルコトト被存マスカ本校ニテハ必要上屢々交渉ノ結果同局ヨリ電話規則第十一條第五號ニ基キ本校ヨリ建設費一五〇圓寄附金一一〇圓計金二六〇圓出金セハ建設可致旨通知カアリマシタ就テハ經常費校館費ヨリ之ヲ支出スルハ正當ナルヤ否疑義ヲ生シマシタカラ御高裁ヲ仰ク(大正十二年十月十八日會發一〇五號神戸高等商船學校長照會)

電話規則(參照)

- 第十一條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於ケル電話ノ開通ハ申込登記ノ順番ニ依ラス之ヲ繰上タルコトヲ得
- 一 官廳、公署及公益事業ノ用ニ供スルモノニシテ特急架設ノ必要アリト認メタルモノ
- 二 工事施行上ノ都合ニ依ルモノ
- 三 連接加入ノ申込
- 四 現ニ加入者タルモノ又ハ申込登記ノ順番ニ依リ開通スヘキ加入申込者ト共同線加入トナリ得ヘキモノ
- 五 加入者所轄遞信局長ノ指示スル所ニ依リ電話施設ニ要スル費用又ハ物件ヲ政府ニ寄附スル場合ノ申込

●電話使用料等後納ノ件

明治三十一年四月九日
東京電話交換局通牒

電話使用料及附加使用料其ノ他電話線接續料機械移轉料等ハ官廳ニ對シテハ今般總テ後納ノ事ニ相成候條爲念此ノ段及御通知候也

追テ第一期分電話使用料未納ノ向ハ本文ニ據リ御了承ノ上當加入期末日迄ニ御拂込相成可然候此ノ段申添候也

●現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ要スル小切手用紙書類及印章ノ保管出納ニ關スル件

昭和四年一月二十三日大藏大臣通牒
同 年五月十三日會計課長移牒

預金制度採用ニ伴フ會計制度改正後現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ要スル小切手用紙、書類及印章ノ保管出納及之カ取扱方ニ付テハ常ニ責任者ヲシテ之ニ當ラシメ嚴密ナル監査ヲ勵行セラレ居候儀ト被存候處爾來不正小切手等ニ因リ現金又ハ有價證券ノ詐取セラレタルモノ別紙添附ノ件數ニ上リ是カ原因ヲ考究スルニ大半ハ支出官又ハ出納官吏自ラ之カ執行ノ任ニ當ルヘキモノナルニ不拘部下ノ職員ニ之ヲ委嘱シ其ノ專行ニ委シタルニ基因スルモノ多ク甚タ遺憾ニ存セラレ候因ヨリ是等事務ノ執行ニ關シ

●資金異動方ヲ大藏省ヘ報告ノ件

昭和二年十二月二十二日
藏計七六六號主計局長通牒

貴省所管各大學並學校及圖書館ノ資金ノ異動ニ關シテハ自今左記ノ區分ニヨリ各大學並各學校及圖書館毎ニ異動ノ都度御報告相成様致度

記

- 一 土地、建物、工作物等ノ不動産ノ受入又ハ拂出ニ付テハ資金ノ種類、所在地、口座、種目、構造、坪數、價格及異動ヲ生シタル理由等
 - 二 有價證券ノ受入ニ付テハ資金ノ種類、證券ノ種類、券面種類及枚數、額面額、受入價格及受入ヲナシタル理由等
 - 三 有價證券ノ拂出ニ付テハ資金ノ種類、證券ノ種類、券面種類及枚數、額面額、當初受入價格、拂出(償還ノ場合ヲ含ム)額、拂出年月日及拂出ヲ爲シタル理由等
 - 四 支拂元受高ノ轉換ニ付テハ轉換ヲ爲シタル者及之カ受入先、其ノ増減額、轉換年月日及轉換ヲ爲シタル理由等
- 尙毎年度末ニ於テ第一項ノ不動産ニ付テハ會計毎ニ(大學會計ニアリテハ各大學毎ニ)土地、建物並工作物ノ價格及其合計額ヲ現在資金(不動産)價格表トシ、現金並第二項及第三項ノ有價證券ニ付テハ會計毎ニ各大學並各學校及圖書館毎ニ現金現在高、有價證券(額面、價格)及其合計額ヲ現在資金(現金、有

事實上ノ補助者ヲ使用スルハ勿論已ムヲ得サルモノモアルヘキモ小切手用紙其ノ他ノ書類及印章ノ保管出納並小切手其ノ他ノ書類ニ對スル署名又ハ捺印ノ事務ハ將來必ス責任者ヲシテ自ラ處理セシメ過誤ナキヲ期セラレ度尙一面之カ監査ヲ勵行シ會計事務取扱ニ付完壁ヲ期セラレ候様致度萬一不正事件發生ノ場合ハ別紙要項ニ依リ御處理相成度此段及通牒候也

現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ關スル不正事件處理要領
一、現金又ハ有價證券ノ拂渡ニ關シ小切手又ハ書類ノ偽造變造等ニ依ル不正事件アリタルトキハ直ニ之ヲ關係日本銀行其ノ他ノ拂渡場所ニ通知シ之カ拂渡ヲ停止セシメ同時ニ其ノ事件ノ概要ヲ大藏大臣ニ通知スルコト

二、前號ノ場合ニ於テ既ニ日本銀行其ノ他ノ拂渡場所ニ於テ現金又ハ有價證券ノ拂渡済ナルトキハ直ニ左ノ事項ヲ大藏大臣ニ通知スルコト此ノ場合ニ於テハ大正十一年十一月二十八日付藏第一三二〇二號ニ基ク通知ハ之ヲ爲スコトヲ要セサルコト

記

- 一 犯人ノ職業、住所、氏名(政府部内ニ勤務セル者ナルトキハ勤務局課及官職)
- 二 被害ノ日時及場所
- 三 被害金額又ハ被害有價證券面額(別紙調書添付ノコト)
- 四 被害事實發見ノ動機

價證券)調書トシテ御報告相成度

備考 一項乃至三項ハ從來通り監査掛ニ於テ取扱ヒ四項ニ關シテハ豫算掛ニ於テ取扱フコトニ決定

●帝國學士院學術研究獎勵金委任經理

二關スル件

大正四年六月
法律第十三號

帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得委任經理ニ係ル會計ノ檢査ハ會計檢査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附 則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

●帝國美術院美術研究獎勵金委任經理

二關スル件

大正十四年四月
法律第四十號

帝國美術院ニ於テ美術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國美

第四章 資金及委任經理

術院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得
委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依
ル

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大學並直轄諸學校ニ於ケル獎學寄附
金委任經理規程

明治四十年三月 大正一二年
文部省訓令第四號 一九號改正

第一條 大學特別會計法第十條並學校及圖書館會計法第十一條

ニ依リ大學並直轄諸學校ニ於ケル獎學寄附金中左ニ掲クルモ
ノハ其ノ寄附ノ全額ヲ當該大學總長學長又ハ學校長ニ交付シ
其ノ經理ヲ委任ス

一 學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ學費
二 學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ圖書機械、器具標本ノ購
買費

三 前各號ノ外學生生徒ノ獎學トナルヘキ經費

前項ノ寄附金トハ現金有價證券ヲ云フ

第二條 經理委任ニ係ル現金有價證券ハ確實ナル方法ニ依リ之
ヲ管理シ寄附ノ條件ニ從ヒ使用スヘシ
前項ノ管理方法ハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ受テヘシ

附 則

第三條 當該大學總長、學長、學校長ハ別紙様式ノ獎學寄附金
受拂簿ヲ設ケ經理委任ニ係ル現金有價證券ノ受高、拂高、殘
高並寄附ノ條件ヲ明瞭ナラシムヘシ

第四條 明治三十九年度以前ニ於ケル獎學貸費ノ返納金又ハ經
理委任ニ屬スヘキ圖書、機械、器具、標本其ノ他不用物品ノ
賣却代ニシテ明治四十年度以後ニ收入スルモノハ總テ其ノ經
理ヲ委任シタルモノトス

追録第十一號

●海外收入金及支拂金報告ノ件

大正十三年五月九日
直照會一七號會計課長移牒

金融事情調査上必要有之例年ノ通り左記ノ事項承知致度候ニ付
御多忙中御手数數別紙各項へ御記入ノ上御回報相煩度此ノ段及
御依頼候也(大正十三年四月十九日藏西六)

(別紙)

一 大正十二年申貴省所管海外直接收入金及海外支拂金(輸
入)

品代ニシテ貿易表ニ)並其ノ費目

注意 直轄各部ニ於テハ本件報告書ハ本省ヨリノ照會ニヨリ提出スヘ
キモノトシテ處理ヲ要ス

●海外拂ニ關スル調査提出方ニ關スル

昭和十三年二月
會計課長通牒

政府海外拂ノ調査並節約ニ關シテハ大正十四年各省海外拂節約
協議會設置以來之ヲ實行シ來レル處今後一層之ガ改善ヲ計リ其
ノ趣旨ノ徹底ヲ期シ以テ實效ヲ擧クル爲昭和十二年度各省海外
拂節約協議會ノ決定ニ基キ昭和十三年度以降提出セラルヘキ海

合計	歳出金	預託金	保管金	供託金	計
金額	八、八三三・三	三、八四〇・四	四、六八六・九	八、一〇五・六	一〇〇、四〇・二
件數	一三	一	五	五	二四

六、會計事務補助者ニ於テ拂渡證明書ヲ偽造シ主任官ノ印章ヲ
盜捺證明書ヲ偽造シ同時ニ領收證ヲ偽造シテ日本銀行ニ呈示
有價證券ヲ詐取シタルモノ

政府保管有價證券額面 八七、三〇〇圓(件數一)

備考 前各號ニ於ケル件數ハ犯罪件數ヲ示ス

●海外送金方

明治二十一年六月
會計課長通牒

從來海外へ送金ヲ要スル際外務省ヲ經由スル場合モ有之候處今
回同省ヨリ爾今受領者へ直チニ送金相成度若又宿所不明瞭ノ節
ハ Care of Japanese Consulate ト封狀へ記載相成候ハハ郵
送差支ナキ旨通牒ス

外拂ニ關スル調書ハ左記要項ニ依リ調製相成度

記

- 一、海外拂ヲ物品費ト非物品費トニ分ツ
 - (一) 物品費ヲ直接拂、間接拂トニ分ツ
 - (イ) 直接拂トハ外國品ヲ海外ニ直接注文シテ海外ヨリ購入スルモノ及海外ニ於テ購入スルモノ
 - (ロ) 間接拂トハ内地商人ノ手ヲ經テ外國品ヲ購入スルモノ非物品費
 - (二) 旅費(外國旅費等)
 - (イ) 給與(外國在勤者ニ對スル給與)
 - (ロ) 給與(物品購入ヲ除ク)
 - (ハ) 其ノ他外國ニ對スル物品購入代金以外ノ支辨
- (三) 內國品ト外國品トノ區分
 - (イ) 內國品トハ左記ノモノヲ云フ
 - 1. 全部內國產原料ヲ以テ内地ニ於テ製造シタル物品
 - 2. 內國產及外國產原料ヲ以テ内地ニ於テ製造シタル物品
 - 3. 全部外國產原料ヲ以テ内地ニ於テ製造シタル物品
 - 4. 外國品ニ加工シテ内地ニ於テ製造シタルモノニシテ外國品ノ價額ガ製品價額ノ約七割以下ヲ占ムル物品
 - (ロ) 外國品トハ右以外ノ物品ヲ云フ

(帝國大學ノ分)

二、通常議會ニ提出セラレタル豫算案ニ基キ當該豫算年度ノ海外拂豫定額調(別紙様式一ニ依ル)ヲ二月末日迄ニ本省ニ提出スルコト

(帝國大學ヲ除ク以外ノ全部局ノ分)

當該年度標準豫算額(前年度豫算額ニ當然増減額ヲ加除シタル金額)及臨時部ニ付テハ別途内示豫算案ニ基キ海外拂豫定額調(別紙様式一ニ依ル)ヲ二月末日迄ニ本省ニ提出スルコト追加豫算ニ付テハ別途豫算案ノ内示ニ基キ十五日以内ニ前項ニ準スルコト

備考 在外公館、海外派遣艦船、海外駐屯部隊又ハ海外駐在官吏ノ用ニ供スルタメ現地ニ於テ購入スル外國品ニ付テハ當該官吏ニ對スル資金ノ交付ヲ非物品費ニ掲上スルヲ以テ足ルモノトス

三、前二號ニ依リ提出セラレタル海外拂豫定額調ノ外ニ外國品ヲ購入セントスルトキハ豫メ本省へ協議スルコト(別紙様式二ニ依ル)

本省ニ於テハ之ヲ相當期間分ヲ取纏メ大藏省へ協議ス

(イ) 右ニ依リ協議スヘキモノハ一件五十圓以上トス

(ロ) 在外公館、海外派遣艦船、海外駐屯部隊又ハ海外駐在官吏ノ用ニ供スルタメ現地ニ於テ購入スル外國品ニ付テハ協議ヲ要セズ

四、海外直接拂(在外官吏ニ對スル資金前渡ヲ含ム)豫定期調(別紙様式三ニ依ル)ヲ三ヶ月毎ニ豫メ(四、五、六月ノ分ヲ三月中ニ七、八、九月ノ分ヲ六月中ニ以下之ニ做フ)提出スルコト

追録第十一號

出ノコト

五、海外拂實蹟調(別紙様式四ニ依ル)ヲ每三ヶ月分ヲ取纏メ翌月七日迄ニ提出スルコト

其ノ年度ニ屬スル翌年四月分ハ五月七日迄ニ提出ノコト

備考 二ノ備考参照

六、內國品充用品目ニ該當スル外國品購入理由調記載方

- 一、本調ハ品名、規格及購入理由等異ナルモノ毎ニ別紙トスルコト
 - 二、種目欄ニハ種目及番號ヲ附スルコト
 - 三、購入理由欄ニハ特ニ左記ヲ具體的且ツ詳細ニ記載シ絶體的必要ニ依リ購入シタルコトヲ説明スルコト
 - (イ) 內國品使用、保存上ノ不備及缺陷等
 - (ロ) 内外國品ノ優劣ノ保存使用上ニ及ホス影響
 - 四、海外拂豫定額調、外國品購入豫定調及海外拂實蹟調ニ記載ノ品目ト明瞭ニ對照シ得ル様符號等ヲ附スルコト
- 備考 一、左記通條ハ昭和十三年四月一日以降之ヲ廢止ス

記

- 大正十四年五月會計課長通牒
- 昭和四年四月官會四九號會計課長通牒
- 同五年八月發會四一八號會計課長通牒
- 同十二年七月官會一四一號文部次官通牒
- 一、昭和十二年度ニ屬スル分ハ仍從前ノ通牒ニ依リ提出ノコト

(様式一) 昭和 年度海外拂豫定額調

(用紙ハ日本標準規格表B列4番型)

科 目	昭和 年度		昭和 年度		比較増減 (△減)
	豫定	實際	豫定	實際	
物 品 費	直接拂	間接拂	直接拂	間接拂	円
	円	円	円	円	
何々會計					
	經常部				
何々(款)					
	種類別				
品名別					
	經常部計				
臨時部					
	何々(項)				
種類別					
	品名別				
臨時部計					
	總計				

非物品費	何々會計	經常部	何々(款)	何々(項)	何々(目)	何々(節)	經常部計	臨時部	何々(款)	何々(項)	何々(目)	何々(節)	臨時部計	總計

備考 (1) 直接拂ニ付テハ支拂先國別、間接拂ニ付テハ原産國別ニ依リ滿洲(關東州ヲ含ム)北支及其ノ他ニ區分シ夫々別紙ニ調製スルモノトス

(2) 物品費中内國品充用品目ニ該當スル外國品ノ購入ニ付テハ左記ニ依リ別ニ購入理由ヲ添付スルモノトス

内國品充用品目ニ該當スル外國品購入理由調

種目	品名	製造者	規格、型式	數量、金額	購入理由	備考

(樣式二) 昭和 年度外國品購入豫定調(第 回協議) 自 月至 月

款項	種類	品名	直接拂		間接拂		合計	購入理由
			數量	金額	數量	金額		
經常部								

何々(款)	何々(項)	何々	何々	經常部計	臨時部	何々(款)	何々(項)	何々	何々	臨時部計	總計

備考 (1) 直接拂ニ付テハ支拂先國別、間接拂ニ付テハ原産國別ニ依リ滿洲(關東州ヲ含ム)北支其ノ他ニ區分シ夫々別紙ニ調製スルモノトス

(2) 内國品充用品目ニ該當スル外國品ノ購入ニ付テハ左記ニ依リ別ニ購入理由ヲ添付スルモノトス

種目	品名	製造者	規格、型式

數量、金額	購入理由	用途	備考

(樣式三) 昭和 年度自 月至 月海外直接拂豫定期調

會計名	何々會計	支拂先				合計
		國別	月中	月中	月中	
物品費別	物品費					
非物品費	非物品費					
合計	合計					

計

備考 支拂先國別ニ付テハ滿洲(關東州ヲ含ム)北支及其ノ他ニ區分シテ掲記スルモノトス

(様式四) 昭和 年度自 月 海外拂實蹟調

(用紙ハ日本標準規格表B列4番型)

物品費

款項	種類	品名	直接拂		間接拂		合計		外國購入品
			数量	金額	数量	金額	数量	金額	
何々會計				円		円		円	
經常部									
何々(款)									
何々(項)									
經常部計									
臨時部									
何々(款)									
何々(項)									
臨時部計									
總計									

非物品費

(用紙ハ日本標準規格表B列4番型)

款項	目	節	金額	摘要
何々會計			円	
經常部				
何々(款)				
何々(項)				
經常部計				
臨時部				
何々(款)				
何々(項)				
臨時部計				
總計				

備考 (1) 直接拂ニ付テハ支拂先國別、間接拂ニ付テハ原産國別ニ依リ滿洲(關東州ヲ含ム)北支及其ノ他ニ區分シ夫々別紙ニ調製スルモノトス

(2) 物品費中内國品充用品目ニ該當スル外國品ノ購入ニ付テハ協議會ノ審定又ハ大藏省トノ協議ヲ經ザルモノニ限り左記ノ様式ニ依リ別ニ購入理由調ヲ添付スルモノトス

内國品充用品目ニ該當スル外國品購入理由調

(用紙ハ日本標準規格表B列5番型)

種目	品名	製造者	規格、型式	數量、金額	購入理由	用途	備考

備考 海外拂豫定額調ニ於テ本理由書提出セル(場合ハ其ノ内容ニ變更無キ限リ)種目、品名ノミヲ記入スルヲ以テ足ルモノトス

●關稅定率法第七條第十號ノ適用方ニ關スル件

大正十五年六月二十四日藏稅一四二七號大藏次官照會 八月十四日官會一三三號文部次官通牒 關稅定率法第七條第十號ノ適用方ノ件ニ關シ大藏次官ヨリ別紙寫ノ通照會有之タルニ付右様御了承ノ上御處理相成度此段申進ム (別紙) 今回改正セラレタル關稅定率法第七條第十號ニ依ル學校其ノ他ノ營造物ニ陳列スル標本又ハ參考品ノ免稅認許方ニ關シテハ差

當リ大體稅關ニ於ケル從來ノ取扱振ヲ參酌シテ行フ方針ニ有之候ヘ共同時ニ右規定改正ノ趣旨ニ鑑ミ假令從來稅關ニ於テ免稅セラレ居タルモノト雖モ苟クモ陳列ヲ主タル目的トスルモノト認メラレサル限り之カ認許ヲ拒否致スヘキハ勿論今後ハ一般ニ右規定ヲ嚴ニ勵行スヘキ意嚮ニ有之候ニ就テハ從前稅關ニ於テ免稅ノ事例アリタル學校備付ノピアノ如キモノニ付テモ特殊ノ學校以外ニハ現ニ認許申請中ノモノ及規定改正前購入ノ注文ヲ發シタルコトノ明確ナルモノノ外今後ハ之ヲ免稅セサル見込ニ有之候條右方針ニ關シ貴管下學校其ノ他關係ノ向ニ可然御通達相成様致度此段及照會候也 追テ學校其ノ他カ外國ヨリ標本又ハ參考品ヲ購入セントスル際其ノ間ニ商人ノ介在スル場合多キ結果從來往々弊害ヲ生シタル事例ニ鑑ミ今次ノ改正規定ニ於テハ物品ノ免稅認許申請及其ノ輸入手續ヲ直接學校其ノ他當事者ノ名ヲ以テ爲サシメ且物品ノ豫定輸入時期ヲ明告セシムルコトト致シタル儀ニ付今後ハ仲介者ヲシテ認許書ヲ惡用セシムルカ如キ弊ナキ様併セテ御示達相成度申添候

追錄第十一號

第四節 預金、保管、寄託、有價證券

●預金部預金法

大正十四年三月 法律第二十五號

- 第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス
- 第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充ツヘシ
- 第三條 預金部預金ノ種類、利子及取扱ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ
- 預金部資金運用委員會ノ組織權限及預金部資金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

追錄第九號

預金規則、明治二十三年法律第七十五號及明治三十九年勅令第二百一十一號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人ノ力拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

●預金部預金取扱規程

大正十一年二月 昭和十一年 大藏省令第六號 一九號改正

第一章 總則

- 第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ
- 第二條 預ケ人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ
 - 一 官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官
 - 二 法人ニ係ルモノハ其ノ理事者

預金部預金及購入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ

第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二章 預金ノ種類

第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス

第三條ノ三 普通預金ハ預ケ人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス

定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預ケ人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第三章 預金ノ拂戻

第四條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ爲サムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂戻書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂戻書ヲ添へ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ
定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ
預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添へ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條 (削除)

第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利金受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條ノ二 預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

第四章 預金ノ拂戻

第九條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添へ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第十二條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章 預金ノ利子

第十二條ノ二 普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ但

シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

一 普通預金 年七厘五毛

但シ法律勅令ニ依リ現金ノ預入ヲ預金部ノミニ限定セラレタル資金ニ屬スル預金ハ年一分

二 定期預金 年二分五厘

但シ法律勅令ニ依リ現金ノ預入ヲ預金部ノミニ限定セラレタル資金ニ屬スル預金ハ年三分

第三條ノ三第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利子ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利子ト同額以下ノ利子ヲ付スルコトヲ得

第十三條 普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルモノトス

第十三條ノ二 預ケ人定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス

第十四條 預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元

加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條ノ二 預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利子組入通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ定期預金利子ノ普通預金組入額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ヲ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ

有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第十九條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ

第二十條 (削除)

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條 預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ヲ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二十四條 預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章 證明

第二十五條 預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ預金部預金ノ受入及拂渡ノ請求書並支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添へ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨリ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 雜則

第二十六條 日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ

第二十七條 預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込濟通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込濟通知書ヲ亡失

又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第二十九條 預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

附則

第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 預金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ從前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條 本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

附則 (大正十五年大藏省令第九號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本令施行前預入ニ係ルモノニ付テハ其ノ預ケ人ハ本令施行後一月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス

預ケ人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス
大正九年九月大藏省告示第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和五年大藏省令第十七號)

本令ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

附則 (昭和六年大藏省令第三十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

附則 (昭和七年大藏省令第二十二號)

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

附則 (昭和十年三月大藏省令第五號)

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十一年三月大藏省令第七號)

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十一年六月大藏省令第十九號)

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

第一號書式 預金部預金拂込書(用紙寸法半紙判半裁)

預金部預金拂込書

第 號
金 限 年 月 日
預入根據法令
上記金額預金部定期預金トシテ拂込候也
年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者住所氏名)印

日本銀行(何店)宛

第一號ノ二書式 預金部預金拂込書(用紙寸法半紙判半裁)

預金部預金拂込書

第 號
金 預入根據法令
上記金額拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者住所氏名)印

日本銀行(何店)宛

第二號書式 保管金振込書(用紙寸法半紙判半裁)

保管金振込書

金

右某廳ノ保管金トシテ振込候也

年 月 日 住所

氏 名 印

日本銀行(何店)宛

備考 本書ハ之ヲ横書スルコトヲ得

有價證券償還金預金組入請求書

金 證券何枚 内譯下記ノ通

上記償還金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ組入相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

内 譯 (證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

證券種別	券面、記 番 號 及 回 數 別	枚 數	券面額	割増金	月割利子	受 預 高

(用紙寸法
半紙判半裁)

第四號書式

有價證券償還金預金組入請求書

有價證券利子預金組入請求書

金 内譯下記ノ通

上記利子金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ元加相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

證券種別	券面額	利子額	内 譯						
			所得稅賦課		同 免 除				
			券面額	利子額	所得額	券面額	利子額		

(用紙寸法
半紙判半裁)

第三號書式

有價證券利子預金組入請求書

預金部定期預金更新通知書

金

預入年月日 年 月 日

期 限 年 月 日

預入根據法令

上記預金期限到來後引續キ 年 月 日迄

預入繼續可致候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者住所氏名)印

日本銀行(何店)宛

(用紙寸法
半紙判半裁)

第四號ノ二書式

預金部定期預金更新通知書

所得稅免除證券利子證明書

金

利子金額

内 譯

證券種別	記番號及 回 數 別	券 面 額	利 子 額

上記證券ハ所得稅ヲ免除スヘキ所有者ノ分ナルコトヲ
證明ス

年 月 日

貯金局長氏名印

(用紙寸法
半紙判半裁)

第三號書式附屬

所得稅免除證券利子證明書

預金部預金利子支拂請求書

金 定期預金利子
預入年月日 年 月 日
期 限 年 月 日
預入根據法令

上記金額支拂相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事) 印
者住所氏名

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事) 印
者住所氏名

日本銀行(何店)宛

第六號ノ二書式

預金部預金利子支拂請求書

(用紙寸法)
(半紙判半裁)

預金部預金利子元加請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子元加ヲ要スルモノニ付預金ニ
元加ノ手續相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

大藏省理財局長宛

上記金額元加ヲ要ス

年 月 日

大藏省理財局長氏名 印

日本銀行宛

第七號書式

預金部預金利子元加請求書

(用紙寸法)
(半紙判半裁)

預金部預金拂戻請求書

金 定期預金
預入年月日 年 月 日
期 限 年 月 日
預入根據法令

上記金額拂戻相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事) 印
者住所氏名

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事) 印
者住所氏名

日本銀行(何店)宛

第五號書式

預金部預金拂戻請求書(用紙寸法)
(半紙判半裁)

預金部預金預入替請求書

金

預入替受入官廳

同 受入店

上記ノ通預入替相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 印

日本銀行(何店)宛

第六號書式 預金部預金預入替請求書

(用紙寸法)
(半紙判半裁)

有價證券購入請求書

下記證券 月 日ノ時價ヲ以テ購入保管相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名 〇

大藏省理財局長宛

証券種別	券面額	券面別	枚 數	見込相場額	備 考

第十號書式 有價證券購入請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

預金部預金利子支拂請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子支拂ヲ要スルモノニ付支拂ノ
手續相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 〇

大藏省理財局長宛

上記金額支拂ヲ要ス

年 月 日

大藏省理財局長氏名 〇

日本銀行宛

上記金額領收候也

年 月 日

貯金局長氏名 〇

日本銀行宛

第八號書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

預金部預金利子支拂請求書

金

保管金(又ハ供託金)利子

上記金額支拂相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ某供託局長氏名) 〇

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

住 所

氏 名 〇

日本銀行(何店)宛

第九號書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半裁)

第十一號書式 有價證券購入済通知書(用紙寸法 縦八寸五分 横一尺五寸)

表書ノ通大藏省ヨリ通知ヲ受テ候ニ付預金部預金帳及預金購入有價證券保管帳差出候同購入代價及有價證券ノ記入相成度候也

年 月 日

日本銀行宛

貯金局長氏名宛

第 號
有價證券購入済通知書
(郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

上記證券購入済ニ付通知ス
年 月 日
大藏省理財局長氏名宛
貯金局長宛

第 號
有價證券購入済通知書
(郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

上記證券購入済ニ付通知ス
年 月 日
大藏省理財局長氏名宛
日本銀行宛

第 號
有價證券購入済通知書原符
(郵便貯金)

證券種別 券面別 購入代金

貯金局長氏名
購入済通知書
年 月 日

追録第九號

第十三號書式 預金購入有價證券受領證書

預金購入有價證券受領證書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何 枚
内譯下記ノ通

上記證券領收候也
年 月 日

貯金局長氏名宛

日本銀行宛

券面、記 番號及回 數別	枚 數	券面、記 番號及回 數別	枚 數	券面、記 番號及回 數別	枚 數	券面、記 番號及回 數別	枚 數

(用紙寸法 半紙列半裁)

第十二號書式 預金購入有價證券拂戻請求書

預金購入有價證券拂戻請求書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何 枚
内譯下記ノ通

上記證券拂戻相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名宛

日本銀行宛

内 譯(證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

券面、記番號 及回数別	枚 數	券面、記番號 及回数別	枚 數	券面、記番號 及回数別	枚 數

(用紙寸法 半紙列半裁)

第十四號書式 預金取扱店變更申込書 (用紙寸法 半紙判半裁)

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事若ハ) 何々總代住所氏名

日本銀行(何店)宛

預金 記 預金現在高

●歳入歳出外現金出納官吏ト預金部預金取扱主任官ト同一人ニ命令ノ件

大正十一年六月二十三日 發會一七五號會計課長通牒

保管ニ屬スル現金ノ取扱者タル歳入歳出外現金出納官吏ト預金部預金取扱規程第二條ノ取扱主任官トハ責任ノ關係上同一人ニ御命令相成方穩當ナルニ付右様御處理相成度依命此段通牒ス

●預金利子算出方

昭和三年十一月十五日 發會五〇九號會計課長通牒

昭和十一年四月二十二日發會一四二號 同年六月二十三日發會二〇八號會計課長通牒改正

大學特別會計並學校及圖書館特別會計資金ノ受拂手續第七條ニ依ル維持資金所屬預金部預金利子ノ計算方ハ各部區々ニ涉リ毎年ノ利子處分ニ際シ事務進捗上支障有之ニ付左記ニ據リ御計算相成様致度御參考迄ニ此段及申進候也

記

一、普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄左ノ區分ニ依リ日割計算スルコト

但一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

一、普通預金 年一分

追録第九號

追録第十號

(別紙)

端數利子計算方法

(一) 二年九月拂 元金×日數×利率+365日=利子 (半年ニ依ルモノ)

(二) 三年三月拂ノ一 元金×日數(自拂込翌日)×利率+365日+元金×日數(自一月一日)×利率+365日=利子 (二年自九月一日引受ニシテ平兩年ニ跨ルモノ)

(三) 三年三月拂ノ二 元金×日數×利率+366日=利子 (三年自一月一日引受ニシテ四年ニ依ルモノ)

(四) 三年九月拂 同 上 (四年ニ依ルモノ)

(五) 四年三月拂ノ一 元金×日數(自拂込翌日)×利率+366日+元金×日數(自一月一日)×利率+365日=利子 (三年自九月一日引受ニシテ四年兩年ニ跨ルモノ)

(六) 四年三月拂ノ二 元金×日數×利率+365日=利子 (四年自一月一日引受ニシテ半年ニ依ルモノ)

- 一、定期預金 年三分
- 一、定期預金ヲ期限前拂戻シタルトキハ其ノ都度大藏省ニ於テ決定シタル利率ニ依リ前項ノ通日割計算スルコト
- 一部拂戻ノ場合ニ於テハ其ノ殘額ニ對スル分ハ依然年三分ノ利率ヲ以テ前項ノ通日割計算スルコト
- 一、預金期間カ平年ト閏年トニ亙リタル場合ハ前年ノ分ト後年ノ分ニ分チテ日割計算シ各口座毎ニ區分整理スルコト
- 一、普通預金ハ一年度ヲ通シテ一口座トシ定期預金ハ各預金毎ニ一口座トス
- 一、定期預金ノ期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日等日本銀行ニ於テ取引ヲナササル日ニ當リタルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス
- 一、尙別紙例等ヲ参照ノコト

現金受拂調書 (普通預金)

年月日	摘要	受入金額	拂出金額	残額	備考
昭和年月日	繰越	八,五〇六・五二		八,五〇六・五二	
〃 甲 三,三	受入残餘	五七・七二		九,〇九三・三三	
〃 五,〇	定期預金		八,〇〇〇・〇〇	一,〇九三・三三	
〃 五,三	公債		七五〇・六〇	三二二・七三	
〃 六,二	小切手		七五〇	三二二・七三	
乙 一,三〇	未済金	七五〇		三二二・七三	
〃 二,一九	定期預金		一,五〇〇・〇〇	一,八四九・三三	
〃 二,二七	土地購入		一,八〇〇・〇〇	一九三三	
〃 三,三	支拂			一九三三	

現金受拂調書 (定期預金)

年月日	摘要	受入金額	拂出金額	残額	備考
昭和年月日	新	五,五〇〇・〇〇		五,五〇〇・〇〇	期限年月日
〔甲〕 三,三	普通預金ニ			四,〇〇〇・〇〇	昭和乙三,三
〔乙〕 二,二	普通預金ニ		一,五〇〇・〇〇	四,〇〇〇・〇〇	期限前拂戻
〔甲〕 五,三	普通預金ニ	八,〇〇〇・〇〇		八,〇〇〇・〇〇	昭和乙三,三

ハ口座別ノ印

平年ノ場合

預金利子明細表 (普通預金)

元金	期間	積數	利率	利子額	備考
八,五〇〇	四日	三三〇・八〇〇			
九,〇九三	二日	一九〇・九三三			
一,〇九三	二日	二一・八四〇			
三二二	二日	七六・六四			
三二二	二日	六・九八〇			
一,八四九	八日	二四・九三			
一九三三	三日	六〇・八			
計		六三三・三六	一分	一七・七三	

預金利子明細表 (定期預金)

元金	期間	積數	利率	利子額	備考
四,〇〇〇	三六日	一,〇〇〇・〇〇	三分	一三〇・〇〇	大藏省ノ決定シタル利率ニヨル
一,五〇〇	三五日	四八七・五〇〇	一分	一三三・五六	
計		一,四八七・五〇〇		二六三・五六	
八,〇〇〇	三四日	二,四三三・〇〇〇	三分	一九八・九〇	
計		三,九二〇・五〇〇		三三三・四六	

閏年ノ場合 (乙年ヲ閏年トス)

預金利子明細表 (普通預金)

元金	期間	積數	利率	利子額	備考
八,五〇〇	四日	三三〇・八〇〇			
九,〇九三	二日	一九〇・九三三			
一,〇九三	二日	二一・八四〇			
三二二	二日	七六・六四			
三二二	二日	六・九八〇			
計		六三三・三六	一分	一七・七三	
八,〇〇〇	九日	二,四三三・〇〇〇	三分	一九八・九〇	
計		三,〇六六・三六		三三三・四六	

預金利子明細表 (定期預金)

元金	期間	積數	利率	利子額	備考
四,〇〇〇	三六日	一,〇〇〇・〇〇	三分	一三〇・〇〇	
一,五〇〇	三五日	四八七・五〇〇	一分	一三三・五六	
計		一,四八七・五〇〇		二六三・五六	
八,〇〇〇	三四日	二,四三三・〇〇〇	三分	一九八・九〇	
計		三,〇六六・三六		三三三・四六	

●預金利子請求書ニ添付スヘキ書類ノ件

昭和三年四月十三日照會一五號
會計課長 通牒

貴學(校、館)ニ於テ昭和三年四月一日以降ニ御提出ノ預金部預金利子處分請求書ニハ利子計算ノ根據トナルヘキ左記様式書類

御添附相成度此段照會ス

記ノ一
維持資金現金受拂調書

年月日	摘要	受入金額	拂出金額	額	備考

記ノ二
預金部預金利息明細表

預金高	日數	積數	利率	利息額	備考
計					

追テ記ノ一、維持資金現金受拂調書及記ノ二預金部預金利息明細表ハ定期、普通預金各別紙トシ記ノ一維持資金現金受拂調書ハ日本銀行ノ證明ヲ得テ添附御送付相成度

●預金利息ノ處理ニ關スル件

大正十一年五月十一日
發會一、一、一號會計課長通牒

維持資金ニ屬スル預金利息ヲ經常歲入ニ組入ノ件ニ付テハ大正十一年三月官會三一號通牒資金ノ受拂手續第十條(現行第七條)ノ趣旨ニ準シ維持資金利息ノ拂出請求ヲ要スルニ付從前ノ例ニヨリ預金利息處分請求書ヲ御提出相成度尙特別資金元加ノ手續ハ日本銀行(支店又ハ代理店)ニ於テ相當處理セラルル次第ナルヲ以テ右様御了知相成度又右處分請求書未提出ノ分ハ處理上ノ都合モ有之ニ付至急御送付相成度爲念此段通牒ス

追テ特別資金元加ノ手續ニ關シテハ大藏省令第六號(本年二月一日官報)預金部預金取扱規程第十四條及大藏省令第十號(本年二月一日官報)日本銀行國庫金取扱規程第五十九條等御參照相成度

●保管金規則

明治二十三年一月
法律第一號 明治三十三年
一八號改正

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公金私金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但シ別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其ノ義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

●保管金取扱規程

大正十一年二月
大藏省令第五號

大正一五年
八號改正

第一章 總則

第一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條 取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行

行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

第四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ

第四條ノ二 出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條及第七十二條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 保管金ノ提出
第五條 保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添へ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添へ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込濟通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添へ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第六條 取扱官廳前條ノ規定ニ依リ保管金ノ提出ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ保管金受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ

第三章 保管金ノ拂渡

第七條 保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第八條 保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九條 保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ毎年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金

第十四條 乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條 前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第十六條 政府ノ所得ニ歸シタル保管金ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條 主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

第十八條 第十六條ノ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ

全額ノ拂渡ヲ受クル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受クル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

第十條 前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依リ預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第十二條 甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條 歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第十五條 保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス
前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式 保管金受領證書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

保管金受領證書

第 號

保管ノ事由

上記金額領收候也

年 月 日

何 某 宛

上記金額領收候也

年 月 日

住 所

氏 名

某廳取扱主任官宛

備考一 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得
二 受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

式 書 面 裏

(注意事項)

一 受取人ハ表面領收證書ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ
二 受取人ノ印章ハ請求書ニ捺捺シタルモノト同一受取人カハ本書刷込ニ委任狀ヲ請求ヲ爲サムトスルトキハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ
三 代理人カハ本書刷込ニ委任狀ヲ差出スヘシ
四 代理人カハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ
五 代理人カハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ
六 貼附金額五圓以上ノ肩書ヲ附スヘシ
七 本銀行ハ本書ニ對シ一年ヲ過クルトキハ日小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ニ通知シ支拂ヲ停止ヲ請求スヘシ

印紙入

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ

年 月 日

住所

氏 名

第二號書式 保管金支拂通知書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

保管金支拂通知書

領收證

前記ノ金額領收候也

年 月 日

住所

氏 名

保管金受領證書日附番號

期滿失效年月日

小切手振出日附

小切手ヲ宛テタル店名

金

前記ノ金額日本銀行(何店)ニ於テ受領セラルヘシ

年 月 日

某廳取扱主任官氏名

何 某 宛

備考一 用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ
二 官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ
三 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ捺捺スヘシ
(注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

第三號書式 保管金利子請求書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

保管金利子請求書

年 月 日 第 號 保管金

支拂相成度及請求候也

年 月 日

住所

氏 名

某廳取扱主任官宛

金

保管金

迄年 分ノ割

年 月 日

日本銀行(何店)宛

前記金額領收候也

年 月 日

住所

氏 名

某廳取扱主任官氏名

日本銀行(何店)宛

●保管金支拂ノ爲振出シタル小切手喪失ノ場合ニ於ケル處理方ノ件

大正十三年八月二十一日
官會二二四號會計課長移牒

照會

保管金支拂ノ爲メ振出シタル小切手受取人ニ於テ喪失セシ等左記事項ニ關シ至急取扱方垂示相成度

- 一 小切手振出日附後一年ヲ經過セシ分ト否ラサル分トヲ問ハス燒失其ノ他喪失毀損セシ分ニ付テハ債主ハ如何ナル方法ニ依リ現金支拂ヲ受ケ得ヘキヤ
- 二 喪失等ニ因リ公示催告、除權判決アリタル分ニ付テ同上
- 三 現實所持セル小切手ニシテ漫然一年ヲ經過シタル後ノ分ニ付テ同上
- 四 前各號ノ小切手ニシテ保管金規則第一條ニ依ル五年ノ期間ノ經過セサル中ハ何時ニテモ現金支拂ヲ受ケ得ラルルヤ
- 五 前各號ノ分ハ前キニ債權者ニ對シ小切手ヲ振出ス場合現金出納簿ノ拂ニ立テアルニ付若シ一年經過ノ事由ニ依リ一旦歳入ニ編入スヘキモノト假定セハ帳簿上ノ整理其ノ後現金支拂ヲ受クル場合ノ記帳ノ要否及歳入科目ヲ指定セラレ度

(大正十二年十一月二十二日司法省會甲四〇九四號司法省會計課長ヨリ大藏省主計、理財兩局長宛照會)

回 答

- 一 小切手振出後其ノ小切手カ燒失、紛失其ノ他喪失毀損セシトキハ民法施行法第五十七條及民事訴訟法第七百七十七條以下ニ規定スル公示催告ノ手續ニ依リ當該小切手ヲ無効トスル除權判決ヲ受ケ其ノ小切手振出日附後未タ一年ヲ經過セサル場合ニ在リテハ小切手ノ支拂店ニ其ノ判決原本ヲ提示シ現金ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ヘク若シ又振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ在リテハ小切手ヲ振出シタル當該官廳ニ對シ償還ノ請求ヲ爲シ得ヘシ
- 二 前項ニ依ル
- 三 償還請求ニ必要ナル書類ヲ提出セシメ審査ノ上更ニ償還金トシテ之カ支拂ヲ受ケ得ヘシ
- 四 保管金規則第一條ニ所謂「五年」ノ時効ハ保管金支拂請求權行使ノ期間ニシテ此ノ期間内ニ於ケル其ノ請求ニ對シ現金ニ代ヘ小切手ヲ振出シタル場合ニ於テハ從來ノ保管金支拂義務ハ既ニ消滅シ爾後ハ單ニ小切手上ノ債務ヲ負擔スルニ過キサル次第ナレハ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルモノニ付テハ償還請求權ヲ行使シテ之カ支拂ヲ受クルノ外ナキモノトス
- 五 小切手振出日附後一年ヲ經過シタルモノニ付テハ之ヲ歳入ニ編入シ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ償還金ヨリ支出スルノ取扱ヲ採リ度保管金取扱規程改正方手續中ナリ

右ノ場合現金出納簿欄摘要欄ニ「何年何月何日何某渡小切手

一年經過ノ爲減」トシ拂預金額ニ當該金額ヲ朱書シ同時ニ摘要欄ニ「同上事由ニ依リ歳入納付ノ爲拂」トシ拂預金額ニ當該金額ヲ墨書スルモノトス

小切手振出日附後一年ヲ經過セルモノヲ歳入ニ編入スル場合ニ於ケル歳入科目ハ雜收入(款)雜入(項)小切手支拂未済金收入(目)トス

(大正十三年七月二十四日藏九二七八號主計、理財兩局長回 答)

●保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件

大正十四年六月四日藏計三九一號主計、理財局長通牒同月五日官會二二八號會計課長移牒

保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通司法大臣官房會計課長ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候條御了知相成度此段及御通牒候也

甲 號

保管金取扱規程第八條ニ依リ保管金支拂通知書ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ歳入ニ納付スル場合ノ手續ニ付テハ本年二月四日藏計第四八號

一大藏大臣通牒ノ次第モ有之候處右金額ヲ一旦取扱應預金ニ受戻ヲ要スヘキニ付之カ手續及之ニ對スル現金出納簿ノ記帳方至急御回示煩度候

乙 號

四月二十四日附會甲第一六九二號ヲ以テ照會ニ係ル保管金隔地者拂ノ場合其ノ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シタル爲該資金ヲ預金ニ受戻等ノ件右ハ小切手ヲ交附シタル當該日本銀行ニ對シ當該資金ヲ預金ニ戻入方請求シ日本銀行ノ戻入濟通知ヲ受ケタル後保管金取扱規程第七條ノ二ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出スコトニ致度仍右ノ場合現金出納簿記帳方ニ付テハ客年七月十五日藏第九二七八號第五項通牒ノ通御處理相成度此段及御回答候也

●時効ニ依ル保管金歳入ニ編入ノ件

大正十二年十二月六日
官會四三八號會計課長移牒

元金庫ニ寄託セル保管金ニシテ保管證書ヲ發セサル分期滿失効トナリ歳入ニ編入ヲ要スルモノハ是迄國庫大臣ヨリ其ノ時々令達書ヲ發シ之ニ依リ日本銀行(各地取扱店)ニ於テ歳入ニ編入ルル手續ノ處右ハ自今其ノ時々令達ヲ省略シ同行(同上)ニ於テ時効證書ニ依リ直ニ歳入ニ編入ルルコトニ改正相成候間御了知相成度依命此ノ段及通牒候也

追テ日本銀行ニ於テ調製セル時効調書取扱官廳ニ於テ調査證明ノ儀ハ從來ノ通ト御承知有之度(大正十二年十二月三日藏一三三三〇號理財局長通牒)

參照

一 保管物取扱規程第十四條ニ依リ保管證書ヲ發セサル保管金ニシテ歳入ヘ編入スヘキモノハ金庫ニ於テ之カ計算書ヲ製シ其ノ取扱官廳ヘ送付スヘキニ付取扱官廳ニ於テハ調査ノ上相違ナキヲ證明シ金庫ヘ返付スヘキモノトス(明治二十七年六月十八日大藏大臣照會同年七月二日文部大臣訓令保管物取扱規程ニ依リ拂渡證書ニ記入スヘキ期滿失効ノ年月日記載方及其ノ他取扱方中ヨリ拔)

●救恤又ハ技術獎勵寄附金ノ保管出納ニ關スル件

明治三十三年八月 明治四二年 勅令第三百二十九號 三一九號改正

政府ハ救恤又ハ學藝技術獎勵ノ目的ヲ有スル寄附金ノ保管出納ヲ爲スコトヲ得

●〔預金局〕保管證書保管規則

明治二十六年六月十二日 文部大臣訓令 大正四年十月改正

〔預金局〕保管證書保管規則別紙ノ通閣議決定ノ旨内閣ヨリ通達ニ付自今右ニ依リ取扱フヘシ(別紙)

- 第一條 官廳ニ於テ保管スル〔預金局〕保管證書ハ之ヲ保管スル所ノ部局長其ノ保管ノ責ニ任スルモノトス
- 第二條 保管證書ハ鐵庫又ハ堅牢ナル函内ニ之ヲ收藏シ其ノ鎖鑰ハ部局長之ヲ管守スルモノトス
- 第三條 部局長ハ一名ノ保管證書出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立會員ヲ命シ之ニ立會ハシムヘシ
- 第四條 部局長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書ノ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ
- 保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類券面ノ金額並出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部局長檢印ヲ捺シタル後之ヲ執行スヘシ
- 部局長ハ毎月一回保管證書出納簿殘高ト保管證書ト對查點檢スヘシ

●供 託 法

明治三十二年二月 大正一〇年 法律第十五號 六九號改正

- 第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス
- 第一條ノ二 前條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第一條ノ三 利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
- 第一條ノ四 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス
- 第一條ノ五 供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其ノ旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス
- 抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ書類ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス
- 第一條ノ六 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス
- 抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス
- 第一條ノ七 前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ

第五條 各省大臣若クハ北海道廳長官府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ検査員ヲ命シ保管證書ノ出納ヲ臨時検査セシムヘシ

第六條 部局長ハ會計検査院ノ要求アルトキハ保管證書出納計算書ノ謄本ヲ同院ニ送付スヘシ

注意 本規則ハ消滅セシモノナルモ現在ニ於テモ本規則ニ準シ取扱フハ差支ナシ本省ニ於テハ便宜本取扱ニ準シ受拂ノ整理ヲ爲セリ

●〔預金局〕保管證書保管規則細則

明治二十六年六月二十四日 文部大臣 裁定

明治三十三年七月文訓改正

- 第一條 文部省ニ於テ保管スル〔預金局〕保管證書ハ出納掛ニ備付ル所ノ金庫ニ收藏スルモノトス
- 但シ金庫中別ニ收藏ノ區域ヲ定メ其ノ鎖鑰ハ會計課長之ヲ管守スルモノトス
- 第二條 出納掛長ハ保管證書出納主任トシテ函ノ開閉ヲ掌リ監査掛長ハ其ノ立會ヲナスヘシ
- 第三條 保管證書出納簿ハ別紙書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ(書式略ス)

法律違背ヲ理由トスルトキニ限り非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二條 供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ付スルコトヲ要ス

第四條 供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其ノ從トシテ之ヲ保管ス但シ保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其ノ利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其ノ營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其ノ保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者又ハ銀行ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者又ハ銀行ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ノ還付ヲ請求スル者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルコトヲ要ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其ノ原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其ノ供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ノ書面又ハ裁判、公正證書其ノ他ノ公正ノ書面ニ依リ其ノ給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附 則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其ノ施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大正十年四月法律第六十九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年三月勅令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

本法施行前爲シタル供託ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ當分ノ内其ノ適當ト認ムル銀行ヲシテ第一條ノ規定ニ依リ供託事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

●供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル場合ニ關スル件

大正十一年三月
勅令第七十五號

供託物ノ還付又ハ取戻ヲ請求スル者カ其ノ還付又ハ取戻ノ請求ニ付司法大臣ノ定ムル書類ヲ提出スルコト能ハサル場合ニ於テ供託官吏必要ト認ムルトキハ請求者ヲシテ其ノ還付又ハ取戻ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ現金又ハ國債ヲ提

供セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ供託官吏カ司法大臣ノ定ムル公告ノ手續ヲ爲ストキハ供託官吏ハ請求者ヲシテ公告費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

前二項ニ規定スル司法大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、

臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託物取扱規則

大正十一年三月 昭和三年
司法省令第二號 八號改正

第一條 金錢及有價證券ノ供託ニ關スル手續ハ本令ニ依ル

第二條 供託ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ供託書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第二號書式ノ供託通知書ヲ添付スヘシ

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二 供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號、番號枚數券面額及拂込額

三 供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若クハ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

五 反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條 供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ取扱ニ關スル規定又ハ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ從ヒ拂込書ヲ作成シ且供託書ニ供託受理ノ記載ヲ爲シテ之ニ捺印シ拂込書及供託書ノ一通ヲ供託者ニ交付シ供託物ヲ日本銀行ニ納入セシムヘシ

供託官吏日本銀行ヨリ大藏大臣ノ定ムル預金部預金取扱ニ關スル規定又ハ日本銀行ノ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル供託物受領ノ證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第三條ノ二 供託金又ハ供託有價證券ノ受入ヲ取扱フ供託局ニ金錢又ハ有價證券ノ供託ヲ爲サムトスル者ハ第二條ノ供託書ト共ニ供託金又ハ供託有價證券ヲ提出スヘシ

供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付シ且第二條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條 供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ第三條第一項ノ拂込書及大藏大臣ノ定ムル供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル拂渡請求書ヲ作成シ且代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ請求受理ノ旨ヲ記載シテ之ニ捺印シ拂込書、拂渡請求

書及代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ヲ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出セシムヘシ

第五條 供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通)ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

- 一 供託物受入ノ記載アル供託書
- 二 辨濟供託ニ在リテハ供託通知書
- 三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類
- 四 裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書
- 五 反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條 供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通)ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

- 一 供託物受入ノ記載アル供託書
- 二 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面
- 三 民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

四 供託ノ原因消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書面

第七條 供託者供託ヲ爲シタル供託局ノ預金取扱店タル日本銀行所在地外ノ日本銀行ニ於テ供託金ノ還付又ハ取戻ヲ爲サムトスルトキハ第五條又ハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八條 供託官吏供託金ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出シテ供託書ト引換ニ請求者ニ交付スヘシ但シ内渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ

供託金ノ還付又ハ取戻ニ付前條ノ請求アリタルトキハ供託官吏ハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ他店拂ニ關スル規定ニ依ル手續ヲ爲シ第六號書式ノ供託金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ日本銀行ヨリ供託金ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第九條 供託官吏供託有價證券ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託物還付請求書又ハ供託物取戻請求書ノ一通ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ有價證券ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ

第十條 請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ供託官吏ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

供託官吏ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第十一條 配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第七號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ送付シ分割拂渡ヲ受ケヘキ者ニ第八號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

分割拂渡ヲ受ケヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ供託官吏ハ第八條及第九條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第九號書式ノ供託有價證券利札請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ利札ヲ受取ラシムヘシ

第十三條 供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ毎年六月ニ於テ前月迄ニ生シタル金額

ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ取受ルヘキ者ニ拂渡スヘシ
 第十四條 前條第一項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十號
 書式ノ供託金利息請求書ニ通、同條第二項ノ利息ノ拂渡ヲ受
 ケムトスル者ハ第十一號書式ノ供託金利息請求書ニ通ヲ供託
 局ニ提出スヘシ
 供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ前項ノ請求書
 ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日
 本銀行ヨリ利息ヲ受取ラシムヘシ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第一號書式(用紙半紙紙數二枚以上ニ及フ)

供託書 (金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルコト)

住所 供託者 何

某 (第三者ニ於テ供託スルトキハ供託者第三者ト記入スルコト)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也(尙全額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ記載スルコト)

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

但シ何年何月又ハ何期渡以降利札付

又ハ

一何會社株券額面何圓也

同上

又ハ

一何々

同上

供託ノ原因タル事實

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定又ハ之ヲ確知シ得サル事由

反對給付ノ目的物其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名

右供託ス

年月日

右

供託局宛

何 某 團

右日本銀行ニ於ケル供託局口座ニ拂込ムヘシ

年月日

供託局 團

受入書式

右受入ヲ證ス

年月日

日本銀行 團

奥書ノ式

前書ノ金額(有價證券)受領候也

年月日

住所

受取人 何 某 團

供託局宛

内渡書式

内

一金何圓也

右 年月日 日内渡ヲ了ス

供託局 團

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也

同上

又ハ

一何々

同上

種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別紙内譯書ノ通リ記入シ内譯書ト契印スルコト

右 年月日 日内渡ヲ證ス

日本銀行 團

第二號書式

供託通知書

一金何圓也

右ハ何々ノ事由ニ由リ何供託局ニ供託致候間御受領相成度此段及通知候也

年 月 日

住所

何 某

住所

何 某殿

第三號書式

代供託請求書又ハ附屬供託請求書

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

何々公債證書(何會社株券)何圓何年何月(何期)渡利息(配當金)(何年何月償還金)

前書ノ金額代供託(附屬供託)トシテ御受入相成度(別紙委任狀相添)及請求候也

年 月 日

住所

何 某團

供託局宛

右代供託(附屬供託)トシテ受入手續ヲ爲スヘキモノトス

年 月 日

供託局宛

受入書式

右受入ヲ證ス

年 月 日

日本銀行團

奥書ノ式

前書ノ金額受領候也

年 月 日

住所

何 某團

供託局宛

内渡書式

内

一金何圓也

右 年 月 日 日内渡ヲ了ス

供託局宛

第四號書式

供託物還付請求書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

前書ノ金額(有價證券)何々ノ事由ニ因リ還付相成度別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年 月 日

第三章 出納

住所

受取人 何 某團

供託局宛

右還付ヲ認可ス

年 月 日

供託局宛

第五號書式

供託物取戻請求書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

前書ノ金額(有價證券)何々ノ事由ニ因リ下戻相成度別紙供託

書及證明書類相添及請求候也

年 月 日

住所

供託者 何

某 團

供託局 宛

右取戻ヲ認可ス

年 月 日

供託局 宛

第六號書式

供託金支拂通知書

住所

取受人 何

某

供託番號第 號

一金何圓也

右者ニ對シ前記ノ金額拂渡相成度候也

年 月 日

供託局 宛

日本銀行(支拂店)宛

右受領候也

年 月 日

住所

何

某 團

日本銀行(支拂店)宛

第七號書式

支拂委託書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

內

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

第八號書式

證明書

住所

取受人 何

某

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

右者前記ノ金額(有價證券)ノ拂渡ヲ受クヘキモノナルコトヲ證ス

年 月 日

住所

供託者 何

某 團

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

供託局 宛

供託局 宛

住所

供託者 何

某 團

右ハ何々ノ事由ニ因リ内譯ノ通分割拂渡スコトヲ要スルニ付別紙供託書相添及請求候也

年 月 日

住所

取受人 何

某

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一金何圓也

又ハ

住所

取受人 何

某

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

號

第九號書式

供託有價證券利札請求書

供託番號第 號

何年何月渡

一何々公債證書何圓券附屬利札

又ハ

一何々附屬利札

右及請求候也

年 月 日

住所

何 某 團

供託局宛

年 月 日

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

住所 何 某 團

年 月 日

右受領候也

年 月 日

住所 何 某 團

日本銀行宛

第十號書式

供託利息請求書

供託番號第 號

供託金何圓ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年 月 日

住所

何 某 團

住所 何 某 團

一何圓也

一金何圓也

（金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息）

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

年 月 日

住所 何 某 團

住所 何 某 團

年 月 日

右受領候也

年 月 日

住所 何 某 團

住所 何 某 團

日本銀行宛

第十一號書式

供託金利息請求書

供託番號第 號

供託金何圓（但シ何年何月何日供託受入濟）ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年 月 日

年 月 日

住所

何 某 團

住所 何 某 團

一何圓也

（金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息）

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

年 月 日

住所 何 某 團

住所 何 某 團

右受領候也

年 月 日

年 月 日

住所

何 某 團

住所 何 某 團

日本銀行宛

●供託有價證券取扱規程

大正十一年二月 大藏省令第九號

第一條 供託局ノ保管ニ係ル供託有價證券ハ之ヲ日本銀行ニ寄託スヘシ

第二條 供託局前條ノ寄託ヲ爲サムトスルキハ供託有價證券寄託書（書式ハ政府所有有價證券取扱規程第一號書式政府所有有價證券寄託書ニ準ス）及供託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ供託有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第三條 供託局日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルキハ供託有價證券拂渡請求書（書式ハ政府所有有價證券取扱規程第二號書式政府所有有價證券拂渡請求書ニ準ス）ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ供託有價證券ノ還付又ハ取戻ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券拂渡請求書ニ代フルコトヲ得

第四條 供託局代供託ヲ認可シタルトキハ代供託請求書ヲ前項ノ拂渡請求書ニ添付スヘシ

第五條 供託局代供託有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券利札請求書（書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス）ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ附屬利札ヲ受クル權

利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券利札請求書ニ代フルコトヲ得

第五條 供託局供託有價證券ノ利息又ハ配當金ニ付附屬供託ヲ認可シタルトキハ供託有價證券利息(配當金)請求書(書式)ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス)及附屬供託請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第六條 政府所有有價證券取扱規程第二條及第六條乃至第十條ノ規定ハ供託有價證券ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託金ノ利息割合

大正十一年三月 昭和七年
司法省令第三號 四一號改正

供託法第三條ニ依ル供託金ノ利息ハ一箇年二歩四厘ト定ム
前項ノ利息ハ供託金受入ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス供託金ノ十圓未満ノ端數ニ對シ亦同シ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和七年司令第四一號)

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●政府所有有價證券取扱規程

大正十一年二月 大正一五年
大藏省令第七號 一〇號改正

第一條 各官廳ニ於ケル政府所有有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第二條 各官廳ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外政府所有有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ寄託スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス

第三條 各官廳前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ送付シ政府所有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第二號書式ノ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第五條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ政府所有有價證券利札請求書ヲ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第六條 各官廳日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ政府所有有價證券ノ寄託書及拂渡請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ政府所有有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ

第一號書式 政府所有有價證券寄託書 (用紙寸法 半紙判半載)

之ヲ調査シ證明ノ上五日以内ニ之ヲ統轄店又ハ取扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第七條 各官廳第三條ノ政府所有有價證券寄託書ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ又ハ其ノ變更ヲ要スルトキハ之カ訂正ヲ爲ス爲訂正請求書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第八條 各官廳政府所有有價證券受託證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

第九條 各官廳政府所有有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其所屬代理店ヲ經由スヘシ

第十條 各官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

政府所有有價證券寄託書

備考	第 號	年 月 日	某廳取扱主任官官氏名印			
備考	二	一	日本銀行(何店)宛			
備考	利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ	全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込濟額ヲ記入スヘシ	證券種別	枚 數	券面額	番號、記數、面及回数別
						備考

第二號書式 政府所有有價證券拂渡請求書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

政府所有有價證券拂渡請求書

下記證券拂渡相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名園

日本銀行(何店)宛

(又ハ第 號ノ内)

受託證書日附

受託證書番號

日本銀行(何店)宛

下記證券領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名園

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚 數	券 面 額	券面、記番 號及回数別	備 考

備考 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ
ニ 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入ス

●政府保管有價證券取扱規程

大正十一年二月 昭和六年
大藏省令第八號 九號改正

第一章 總 則

- 第一條** 政府ノ保管ニ係ル有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第二條** 取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日内ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條** 取扱官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ
- 前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
- 第四條** 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ
- 第二章 保管有價證券ノ提出及寄託**
- 第五條** 保管有價證券ヲ提出スル者ハ第一號書式ノ政府保管有價證券提出書及其ノ印鑑ヲ添ヘ有價證券ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ
- 取扱官廳前項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之

第三號書式 政府所有有價證券利札請求書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

政府所有有價證券利札請求書

下記證券何年何月渡利札交付相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名園

日本銀行(何店)宛

受託證書番號

受託證書日附

日本銀行(何店)宛

下記利札領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名園

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚 數	券 面 額	券面、記番 號及回数別	備 考

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込額ヲ記入スヘシ

ヲ省略セシムルコトヲ得

- 第六條** 取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ振込マシムルコトヲ得
- 取扱官廳ハ其ノ保管有價證券口座ニ振込ム爲前項以外ノ日本銀行本店又ハ支店ニ豫メ有價證券ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ第三條ノ手續ヲ爲スノ外有價證券ヲ提出シタル日本銀行ニ取扱主任官ノ印鑑ヲ添ヘ其ノ職務及氏名ヲ通知スヘシ
- 第七條** 保管有價證券ヲ提出スル者前條第一項ノ振込ヲ爲サムトスルトキハ第二號書式ノ政府保管有價證券振込書ヲ、第二項ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ第二號ノ二書式ノ政府保管有價證券他店振込書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ交付ヲ受クヘシ
- 保管有價證券ヲ提出スル者前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券振込濟通知書及其ノ印鑑ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ
- 第八條** 取扱官廳第五條又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ有價證券又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ提出ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ政府保管有價證券受領證書ヲ提出者ニ交付スヘシ
- 第九條** 取扱官廳第五條ノ規定ニ依リ提出ヲ受ケタル政府保管

有價證券ヲ日本銀行ニ寄託セムトスルトキハ政府保管有價證券提出書ヲ添へ之ヲ日本銀行ニ送付シ政府保管有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ但シ第五條第二項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券提出書ヲ省略セシメタルモノニ付テハ第四號書式ノ政府保管有價證券内譯書ヲ添付スルモノトス

第十條 取扱官廳ハ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スル有價證券ヲ寄託セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十一條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ第五條ノ場合ニ於テハ取扱官廳ヲ經テ日本銀行ニ、第七條第一項ノ場合ニ於テハ政府保管有價證券振込書ニ添へ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第三章 保管有價證券ノ拂渡

第十二條 保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ第五號書式ノ政府保管有價證券拂渡請求書又ハ第八條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル政府保管有價證券受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十三條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付スヘシ

取扱官廳前條ノ請求ニ依リ政府保管有價證券ノ一部ノ拂渡ヲ要スルトキハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ一部拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付シ請求者ニ對シテハ第六號書式ノ政府保管有價證券一

部拂渡書ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ受託證書、通知書又ハ拂渡書ノ交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ日本銀行ニ提出シ有價證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十四條 取扱官廳第十二條ノ請求ヲ受ケタルトキ第二條但書ノ規定ニ依リ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ之ヲ請求者ニ拂渡スヘシ

第十五條 保管有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第七號書式ノ政府保管有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ

第二條但書ノ規定ニ依リ取扱官廳ニ於テ有價證券ヲ保管スル場合ニ於テハ前項ノ權利者ハ前項ノ請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十六條 取扱官廳日本銀行ヨリ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券元利金受入ノ通知ヲ受ケタルトキハ保管金トシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第四章 保管有價證券ノ保管替

第十七條 甲官廳ニ身元保證金トシテ有價證券ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第八號書式ノ政府保管有價證券保管替請求書或通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十八條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該有價證券

店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店取扱官廳ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ

第七章 雜 則

第二十二條 取扱官廳政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第七條第一項ノ振込人政府保管有價證券振込濟通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十三條 政府保管有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲シ其ノ旨ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第二十四條 取扱官廳政府保管有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其ノ所屬代

ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絕シ、日本銀行ニ寄託セルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ政府保管有價證券保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第十九條 乙官廳前條ノ請求書ノ送付及日本銀行ヨリ政府保管有價證券受託證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ政府保管有價證券受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第五章 政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ

主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第六章 證 明

第二十一條 取扱官廳日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ政府保管有價證券ノ受入及拂渡ノ請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添へ政府保管有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日内ニ之ヲ統轄店又ハ取扱代理

理店ヲ經由スヘシ

附則

第二十五條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管有價證券ハ當該金庫ノ政府有價證券取扱ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ニ寄託シタルモノト看做ス

前項ノ保管有價證券ハ従前ノ規定ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ

第一號書式 政府保管有價證券提出書(用紙寸法)

政府保管有價證券提出書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

内譯

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

保管ノ事由

右提出候也

年 月 日

住 所

氏 名 ㊦

某廳取扱主任官宛

右證券寄託候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 ㊦

日本銀行(何店)宛

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第二號書式

政府保管有價證券振込書(用紙寸法)

政府保管有價證券振込書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

内譯

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也

年 月 日

住 所

氏 名 ㊦

日本銀行(何店)宛

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第二號ノ二書式

政府保管有價證券他店振込書(用紙寸法)

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚

内譯

何圓券 何第何番ヨリ何第何番迄 何枚

但シ何年何月渡以降利札附屬(利拂期ノ既ニ到來セル利札ニシテ附屬シアル分ハ此ノ式ノ如ク記入スルコト)

何圓券 何第何番 何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右日本銀行某店某官廳ノ保管有價證券トシテ振込候也

年 月 日

住 所

氏 名 ㊦

日本銀行(何店)宛

年 月 日 日受入済

日本銀行(何店) ㊦

備考

一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第三號書式 政府保管有價證券受領證書 (用紙寸法)

政府保管有價證券受領證書

保管日附 下記證券領收候也
 保管ノ事由 某廳取扱主任官官氏名宛
 何 某 宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

上記證券拂渡ノ證書領收候也
 年 月 日 住 所 氏 名
 某廳取扱主任官宛

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 三 本書ヲ以テ有價證券ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第四號書式 政府保管有價證券内譯書 (用紙寸法)

政府保管有價證券内譯書

保管日附 下記證券寄託候也
 年 月 日
 提出者氏名 某廳取扱主任官官氏名宛
 日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式 政府保管有價證券拂渡請求書 (用紙寸法)

政府保管有價證券拂渡請求書

政府保管有價證券受領證書日附及番號(内渡ノトキハ政府保管有價證券受領證書ノ内ト記入スルコト)
 何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也 何枚
 内譯 何圓券 何第何番 何枚
 右證券拂渡相成度候也
 年 月 日 住 所 氏 名
 某廳取扱主任官宛
 右證券拂渡ノ證書領收候也
 年 月 日 住 所 氏 名

(用紙寸法)

某廳取扱主任官宛

氏 名

- 備考
- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ
 - 二 政府保管有價證券受領證書記入額全部ノ拂渡ヲ請求スル場合ニハ證券ノ記番號ヲ省略スルコトヲ得
 - 三 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添付スルモ妨ケナシ

第六號書式 政府保管有價證券一部拂渡書 (用紙寸法)

政府保管有價證券一部拂渡書

保管日附 下記證券拂渡相成度候也
 年 月 日
 提出者氏名 某廳取扱主任官官氏名宛
 日本銀行(何店)宛
 下記證券領收候也
 年 月 日 住 所 氏 名
 日本銀行(何店)宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番 號及回数別	備 考

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 三 遺失物法ニ依ルモノナルトキハ日本銀行カ拂渡ヲ爲スヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

第七號書式 政府債券有價證券利札請求書(用紙寸法)

政府債券有價證券利札請求書

(半紙判半載)

保管日附

取扱官廳名

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也

何枚

内譯

何圓券 何第何番

何枚

右證券ノ何年何月渡利札交付相成度候也

年 月 日

住所

氏名 ㊦

日本銀行(何店)宛

右利札領收候也

年 月 日

氏名 ㊦

日本銀行(何店)宛

備考

一 金額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

第八號書式 政府債券有價證券保管替請求書(用紙寸法)

政府債券有價證券保管替請求書

(半紙判半載)

政府債券有價證券受領證書日附及番號

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也

何枚

内譯

何圓券 何第何番

何枚

但シ何年何月渡利札缺欠

右證券何官廳ノ保管有價證券ニ變更相成度候也

年 月 日

住所

氏名 ㊦

某廳取扱主任官宛

保管替ヲ承認候間貴廳ノ保管有價證券トシテ取扱相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官氏 名 ㊦

某廳取扱主任官宛

備考

一 金額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ拂込済額ヲ併セテ記入スヘシ

二 本書ノ内譯ヲ別紙ニ記入シ之ヲ本書ニ添附スルモ妨ケナシ

●日本銀行政府有價證券取扱規程

大正十一年二月 昭和六年
大藏省令第十一號 一〇號改正

第一章 總則

- 第一條 日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 前項ノ代理店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 日本銀行ハ地方ニ統轄店ヲ設ケ其ノ所屬店ニ於ケル政府ノ有價證券受拂ノ事務ヲ統轄スヘシ
- 日本銀行ハ前項ノ所屬店中特ニ必要アルモノヲ取扱店ト爲スコトヲ得
- 第一項ノ統轄店及其ノ所屬店並前項ノ取扱店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
- 第三條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ト其ノ他ノ有價證券トヲ混同シテ保管スルコトヲ得ス
- 第四條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ該證券ノ受拂ヲ爲スヘキ日本銀行當該店ニ於テ保管スヘシ但シ大藏大臣ノ特ニ指定シ

タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 第五條 日本銀行ハ政府ノ有價證券ヲ政府所有ノ有價證券ト政府保管ノ有價證券トニ區分シ政府保管ノ有價證券ハ更ニ之ヲ保管有價證券、供託有價證券及預金購入有價證券ノ區分ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第五條ノ二 日本銀行ノ取扱フ有價證券ニシテ各店間ニ振替受拂ヲ要スルモノノ取扱手續ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
- 第二章 政府所有ノ有價證券
- 第六條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第三條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券受託證書ヲ當該官廳ニ交付スヘシ
- 第七條 日本銀行政府所有有價證券利子又ハ償還金ノ受入ヲ要スルモノアルトキハ當該官廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 第八條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第四條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ拂渡スヘシ
- 第九條 日本銀行各官廳ヨリ政府所有有價證券取扱規程第五條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券利札請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ交付スヘシ
- 第三章 政府保管ノ有價證券

第一節 保管有價證券

- 第十條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第七條ノ規定ニ依リ政府保管有價證券振込書又ハ政府保管有價證券他店振込書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ第一號書式ノ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ交付スヘシ
- 日本銀行前項ノ場合ニ於テ自店カ當該取扱官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ之ヲ當該取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ受入レ他店カ當該官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ政府保管有價證券他店振込書ニ受入ノ證印ヲ爲シ當該受託店ニ送付スヘシ
- 前項ノ受入證印アル政府保管有價證券他店振込書ノ送付ヲ受ケタル日本銀行ハ當該取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ受入レ第二號ノ三書式ノ政府保管有價證券振込濟報告書ヲ當該取扱官廳ニ送付スヘシ
- 第十一條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第九條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府保管有價證券提出書又ハ政府保管有價證券内譯書ヲ添ヘ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ政府保管有價證券受託證書ヲ取扱官廳ニ交付スヘシ
- 第十二條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ遺失物法ノ規定ニ依リ保管スルモノナル旨ノ通知ヲ受ケタル有價證券ニシテ時効ニ依リ其ノ權利

消滅セムトスルモノニ付テハ元利金受人ノ手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ當該取扱官廳ニ通知スヘシ

- 第十三條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十三條第三項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券受託證書、政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ提出者ニ拂渡スヘシ
- 日本銀行前項ノ場合ニ於テ受託店カ他店ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲シタル上政府保管有價證券振込濟通知書又ハ政府保管有價證券一部拂渡書ニ拂渡ノ旨ヲ附記シ當該受託店ニ送付スヘシ
- 第十四條 日本銀行前條ノ場合ニ於テ保管有價證券ノ一部拂渡ヲ爲シタルトキハ政府保管有價證券取扱規程第十三條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ一部拂渡ヲ爲シタル旨ヲ記入シ之ヲ取扱官廳ニ返付スヘシ但シ保管有價證券振込濟通知書ニシテ受託店カ他店ナル場合ニ於テハ其ノ受託店ヲ經由シテ之ヲ取扱官廳ニ返付スヘシ
- 第十五條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十五條第一項ノ規定ニ依リ政府保管有價證券利札請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ提出者ニ交付スヘシ
- 第十六條 日本銀行ニ於テ政府保管有價證券取扱規程第十八條ノ規定ニ依リ寄託替ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ自店カ乙官

廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ寄託替ノ手續ヲ爲シ政府保管有價證券寄託證書ヲ乙官廳ニ送付シ、他店カ乙官廳ノ保管有價證券ノ受託店ナルトキハ乙官廳ノ受託店ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日本銀行ハ乙官廳ノ保管有價證券口座ニ受入ノ手續ヲ爲シ政府保管有價證券受託證書ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第二節 供託有價證券

第十七條 日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第二條ノ規定ニ依リ供託有價證券寄託書及供託書ヲ添ヘ有價證券ノ提出ヲ受ケタルトキハ供託書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付シ第四號書式ノ供託有價證券受託證書ヲ供託局ニ送付スヘシ

第十八條 日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第三條ノ規定ニ依リ供託有價證券拂渡請求書又ハ供託局ノ證明ヲ爲シタル請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ提出者ニ拂渡スヘシ

前項ノ場合ニ於テ代供託請求書ノ添附アルトキハ該供託有價證券ノ償還金ノ受領ニ必要ナル手續ヲ爲シ之ヲ供託金トシテ取扱ヒ代供託請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付スヘシ

第十九條 日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第四條ノ規定ニ依リ供託有價證券利札請求書又ハ供託局ノ證明ヲ爲シタル

請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券附屬ノ利札ヲ提出者ニ交付スヘシ

第二十條 日本銀行ニ於テ供託有價證券取扱規程第五條ノ規定ニ依リ供託有價證券利息(配當金)請求書及附屬供託請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ノ利息(配當金)ノ受領ニ必要ナル手續ヲ爲シ之ヲ供託金トシテ取扱ヒ附屬供託請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ之ヲ提出者ニ返付スヘシ

第三節 預金購入有價證券

第二十一條 (削除)

第二十二條 日本銀行本店預金部預金取扱規程第十九條ノ規定ニ依リ大藏省預金部ヨリ有價證券購入ノ通達ヲ受ケタルトキハ之ヲ購入シ其ノ額面金額及購入代價ヲ大藏省預金部ニ通知スヘシ

第二十三條 日本銀行本店預金部預金取扱規程第二十一條ノ規定ニ依リ大藏省預金部ヨリ有價證券購入濟通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十四條 日本銀行預金部預金取扱規程第二十二條ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ預金購入有價證券保管通知書交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ有價證券購入濟通知書ト引換ニ第五號書式ノ預金購入有價證券保管通知書ヲ交付スヘシ

第二十五條 日本銀行預金部預金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ預金購入有價證券拂渡請求書ヲ受ケタルトキ

ハ預金購入有價證券受領證書ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

第二十六條 (削除)

第二十七條 日本銀行預金部預金取扱規程第三十條ノ規定ニ依リ預ケ人ヨリ有價證券保管帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ預金購入有價證券保管帳ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

第四章 帳簿

第二十八條 日本銀行ハ會計規則第六十條第六號ノ帳簿トシテ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 政府有價證券總括帳
 - 二 政府有價證券受拂內譯帳
 - 三 政府有價證券受拂總括帳
 - 四 政府有價證券受拂報告額整理帳
 - 五 政府所有有價證券內譯帳
 - 六 政府保管有價證券內譯帳
- 前項ノ帳簿中第一號及第二號ノ帳簿ハ之ヲ日本銀行本店ニ、第四號ノ帳簿ハ之ヲ特扱代理店所轄日本銀行統轄店ニ、第三號、第五號及第六號ノ帳簿ハ之ヲ日本銀行統轄店及特扱代理店ニ備フヘシ
- 日本銀行代理店(特扱代理店ヲ除ク)ハ政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂殘額ヲ明瞭ナラシムル爲適宜ノ件別帳ヲ設クヘシ

第二十九條 政府有價證券總括帳及政府有價證券受拂總括帳ニハ大藏大臣ノ定ムル計算科目毎ニ口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十條 政府有價證券受拂內譯帳ニハ政府有價證券總括帳ノ計算科目毎ニ各統轄店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十一條 政府有價證券受拂報告額整理帳ニハ政府有價證券受拂總括帳ノ計算科目毎ニ所屬特扱代理店ヲ區分シタル口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十二條 政府所有有價證券內譯帳ニハ公債證書、株券、證券ノ種類毎ニ預金部其他各會計、各廳、各主任官別ノ口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十三條 政府保管有價證券內譯帳ニハ公債證書、株券、證券毎ニ保管有價證券及供託有價證券ニ區分シ取扱官廳又ハ供託局ニ係ルモノハ各廳、各主任官別ノ口座ヲ設ケ枚數及券面額ノ受拂額ヲ記入スヘシ

第三十四條 第二十八條ノ帳簿ハ之ヲ備フル日本銀行ニ於テ左記各號ニ依リ受拂額ヲ記入スヘシ

- 一 第一號及第二號ノ帳簿ハ各統轄店毎月十日、二十日及末日ノ報告額
- 二 第三號ノ帳簿ハ本店ノ受拂額並其ノ所屬代理店毎日ノ受拂並報告額

三 第四號ノ帳簿ハ其ノ所屬特扱代理店毎日ノ報告額
四 第五號及第六號ノ帳簿ハ自店ノ受拂額並其ノ所屬代理店
毎日ノ受拂額

第三十五條 本章ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ日本銀
行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第五章 計算報告

第三十六條 日本銀行ハ政府有價證券ノ受拂ニ關シ左ノ計算報
告表ヲ調製スヘシ

- 一 政府有價證券受拂報告表 第八號書式
- 二 政府所有有價證券月計突合表 第九號書式
- 三 保管有價證券月計突合表
- 四 供託有價證券月計突合表 第十號書式
- 五 (削除)

六 某月政府有價證券受拂計算書 書式ハ別ニ之ヲ定ム

第三十七條 政府有價證券受拂報告表ハ日本銀行本店ニ於テ統
轄店ノ報告額ニ依リ毎日之ヲ調製シ大藏省ニ提出スヘシ

第三十八條 政府所有有價證券月計突合表ハ日本銀行統轄店ニ
於テ自店及其ノ所屬代理店(特扱代理店ヲ除ク)ノ取扱ヒタ
ル政府所有有價證券ノ受拂額及殘額ヲ掲ケ毎月之ヲ調製シ政
府所有有價證券ノ寄託書及拂渡請求書ノ番號及金額ヲ記載シ
タル書類ヲ添ヘ翌月七日迄ニ到達ノ日取ヲ以テ取扱主任官ニ
送付シ其ノ證明ヲ受ケ添附シタル書類ト共ニ之カ返付ヲ受ケ

第六章 受拂證明

第四十二條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受ケル爲會計検査
院ノ定ムル政府有價證券受拂計算書ヲ調製シ大藏大臣ノ定ム
ル期限内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第四十三條 日本銀行ニ於テ政府所有有價證券取扱規程第七條
又ハ供託有價證券取扱規程第六條ノ規定ニ依リ政府所有有價
證券寄託書又ハ供託有價證券寄託書ノ誤謬訂正ノ請求ヲ受ケ
タルトキハ之カ訂正ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條 日本銀行ニ於テ政府所有有價證券取扱規程第八
條、政府保管有價證券取扱規程第二十二條又ハ供託有價證券
取扱規程第六條ノ規定ニ依リ政府所有有價證券受託證書、政
府保管有價證券受託證書、供託有價證券受託證書、又ハ政府
保管有價證券振込濟通知書ノ亡失又ハ毀損ニ關スル證明請求
書ヲ受ケタルトキハ之カ調査ヲ爲シ其ノ餘白ニ證明ノ上之ヲ
返付スヘシ

日本銀行ニ於テ第十條ノ規定ニ依リ政府保管有價證券振込濟
通知書ノ交付ヲ受ケタル者ヨリ其ノ亡失又ハ毀損ニ關スル證
明請求書ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ之カ手續ヲ爲シ其ノ旨
ヲ取扱官廳ニ通知スヘシ
日本銀行前二項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ帳簿又ハ
證書書類ニ記入シ置クヘシ

ヘシ

第三十九條 保管有價證券月計突合表又ハ供託有價證券月計突
合表ハ日本銀行統轄店ニ於テ自店及其ノ所屬代理店(特扱代
理店ヲ除ク)ノ取扱ヒタル政府保管有價證券ノ受拂額及殘額
ヲ掲ケ毎月之ヲ調製シ政府保管有價證券ノ受入及拂渡請求書
ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ翌月七日迄ニ到達ノ日
取ヲ以テ取扱主任官ニ送付シ其ノ證明ヲ受ケ添附シタル書類
ト共ニ之カ返付ヲ受ケヘシ

第四十條 特扱代理店ハ其ノ取扱ヒタル政府ノ所有又ハ保管ニ
係ル有價證券ノ受拂額及殘額ノ月計突合表ヲ調製シ其ノ證明
ヲ受ケヘシ

前二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 某月有價證券受拂計算書ハ毎月日本銀行各店ニ於
テ取扱ヒタル有價證券ノ受拂額及殘額ヲ掲ケ日本銀行本店ニ
於テ二通ヲ調製シ一通ニハ左ノ附屬書類ヲ添附シ翌月中ニ之
ヲ大藏省ニ提出シ一通ハ之ヲ保存スヘシ

一 政府ノ所有又ハ保管有價證券ノ月計突合表ノ副本
二 政府所有有價證券ノ受拂ニ付テハ一會計年度ヲ四期ニ分
チ各會計所屬別有價證券ノ種類及券面金額ヲ掲ケタル某月
有價證券受拂ノ内譯表

前項ノ附屬書類ノ様式及記入ノ方法並之カ提出時期ハ別ニ之
ヲ定ム

第四十五條 日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ハ自店及其ノ所屬
代理店(特扱代理店ヲ除ク)ノ取扱ヒタル政府所有有價證券、
保管有價證券又ハ供託有價證券ノ受拂ニ關スル證書書類ヲ受
拂ニ區分シ、公債證書、株券、證券毎ニ更ニ政府所有ノモノ
ト政府保管ノモノトニ區分シ、政府所有ノモノハ之ヲ各官廳
別ニ、政府保管ノモノハ之ヲ保管、供託、預金購入ノ三種ニ
分チ保管、供託ノ分ハ之ヲ各官廳別ニ一月分ヲ取纏メ合計書
ヲ調製シ共ニ保存スヘシ但シ特扱代理店ニ於テ調製シタルモ
ノハ其ノ證書書類ト共ニ所轄統轄店ニ於テ保存スルモノトス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十四年大藏省令第七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法附則第四項ニ規定スル國債證券ニシテ本令施行後
三月内ニ拂戻ヲ爲スモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第一號書式 政府所有有價證券受託證書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

政府所有有價證券受託證書

第 號
下記證券受託候也
年 月 日

日本銀行(何店)宛

某廳取扱主任官宛

證種	券別	枚數	券面額	券面、記番 號及回数別	備考

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第二號書式 政府保管有價證券振込済通知書 (用紙寸法) (半紙判半裁)

政府保管有價證券振込済通知書

第 號
振込人氏名
年 月 日
下記證券貴廳ノ有價證券
トシテ振込相受候也

日本銀行(何店)宛

某廳取扱主任官宛

證種	券別	枚數	券面額	券面、記番 號及回数別	備考

上記證券提出候也
保管ノ事由
年 月 日 住 所 氏 名[㊤]

某廳取扱主任官宛

上記證券拂渡相成度候也
年 月 日
某廳取扱主任官氏名[㊤]

日本銀行(何店)宛

上記證券領收候也
年 月 日 住 所 氏 名[㊤]

日本銀行(何店)宛

備考

- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
- 二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 三 振込力錯誤ナリシトキ又ハ其ノ必要ナキニ至リシトキハ振込人ハ官廳ヨリ其ノ旨ノ證明書ヲ受ケ之ヲ日本銀行ニ提出シ有價證券ノ返付ヲ請求スヘシ

第二號ノ二書式

政府保管有價證券振込濟通知書原符

日本銀行(何店) 圖

年 月 日

第 號

振込人氏名

日本銀行何店扱

某廳取扱主任官

證券種別	枚 數	券 面 額	備 考
			備考 原符ハ他店振込ノ場合ニ限り調製ス

第二號ノ三書式(用紙寸法
半紙判半載)

政府保管有價證券振込受入濟報告書

何公債證書(何株券又ハ何債券)額面何圓也

何 枚

振込人

氏 名 何 某

振込店

日本銀行何店

右貴廳口座ニ受入濟ニ付此段及御報告候也

年 月 日

日本銀行(何店) 圖

某廳取扱主任官宛

第三號書式

政府保管有價證券受託證書 (用紙寸法)

政府保管有價證券受託證書

保管日附 下記證券受託候也
年 月 日
提出者氏名 日本銀行(何店)宛
某廳取扱主任官宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及回数別	備考

上記證券拂渡相成度候也
年 月 日
日本銀行(何店)宛
某廳取扱主任官官氏名宛
上記證券領收候也
年 月 日
住所 氏名
日本銀行(何店)宛

備考
一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込
達濟額ヲ記入スヘシ
二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ
遺失物法ニ依ルモノナラハ日本銀行カ拂渡ヲ爲ス
ヘキ最終ノ期日ヲ餘白ニ記入スヘシ

第四號書式

供託有價證券受託證書 (用紙寸法)

供託有價證券受託證書

供託日附 下記證券受託候也
年 月 日
供託者氏名 日本銀行(何店)宛
某供託局長宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及回数別	備考

備考
一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂
込濟額ヲ記入スヘシ
二 利札欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五號書式

預金購入有價證券保管通知書

(用紙寸法)

預金購入有價證券保管通知書

第 號
下記公債證書預金ヲ以テ購入保管候也
年 月 日
日本銀行 宛
某廳取扱主任官宛

證券種別	枚數	券面額	券面、記番號及回数別

第六號書式 (削除)

政府所有有價證券月計突合表

年 月 中
年 月 日

取扱官廳 取扱主任官官職氏名 日本銀行(何店) 印

摘要	受		拂		残	
	枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額
公債證書	0	0	0	0	0	0
四分利公債	0	0	0	0	0	0
甲號五分利公債	0	0	0	0	0	0
何 何	0	0	0	0	0	0
株 券	0	0	0	0	0	0
何 何 會 社	0	0	0	0	0	0
何 何	0	0	0	0	0	0
證 券	0	0	0	0	0	0
何 何 會 社 債	0	0	0	0	0	0
何 何	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

證 明 ス

年 月 日

某廳取扱主任官官職氏名 印

第九號書式
政府所有有價證券月計突合表(用紙寸法
半紙判半裁)

公債證書(又ハ證券)

貯 金 局

年 月日	摘要	受		拂		残	
		枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額

預金購入有價證券保管帳

日 本 銀 行

第七號書式
預金購入有價證券保管帳(用紙寸法
適宜)

政府有價證券受拂報告表

年 月 日 日本銀行 印

科 目	受		拂		備 考
	枚數	券面額	枚數	券面額	

第八號書式
政府有價證券受拂報告表(用紙寸法美濃
判四分ノ一)

第十號甲書式

保管有價證券月計突合表 (用紙寸法 半紙判半載)

保管有價證券月計突合表

年 月 中 年 月 日

取扱官廳 取扱主任官官職氏名 日本銀行(何店)團

種 別	受		拂		残	
	枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額
公債證券 株證券	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

證 明 年 月 日
某廳取扱主任官官職氏名團

第十號乙書式

供託有價證券月計突合表 (用紙寸法 半紙判半載)

供託有價證券月計突合表

年 月 中 年 月 日

供託局長氏名 日本銀行(何店)團

種 別	受		拂		残	
	枚數	券面額	枚數	券面額	枚數	券面額
公債證券 株證券	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0

證 明 年 月 日
供託局長氏名團

●寄託又ハ供託セル國債證券附屬利札
盡了ノモノノ特別取扱規程

大正十一年十二月
大藏省令第五十八號

第一條 法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託セル國債證券ニシテ其ノ附屬利札盡了シタルトキハ寄託者又ハ供託者ハ國債規則第十六條ノ定ムル請求書ニ通テ取扱官廳又ハ供託局(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同シ)ニ提出スヘシ

第二條 取扱官廳又ハ供託局前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ該請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ他ノ一通ト共ニ之ヲ該國債證券ヲ保管スル日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ送付スヘシ但シ政府保管有價證券取扱規程第二條但書ノ規定ニ依リ保管スル國債證券ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 日本銀行取扱官廳又ハ供託局ヨリ前條ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ該國債證券ヲ新證券ニ引換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ該請求書ニシテ利札繼足ニ係ルモノナルトキハ利札繼足ノ手續ヲ爲スモノトス

第四條 日本銀行新證券引換ノ手續ヲ爲シタルトキハ第二條ノ規定ニヨリ送付ヲ受ケタル請求書ノ一通ニ引換濟年月日並新證券ノ記號番號等ヲ記入シ之ヲ取扱官廳又ハ供託局ニ送付ス

ヘシ但利札繼足ノ手續ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ記入スルモノトス

第五條 取扱官廳又ハ供託局日本銀行ヨリ前條ノ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ必要ナル事項ヲ寄託者又ハ供託者ニ通知スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●供託又ハ寄託セル國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債ノ買入ニ關スル特別取扱規程

昭和十一年五月四日
大藏省令第十二號

第一條 法令ノ規定ニ依リ供託シ又ハ政府ニ對スル保證若ハ擔保トシテ寄託セル國債ノ償還セラルル場合差替ノ爲其ノ償還金ヲ以テ該國債ノ借換ノ爲發行セラルル國債ヲ日本銀行ヨリ買入レムトスル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ政府保管有價證券取扱規程第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ附錄様式ノ特別取扱請求書ニ通テ供託局(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヲ含ム以下同

シ)又ハ取扱官廳ニ提出スヘシ但シ左記書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 日本銀行所定ノ國債買受申込書
- 二 國債ノ變更ニ付主務官廳ノ認可又ハ權利者ノ承諾ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ認可書又ハ承諾書但シ第六條ニ依ル剩餘金ノ處置ヲ認可又ハ承諾スル旨ノ記載アルコトヲ要ス

供託又ハ寄託ニ代用セル甲種登錄國債ニ付前條ノ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ國債ノ變更ヲ認可スル官廳ヲ取扱官廳トス

第三條 供託局又ハ取扱官廳前條ノ特別取扱請求書ヲ調査シ其ノ請求ニ應スヘキモノト認メタルトキハ其ノ一通ニ承認ノ旨並ニ供託有價證券受託證書(供託事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ニ在リテハ供託書)、政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ノ番號ヲ記載シ他ノ一通及添附書類ト共ニ直ニ其ノ償還國債ヲ保管スル日本銀行本店支店又ハ代理店ニ送付スヘシ但シ其ノ償還國債力甲種登錄國債ナル場合ハ日本銀行本店ニ送付スヘシ

第四條 日本銀行國債賣却ノ決定ヲ爲シタルトキハ償還國債ノ償還ヲ受ケ其ノ償還金ヲ以テ國債賣却代金ニ充當シ國債變更ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ但シ左記各號ノ規程ニ準據スルコトヲ要ス

- 一 特別取扱請求ニ係ル國債證券ヲ保管スル日本銀行代理店

ハ請求書記載ノ事項ト本店保管ニ係ル當該國債證券ト照合ノ上承認ノ旨記載シアル請求書及添附書類ヲ所轄日本銀行本店又ハ支店ニ送付シ其ノ決定ヲ請フモノトス但シ臺北、京城、大連代理店及其ノ管下代理店ニ在リテハ日本銀行本店ニ送付シ其ノ決定ヲ請フモノトス

- 二 前號ノ書類ノ送付ヲ受ケタル日本銀行本店又ハ支店力國債賣却ノ決定ヲ爲シタルトキハ代リ國債證券ヲ當該店ニ送付スヘシ

第五條 日本銀行ニ於テ國債變更ノ手續ヲ了シタルトキハ受託有價證券變更證書又ハ登錄國債變更證書ヲ作製シ之ヲ供託局又ハ取扱官廳ニ送付スヘシ

供託局又ハ取扱官廳前項變更證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ國債變更ノ手續ヲ了シタル旨ヲ請求者ニ通知スヘシ

償還國債ニ付事故アルニ因リ日本銀行ニ於テ國債ノ賣却ヲ爲シ得サリントキハ其ノ旨ヲ供託局又ハ取扱官廳ニ通知シ供託局又ハ取扱官廳ハ更ニ其ノ旨ヲ請求者ニ通知スヘシ

第六條 日本銀行償還金ヲ賣却代金ニ充當シ剩餘金ヲ生シタルトキハ之ヲ請求者ニ返還スルモノトス

第七條 本令ニ依ル特別取扱ノ請求ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八條 本令ニ依ル特別取扱請求書ノ供託局又ハ取扱官廳ニ於ケル受付期間ハ其ノ都度大藏大臣之ヲ告示ス

第九條 本令ノ施行ニ必要ナル事項ニシテ大藏大臣ノ定ムルモ

ノヲ除クノ外ハ日本銀行之ヲ定メ大藏大臣ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄様式ノ一

供託 國債證券ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債買入特別取扱請求書

(備考 記名國債證券ノ代リ國債ハ無記名國債證券トス)

一、買入申込先 日本銀行 店

一、償還國債 年 月 日 供託第 號ノ分

(國債名稱) (總額面) (總枚數)

額面 圓也 枚

内譯 (券面種類)

圓券

(記號)

號回

(證券番號)

番

右國債ハ 年 月 日償還ノ處之カ償還金ヲ以テ右國債ノ借換ノ爲發行セラル、 額面 圓也ヲ買入右國債ノ代リトシテ直ニ供託ノ手續相受度候條特別取扱方御認可相成度別紙國債買受申込書ヲ相添ヘ此段及請求候也

年 月 日

住所

氏

名印

取扱主任官

殿

第三章 出納

右承認ス

年 月 日

取扱主任官 氏

名印

附錄様式ノ二

供託代用甲種登錄國債ノ償還金ヲ以テ爲ス代リ國債(甲種登錄國債)買入特別取扱請求書

一、買入申込先 日本銀行本店

一、償還國債 (名稱) (登錄ノ) (記號) (登錄) (登錄)

額面 圓也 番 金 圓也

右國債ハ 年 月 日償還ノ處之カ償還金ヲ以テ右國債借換ノ爲發行セラル、 額面 圓也ヲ買入右國債ノ代リトシテ直ニ供託代用ノ登錄手續相受度候條特別取扱方御認可相成度別紙國債買受申込書相添ヘ此段及請求候也

追テ買入國債ノ元利金ハ 店(何府縣何郵便局)ニ於テ御支拂相成度候

年 月 日

住所

氏

名印

取扱官廳

殿

右承認ス

四一三ノ二

納官吏ヲシテ現金拂込書又ハ預託金拂込書ヲ添付セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提出セシムルコト

二 國債證券以外ノ有價證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡ヲ受ケ該證券ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納官吏ヲシテ該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムルコト

第三條 前條ノ規定ハ有價證券トシテ取扱ヒタル利札ニシテ支拂期ノ開始セルモノニ付之ヲ準用ス

第四條 主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證券ニ付買入銷却方ヲ請求セムトスルトキハ其ノ證券ノ名稱、記號、額面及附屬利札ニ於ケル支拂期(何年何月何日)以テ利札附屬ト記載スルコト)並證券ヲ引渡スヘキ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證ニ充用シタルモノナルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額、政府ノ所有ニ歸シタル年月日並最低賣渡價格ヲ附記シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ引渡スヘキ國債證券ハ引渡當時利子支拂期未開始ノ附屬利札ノ完備セルモノニ限ルモノトス

前項ノ國債證券ニシテ引渡ノ際既ニ利子支拂期ノ開始セル利札ノ附屬シアル場合ハ取扱官廳ヲシテ之ヲ截離セシメ其ノ利札ノ取扱ニ付テハ第三條ノ規定ニ依リ之カ手續ヲ爲サシムヘシ

第五條 主務官廳前條第一項ノ請求ニ對シ大藏省ノ承認ヲ受ケタルトキハ國債證券引渡方ヲ取扱官廳ニ通知シテ之カ手續ヲ爲サシメ代金納入方ニ付テハ日本銀行本店ニ對シ納入ノ告知書ヲ發スヘシ

第六條 主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券中第二條乃至第四條ノ規定ニ依リ難キ有價證券又ハ大藏省ヨリ國債證券買入銷却ノ承認ヲ得サリシ證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ其ノ拂渡ヲ受ケ取扱官廳ヲシテ之カ換價ノ手續ヲ爲サシメ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第七條 主務官廳前條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヲシテ換價ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ不利益ト認ムルトキ又ハ取扱ニ付不便ナリト認ムルトキ若ハ其ノ地方ノ狀況ニ鑑ミ換價ノ手續不能ト認ムルトキハ取扱官廳ヨリ該證券ヲ現送セシメ主務官廳換價ノ手續ヲ爲シ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得(大正十二年五月二十九日藏三二〇七號大藏大臣通牒)

●國債證券買入銷却法

明治二十九年二月 法律第五號

第一條 政府ハ毎年度國債費豫算定額以內ニ於テ國債證券ヲ買入レ之カ銷却ヲ爲スコトヲ得

通牒第九號

前項買入ノ價格ハ該證券面金額ニ超過スルコトヲ得ス

第二條 國債證券ノ買入銷却ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ其ノ證券ノ種類、番號、總額及其ノ買入價格ヲ告示スヘシ
第三條 銷却ノ爲ニスル國債證券ノ買入ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

●保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル件

明治四十二年三月 法律第九號

政府ニ對スル保證金其他ノ擔保トシテ提供シタル國債ヲ法令ノ規定ニ依リ公賣スヘキ場合ニ於テハ國債證券買入銷却法ニ依リ其ノ國債ノ債券金額ヲ以テ之ヲ買入レ銷却スルコトヲ得

●國債證券買入銷却ニ付臨時國債整理局ト協議ノ件

明治四十二年四月九日往四五二六號大藏次官通牒同月十五日官會二四四號會計課長移牒
今般法律第九號ヲ以テ政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ノ件公布相成候處右ハ公賣ニ附スルモ擔保

額ヲ償フニ足ラス而モ其ノ不足額ハ容易ニ追徴ス可キ見込ヲキ時ニ限り國債整理基金豫算ノ許ス限度ニ於テ該證券ヲ買入レ銷却シ以テ國庫ノ損失ヲ避ケントスルノ趣旨ニ出テタルモノニ候條自今該法律ニ依リ證券ノ買入銷却ヲ必要トスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シ豫メ臨時國債整理局ト御協議相成候様致度此段申進候也

注 意(文部省直轄各部ニ於テ該法律ニ依リ銷却ヲ必要トスル場合ハ事由ヲ詳記シ本省ヘ申請ノコト)

●保證擔保充用國債證券受拂報告方

大正元年十一月八日 官會五七四號會計課長通牒

大藏次官ヨリ別紙ノ通牒有之候ニ付自今右ニ據リ毎年一月十五日迄ニ本省ヘ御報告相成度此段及通牒候也

(別紙)

大藏次官通牒 (大正元年十月十八日 國債發甲四四號ノ三)

保證擔保充用國債證券受拂高報告ノ件

右ハ曆年末一回現在高ノ報告ニ相改候條左記様式ニ準シ御報告相成度此段及御通牒候也

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一節 出納ノ手續
一、出納ノ手續ハ、本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。
二、出納ノ手續ハ、本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。

●出納ノ手續ハ、本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。

本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。
本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。
本令ニ依リ、左ノ如クニシテ之ヲ行フベシ。

第四章 資金及委任經理

第四章 資金及委任經理

●大學學校及圖書館資金取扱規程

大正十二年五月二十九日
發會四七二號會計課長通牒

大正十五年三月十九日
發會七四號改正

- 第一條** 大學特別會計、學校及圖書館特別會計ノ資金ヲ取扱フ爲當該部局長ハ資金取扱主任官ヲ命スヘシ
資金取扱主任官ハ預金取扱主任官及有價證券取扱主任官ト同一人タルヲ要ス
- 第二條** 文部大臣官房會計課長ハ各部ニ共通スル資金ヲ統括處理スヘシ
前項資金ノ取扱主任官ハ文部大臣官房會計課出納掛長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條** 資金ニ屬スル現金有價證券ノ出納保管ハ文部省ニ於テハ會計課長各部局ニ於テハ當該部局長ノ命令シ資金取扱主任官ヲシテ之ヲ掌理セシムベシ
- 第四條** 部局長ニ於テ大學特別會計規則第四條又ハ學校及圖書館特別會計規則第四條ニ依リ資金ノ處分ヲ要スト認メタル時ハ事由ヲ詳具シ稟申スヘシ
- 第五條** 大學特別會計學校及圖書館特別會計資金ノ受拂手續第

第四章 資金及委任經理

通則第七號

- 十九條ニ依リ有價證券ヲ購入シタル場合ヲ除キ資金ニ屬スル現金ヲ以テ財産ヲ購入シタルトキハ其ノ購入年月日、種類、員數及價格（有價證券ニアリテハ額面共）ヲ報告スヘシ
- 第六條** 資金トシテ有價證券ノ寄附アリタルトキハ部局長之ヲ受領シ其寄附年月日種類額面市價並寄附條件ヲ報告スヘシ
- 第七條** 公債證書ノ償還アリタルトキハ其ノ償還年月日、種類額面受入金額ヲ報告スヘシ
- 第八條** 部局長ハ此ノ規程ヲ施行スルカ爲必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得
- 第九條** 部局長ニ於テ日本銀行本店ヨリ資金所屬ノ有價證券ノ拂戻ヲ爲サムトスルトキハ文部大臣ノ承認ヲ經ヘシ
- 第十條** 預金部ヨリ資金所屬ノ現金ヲ拂戻ス場合資金取扱主任官ヨリ提出スル預金拂戻請求書ニハ當該部局長ニ於テ承認ノ捺印ヲ爲スヘシ
- 第十一條** 資金ニ屬スル不動産ノ管理ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大學特別會計並學校及圖書館特別會計資金ノ受拂手續

大正十五年三月一日 昭和二年四月一日
發會一八號會計課長通牒 發會一六九號改正

第一條 大學特別會計並學校及圖書館特別會計資金（以下單ニ資金ト稱ス）ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關シテハ本手續ニ定ムルモノヲ除クノ外大學特別會計並學校及圖書館特別會計ノ歲入又ハ歲出ニ關スル規定及預金部預金取扱規程ニ依リ之カ取扱ヲ爲スヘシ

日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ハ資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關シテハ本手續ニ定ムルモノヲ除クノ外日本銀行國庫金取扱規程ニ依リ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第二條 資金ニ屬スル有價證券ハ總テ之ヲ日本銀行本店ニ寄託シ之カ受入及拂出ニ關シテハ本手續ニ定ムルモノヲ除クノ外政府所有有價證券取扱規程ニ依リ之カ取扱ヲ爲スヘシ
日本銀行ハ資金所屬ノ有價證券ノ受入及拂出ニ關シテハ本手續ニ定ムルモノヲ除クノ外日本銀行政府有價證券取扱規程ニ依リ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三條 資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ノ爲ニスル納入告知書現金拂込書小切手又ハ資金組入請求書ニハ各其ノ區分ニ依リ「維持資金」又ハ「特別資金」タルコトヲ其ノ表面餘白ニ表示スヘシ

第四條 日本銀行ハ各特別會計資金ノ歲入及歲出ヲ大學、學校及圖書館毎ニ別途ニ整理シ當該資金ヲ所有スル特別會計ノ歲入及歲出ト區分スヘシ

第五條 本手續ニ於テ資金取扱主任官ト稱スルハ文部大臣ノ指定スル預金部預金取扱規程第二條ノ規定ニ依ル預ケ人ノ擔當者タル官吏ヲ謂フ

第六條 日本銀行資金部歲入金ノ納付又ハ拂込ヲ受ケタルトキハ以下三條ニ規定スル場合ヲ除キ日本銀行國庫金取扱規程第十五條ノ規定ニ依ルノ外當該金額ヲ預金部普通預金トシテ當該資金取扱主任官ノ口座ニ振替受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 文部大臣ハ維持資金ニ屬スル預金ニ付定期預金ニ在リテハ期限到來ノ日、普通預金ニ在リテハ當該年度内ニ生シタル預金ノ利子額ヲ大學、學校及圖書館毎ニ計算シ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ

第八條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ支出官事務規程第二十二條ノ規定ニ準シ小切手ヲ日本銀行ニ交付シ歲入ニ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九條 日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ日本銀行國庫金取扱規程第十六條ノ規定ニ依リ振替受入ノ手續ヲ爲スヘシ
第九條ノ二 前三條ノ規定ハ特別資金ニ屬スル預金ノ利子額ヲ

特定ノ用途ニ充ツル爲メ資金部以外ノ會計ニ繰入ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ特別ノ經理ヲ要スル特別資金ニ付テハ文部大臣豫メ大藏省預金部及日本銀行ニ通知スヘシ

第十條 歲入徵收官（大學特別會計又ハ學校及圖書館特別會計ノ資金部歲入徵收官ヲ謂フ以下同シ）日本銀行ヨリ資金部歲入金ノ領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ資金取扱主任官ニ通知スヘシ

第十一條 資金取扱主任官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ日本銀行ニ於テ歲入金ノ領收ヲ爲シタル日ニ於テ當該歲入金ヲ預金部普通預金ニ預入レタルモノトシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十一條ノ二 支出官ハ（大學特別會計又ハ學校及圖書館特別會計ノ支出官ヲ謂フ以下同シ）毎年度首ニ於テ資金部歲出豫算額及支出ノ豫定期限、見込額ヲ資金取扱主任官ニ通知スヘシ

資金取扱主任官ハ前項ノ通知ニ依リ其ノ受入額ヲ豫定シ其ノ取扱ニ係ル預金部預金ヲ普通預金及定期預金ニ區分預入ノ手續ヲ爲シ普通預金額ヲ支出官ニ通知スヘシ

第十一條ノ三 資金取扱主任官預金部普通預金ヲ定期預金ニ預入換ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ定期預金預入換請求書ヲ日本銀行ヘ提出スヘシ

日本銀行前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ普通預金ト定期預金

トノ間ニ於ケル組替ノ手續ニ依リ當該金額ノ受拂ヲ爲シ第二號書式ノ預金部定期預金預入換通知書ヲ當該取扱主任官ニ通知スヘシ

第十一條ノ四 日本銀行資金取扱主任官ヨリ定期預金更新通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ預金部定期預金更新報告書ヲ大藏省預金部ニ差出スヘシ

第十一條ノ五 日本銀行ハ維持資金ニ屬スル定期預金ニ在リテハ期限到來ノ日、普通預金ニ在リテハ毎年度三月三十一日限當該年度内ニ於ケル各取扱主任官ノ預金部預金ヲ定期預金及普通預金ニ區分シ之カ受拂ノ年月日及金額ニ付第四號書式ノ預金部預金受拂報告書ヲ大藏省預金部ニ差出スヘシ

第十二條 支出官資金部歲出ヲ支出スル爲小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ旨資金取扱主任官ニ通知スヘシ
前項ノ支出ヲ爲サムトスル場合ニ於テ普通預金ノ不足アルトキハ定期預金ヲ普通預金ニ組替方資金取扱主任官ニ請求スヘシ

第十二條ノ二 資金取扱主任官前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十一條ノ三ノ規定ニ準シ預入換ヲ日本銀行ニ請求スヘシ
文部大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第十一條ノ三第二項ノ規定ハ日本銀行第一項ノ請求ヲ受ケタ

ル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 日本銀行支出官ノ振出シタル小切手ノ呈示ヲ受ケタルトキハ當該資金取扱主任官ノ預金部普通預金拂出ノ手續ヲ爲シ同時ニ之ヲ當該支出官ノ支拂元受高ニ振替受入ノ上日本銀行國庫金取扱規程第二十六條ノ規定ニ依リ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ拂出ニ係ル預金額ヲ當該資金取扱主任官ニ通知スヘシ

第十四條 資金取扱主任官前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ日本銀行ニ於テ當該小切手ニ對スル支拂ヲ爲シタル日ニ於テ預金部普通預金ヲ拂戻シタルモノトシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十五條 日本銀行支出官事務規程第七條ノ規定ニ依リ資金部支拂元受高轉換ノ請求ヲ受ケタルトキハ日本銀行國庫金取扱規程第二十五條ノ規定ニ依リ之カ振替受拂ヲ爲シ同時ニ第五十七條ノ規定ニ準シ預入換ノ手續ヲ爲シ其ノ旨支出官及資金取扱主任官ニ通知スヘシ

第十六條 資金取扱主任官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ日本銀行ニ於テ轉換ヲ爲シタル日ヲ以テ普通預金ヲ拂出シタルモノトシテ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ支出官ハ資金組入請求書(書式適宜)ヲ日本銀行ニ送付スヘシ
一 大學特別會計規則第二十五條但書又ハ學校及圖書館特別

會計規則第二十條但書ノ規定ニ依リ用途指定寄付金ノ支出殘額ヲ資金ニ組入ルルトキ

二 大學特別會計規則第二十六條又ハ學校及圖書館特別會計規則第二十一條ノ規定ニ依リ時効完成シタル支出未済額ヲ維持資金ニ組入ルルトキ

三 大學特別會計規則第二十七條又ハ學校及圖書館特別會計規則第二十二條ノ規定ニ依リ歲入殘餘ヲ維持資金ニ組入ルルトキ

第十八條 日本銀行前條ノ規定ニ依リ支出官ヨリ資金組入請求書ヲ受ケタルトキハ當該支出官ノ支拂元受高ヨリ拂出シ資金部歲入金トシテ移換ヘ受入之ヲ預金部普通預金トシテ當該資金取扱主任官ノ口座ニ振替受入ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ移換ニ付テハ日本銀行國庫金取扱規程第二十五條ノ規定ヲ準用シ其ノ移換ヲ了シタルトキハ其ノ旨歲入徵收官ニ通知スヘシ

第十九條 文部大臣資金ニ屬スル現金ヲ以テ有價證券ヲ購入セムトスルトキハ有價證券購入協議書ニ第五號書式ノ有價證券購入申込書ヲ添付シ大藏大臣ニ提出スヘシ

前項ノ協議書ニハ資金部歲出ノ年度及科目、支拂豫算殘額、普通預金現在高竝大學、學校又ハ圖書館名及資金取扱主任官名ヲ記載シ申込書ニハ日本銀行ニ於テ爲シタル普通預金現在高及支拂豫算殘額ノ證明書ヲ添付スヘシ

附錄第七條

第二十條 大藏大臣前條ノ協議ニ應シタルトキハ預金部ニ於テ預金部保有ノ有價證券賣却ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 大藏省預金部前條ノ規定ニ依リ有價證券賣却ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、額面、價格及實行期日ヲ文部大臣ニ通知スヘシ

第二十二條 文部大臣大藏省預金部ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其旨當該支出官ニ通知シ支出官ヲシテ日本銀行本店ヲ受取人トスル購入代價ニ相當スル資金部歲出支出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

日本銀行前項ノ規定ニ依リ振出サレタル小切手ノ交付ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ支出官ニ交付スヘシ

第二十三條 資金取扱主任官支出官ヨリ前條小切手振出濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該有價證券寄託書ヲ日本銀行本店ニ提出シ政府所有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十四條 日本銀行本店前條ノ規定ニ依リ保管スル政府所有有價證券ノ償還金又ハ其ノ附屬利札ニシテ支拂期到來シタルモノハ之ヲ現金ニ換ヘ振替ヲ以テ當該資金取扱主任官所在地ノ日本銀行ニ送金シ其ノ旨資金取扱主任官ニ通知スヘシ

第二十五條 資金取扱主任官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ政府所有有價證券ノ償還金又ハ利子領收證書ヲ日本銀行ニ提出シ現金ノ拂渡ヲ請求スヘシ

資金取扱主任官前項ノ償還金ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ預金

附錄第七條

部預金(普通預金又ハ定期預金)トシテ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十六條 資金取扱主任官ハ特別資金及維持資金ニ付各別ニ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スヘシ

資金取扱主任官ハ特別資金又ハ維持資金ニ付預金部預金取扱規程ニ依ル小切手用紙交付ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 日本銀行前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ特別資金又ハ維持資金ニ對シ各別ニ預金部預金帳ヲ資金取扱主任官ニ交付シ資金部内譯帳ニ各別ノ口座ヲ設ケ當該資金ノ受拂額ヲ記入整理スヘシ

第二十八條 資金取扱主任官ハ第六號書式ノ資金ニ屬スル現金及有價證券出納簿ヲ備ヘ現金及有價證券ノ出納ヲ記帳スヘシ

附 則 本手續ハ大正十五年三月十一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十五年七月發會一六九號)

本手續ハ大正十五年七月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和二年四月發會一六九號)

本手續ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 定期預金預入換請求書(用紙寸法 半紙判半裁)

第 號 定期預金預入換請求書

何年度何々會計 「維持資金」又ハ「特別資金」

金

定期預金期限 昭和 年 月 日

右金額普通預金ヨリ拂出ノ上定期預金へ預入換相成度此段請求候也

年 月 日

某廳資金取扱主任官 官氏名 回

日本銀行(何店)宛

第二號書式 預金部定期預金預入換通知書(用紙寸法 美濃判四分ノ一)

預金部定期預金預入換通知書

金

定期預金期限 昭和 年 月 日

右金額普通預金ヨリ拂出シ定期預金トシテ受入整理致シ候ニ付此段及通知候也

年 月 日

日本銀行 ㊟

資金取扱主任官宛

第三號書式 預金部定期預金更新報告書(用紙寸法 美濃判四分ノ一)

預金部定期預金更新報告書

預金部内譯帳「何々ノ口座」

一金

但シ昭和 年 月 日受入(又ハ更新)ノ分

更新期限 昭和 年 月 日

右及報告候也

昭和 年 月 日

日本銀行 ㊟

大藏省預金部宛

第四號書式 預金部預金受拂報告書(用紙寸法 半紙判半裁)

預金部預金受拂報告書

某廳資金取扱主任官 官氏名

預金ノ種類	年月日	受入額	拂戻額	殘額
定期預金				
普通預金				

右及報告候也

昭和 年 月 日

日本銀行 ㊟

大藏省預金部宛

第五號書式

有價證券購入申込書

當省所管(大學學校及圖書館名) 特別資金 維持資金 現金ヲ以テ左記ノ有價證券購入致度ニ付購入方御取計相成度日本銀行證明書相添へ此段御依頼ス

年 月 日

大臣

大藏大臣宛

記

- 一 購入有價證券種類並額面 何 圓
- 一 支拂豫算殘額 何 圓
- 一 普通預金現在高 何 圓
- 一 資金取扱主任官氏名

維持資金、特別資金ノ別

年月日	摘要	預金		内譯		預金	現在額	有價證券等		格	合計高
		普通	定期	期	日			甲種登錄	有價證券		
昭和24年4月1日	記甲種登錄 日現在 四月一日 有價證券 現在			自年月日	至年月日			500	1,000	360,000	
"	預金四月一日現在			2.4.1	3.3.31	501,200	501,000			850,000	
5月1日	歳入残餘 繰入	1,560,000	1,561,200			501,200	501,000	500	1,000	1,210,000	1,711,200
"	預金ノ組替	△500,000	1,061,200	2.5.1	3.3.31	2,061,200	2,061,200				3,971,200
6月1日	公債證券 購入	1,061,000	0,200			1,000,000	1,000,200				3,971,200
9月1日	公債證券 償還	1,000,000	1,000,200			2,000,200	2,000,200				3,421,200
昭和24年3月31日計			1,000,200			1,000,000	2,000,200	500	1,500	1,421,000	3,421,200

第六號書式 資金ニ屬スル現金及有價證券出納簿

追録第九號

●日本銀行ニ寄託セル資金所屬ノ有價證券ノ拂戻ニ關スル件

大正十一年九月二十五日
發會三二九號會計課長通牒

日本銀行(支店、代理店ヲ含ム)ニ寄託セル資金所屬ノ有價證券ノ拂戻シヲ要スル場合ニハ金庫制度ノ時ニ於テ取扱ヒタルト同様文部大臣ヨリ日本銀行ニ對シ拂戻承認ノ通知ヲ發スルコトニ定メラレタルニ付御了知相成度此段通牒ス

注意 保管有價證券トシテ受入アリタル證券ヲ政府所有有價證券トシテ移換ヲナス場合ニモ本文ノ取扱ハレタキ旨日本銀行ヨリ申出アリタリ

●有價證券購入上大藏大臣ニ依頼ノ件

大正十三年一月三十日
發會三七號文部大臣照會

當省所管直轄諸學校預金部預金維持資金ノ現金ヲ以テ有價證券購入ノ場合購入有價證券額而價格支拂豫算殘額ヲ超過スル節ハ便宜支拂豫算殘額ノ範圍内ニ於テ御處理相成度此段御依頼ス

●有價證券購入ニ關スル件

昭和六年一月十五日
會計課長通牒

資金所屬預金部預金ヲ以テ有價證券ヲ購入スルニ際シテハ從來數校分ヲ一括取扱ハルル關係上申請後一ヶ月以上ヲ經過スル場合モ有之不利不便不尠ニ付爾今毎月一回二十日頃ヲ實行期ト定メ毎月五日迄ニ本省ヘ到達ノ分ニ付テハ當月内ニ其ノ後ノ到達ノ分ニ關シテハ翌月ニ於テ之ヲ實行シ事務ノ進捗ヲ期シ度大藏省トモ内協議濟ニ付右御含ノ上御申請相成度

●資金所屬預金ノ内ヲ以テ公債證券購入ノ場合ハ可成五分利公債證券購入ノ件

大正十一年六月三十日
發會二二五號會計課長通牒

貴學資金所屬預金ノ内ヲ以テ公債證券購入方御申請ノ場合ハ特ニ差支ナキ限りハ可成五分利公債證券購入方御指定相成ル様致度豫テ大藏省ヨリ希望ノ次第モ有之ニ付御了知相成度

●資金ノ現在額等報告ノ件

大正十一年七月二十六日
發會二六三號會計課長通牒

資金ノ現在額等承知致度ニ付別紙様式ニ依リ至急御回答相成度尙七月一日以降ノ増減ハ本年度以降其ノ都度御報告相成度次ニ

第四章 資金及委任經理

本年度ヨリ年度末三月三十一日現在額ヲ翌年度四月三十日迄ニ別紙様式ニ準シ御報告相成度此段申進ム

注意 別紙様式ハ昭和二年五月十六日付照會一二號會計課長通牒ニ依リ改正ニ付省略ス

<p>● 資本金ノ増減</p> <p>資本金ノ増減ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p> <p>資本金ノ増減額ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p>	<p>● 負債ノ増減</p> <p>負債ノ増減ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p> <p>負債ノ増減額ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p>
--	---

<p>● 資本金ノ増減</p> <p>資本金ノ増減ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p> <p>資本金ノ増減額ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p>	<p>● 負債ノ増減</p> <p>負債ノ増減ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p> <p>負債ノ増減額ハ本年四月三十日現在額ヨリ本年四月三十日現在額ニ至ル迄ノ期間中ノ増減額ヲ示ス</p>
--	---

● 資金所屬ノ現金並有價証券増減異動

報告方ノ件

昭和二年五月十六日
照會一二號會計課長通牒

大正十一年七月二十六日付發會二六三號ヲ以テ資金現在額等報

第四章 資金及委任經理

●維持資金ニ屬スル公債證券償還手續ニ
際シ控除セラレタル金額補填方ノ件

大正十四年九月十二日次官裁定
金會九九號會計課長通牒

貴校維持資金所屬有價證券ニシテ大正「十二」年「五」月「二
十五」日抽籤償還相成タル公債證券ノ償還金受入方ニ關シテハ
本年五月三十日付集會七五號ヲ以テ之カ處理方法申進置タル處
其ノ後ノ大藏當局及日本銀行ト交渉ノ結果該償還金受入ニ際シ
控除セラレタル利札相當金額「」ハ日本銀行ニ於テ補填シ隨
ツテ償還開始當日ヨリ預金利子ハ之ヲ附セサルコトニ決定シタ
ルニ依リ左様御了知相成度而テ前記補填金ノ内償還公債額面不
足額ハ維持資金收入(款)公債償還金收入(項)同上(目)ニ其ノ
殘額ハ學校及圖書館(款)諸收入(項)維持資金利子(目)ノ科目ニ
收入整理相成度右申進ム

大正十四年五月三十日集會七五號

維持資金所屬公債證券償還金收入ニ關スル件

記

一 償還公債ノ額面額ト該償還額面額ニ對スル償還當日ヨリノ
預金部預金利子積算額トノ合計額ヨリ公債利子トシテノ收入
濟額ヲ差引キタル額ノ拂戻ヲ受クルコト而テ其ノ受入科目ハ
公債額面額ヨリ公債利子トシテ收入シタル額ヲ差引キタル額
ハ資金部歳入、維持資金收入ノ款、公債償還金收入ノ項、同

上ノ目、預金部預金利子ハ經常歳入、學校及圖書館ノ款、諸
收入ノ項、維持資金利子ノ目トスルコト

●學校及圖書館共通資金支出ニ關スル
取扱手續ノ件

大正十四年十月十六日
文部次官裁定

一 直轄諸學校及帝國圖書館ニ於ケル財產購入費ノ一部ヲ學校
及圖書館共通資金ヲ以テ支辨スル場合ハ其ノ負擔額ヲ一般支
拂元受高轉換ノ例ニ據リ日本銀行(預金部預金取扱銀行)ニ
資金部支拂元受轉換ノ請求ヲ爲シ該資金ヲ該財產購入部ノ預
金口座ニ轉換ノ上當該部局ニ於テ一括支出セシム
二 前項資金部支拂元受轉換請求書様式ハ左ノ通りトス
様式

一 金 學校及圖書館資金部支拂元受高轉換請求書
但シ文部省所管學校及圖書館特別會計資金部歳出支拂元
受高ノ内 圓也

右日本銀行何支店何代理店ニ於ケル何々學校長何某ノ資金部
支拂元受高ニ轉換方御取計相成度

年月日 文部大臣官房會計課長 氏名 印
日本銀行宛

(第一號書式ノ一)

●大學並學校及圖書館資金所屬不動産
取扱規程

大正十一年四月十日
文部大臣訓令

第一條 帝國大學、官立大學並學校及圖書館所屬ノ不動産ハ當
該帝國大學、官立大學並學校及圖書館資金ニ編入シ増減ノ都
度之ヲ通知ス

第二條 資金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタル不動産ハ其ノ條件ニ
從ヒ之ヲ特別資金ニ編入シ其ノ他ハ之ヲ維持資金ニ編入ス

第三條 大臣官房會計課ハ不動産資金臺帳(第一號書式)ヲ設
ケ資金所屬ノ不動産全部ヲ登錄スヘシ

第四條 部局長ハ不動産資金臺帳(第二號書式)ヲ備ヘ資金増
減ノ通知ニ依リ之ヲ登錄スヘシ

第五條 部局長ハ毎年四月十五日迄ニ前年度末現在資金報告書
(第三號書式)ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

附 則

本規程ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

注 意 資金所屬ノ不動産ト國有財產トハ整理上二途ニ出ツルヲ要
スルモ其ノ實同一ノモノナルニ付資金關係ノ整理ト國有財產關係
ノ整理トハ常ニ相關連ス從テ相互ニ法規參照スルヲ要ス

不 動 產 資 金 臺 帳

維持資金土地之部

(特別資金土地之部)

帝國大學(官立大學) 學校及圖書館

文 部 省

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

●帝國美術院美術研究獎勵金委任經理

二關スル件

大正十四年四月
法律第四十號

帝國美術院ニ於テ美術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國美術院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得
委任經理ニ係ル會計ノ檢査ハ會計檢査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大學並直轄諸學校ニ於ケル獎學寄附金委任經理規程

明治四十年三月
文部省訓令第四號

大正一二年
一九號改正

第一條 大學特別會計法第十條並學校及圖書館會計法第十一條

ニ依リ大學並直轄諸學校ニ於ケル獎學寄附金中左ニ掲クルモノハ其ノ寄附ノ全額ヲ當該大學總長學長又ハ學校長ニ交付シ其ノ經理ヲ委任ス

一 學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ學費
二 學生生徒ニ貸與又ハ給與スヘキ圖書機械、器具標本ノ購買費

三 前各號ノ外學生生徒ノ獎學トナルヘキ經費
前項ノ寄附金トハ現金有價證券ヲ云フ

第二條 經理委任ニ係ル現金有價證券ハ確實ナル方法ニ依リ之ヲ管理シ寄附ノ條件ニ從ヒ使用スヘシ

前項ノ管理方法ハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 當該大學總長、學長、學校長ハ別紙様式ノ獎學寄附金受拂簿ヲ設ケ經理委任ニ係ル現金有價證券ノ受高、拂高、殘高並寄附ノ條件ヲ明瞭ナラシムヘシ

第四條 明治三十九年度以前ニ於ケル獎學貸費ノ返納金又ハ經理委任ニ屬スヘキ圖書、機械、器具、標本其ノ他不用物品ノ賣却代ニシテ明治四十年年度以後ニ收入スルモノハ總テ其ノ經理ヲ委任シタルモノトス

(別紙様式)

獎學寄附金受拂簿

何 學 校 長

(表中「」内ハ朱書ナリ)

何 某 獎 學

年月日	摘 要	受 ノ 部		
		元 受 高	返 納 金	計
40年 4	1 何某獎學寄附金何學校ヨリ受領	100,000		100,000
	5 學生誰某貸費トシテ仕拂フ			
	10 何々書一部ヲ購入ス			
	20 學生何某ニ貸費トシテ仕拂フ			
	28 何銀行ヨリ何月ヨリ何月マテノ本寄附金ノ預金利子ヲ受取ル	10,000		10,000
	30 元學生何某ヨリ貸費ヲ返納ス		10,000	
	同上 利 子		5,000	15,000
	四月分合計	110,000	15,000	125,000
5	5 學生誰某ニ貸費トシテ仕拂フ			
	11 元學生何某ヨリ貸費ヲ返納ス		20,000	
	同上 利 子		10,000	30,000
	21 何某ヨリ何々債券ヲ購入ス			
	26 學生何某ニ貸費トシテ仕拂フ			
	28 同上何誰外三人ニ貸與トシテ仕拂フ			
	30 元學生何某貸費返納未済額ヲ皆納ス		70,000	
	同上 利 子		25,000	95,000
	五月分 計	0	125,000	125,000
	累 計	110,000	140,000	250,000
6	2 學生何々法研究ニ付其費用ニ充ツルヲ給與			
	10 學生誰本年試験最優等ニ付賞品購入費トシテ給與			
	15 何々債券本期分利子受取ル	3,000		3,000
	六月分 計	3,000	0	3,000
	累 計	113,000	140,000	253,000
7	2 學生某死去ニ付貸費返納免除トナル			
	七月分 計	0	0	0
	累 計	113,000	140,000	253,000

寄 附 金

寄附金額又ハ證券ノ額面		金千圓(又ハ公債證書額面千圓)年々百圓ツツ拂込(又ハ即時全額拂込)		残 高	備 考
拂 出 高	支 出 高	計			
				100,000	現在存置證券
10,000		10,000		90,000	
	20,000	20,000		70,000	
10,000		10,000		60,000	
				70,000	
				85,000	
20,000	20,000	40,000			
10,000		10,000		75,000	
				105,000	
	40,000	40,000		65,000	50 額面五拾圓券壹枚時價額面百圓ニ付八拾圓ノ割
20,000		20,000		45,000	
40,000		40,000		5,000	
				100,000	
70,000	40,000	110,000			50
90,000	60,000	150,000			50
	30,000	30,000		70,000	
	10,000	10,000		60,000	
				63,000	
0	40,000	40,000			0
90,000	100,000	190,000			50
20,000	20,000	0		63,000	
20,000	20,000	0			0
70,000	120,000	190,000			50

● 經理委任ニ屬スル獎學費ノ取扱方ニ付注意ノ件

明治四十一年十一月四日
會計課長 通牒

帝國大學特別會計法並學校及圖書館特別會計法ニ依リ經理ヲ委任セラレタル獎學費ノ取扱方ニ付左記ノ如キ取扱ノ錯誤ニ出テシ向有之カ訂正ニ付テハ管ニ手數ヲ要スルノミナラス大藏省、會計検査院、關係〔金庫〕等ニ對シ錯綜ノ關係ヲ惹起シ殊ニ年度經過後出納整理期限經過後ニ在テハ訂正ノ途無之其ノ結果容易ナラサル場合モ相生シ候儀ニ付特ニ御注意相成度此段及通牒候也

- 一 有價證券ノ寄附ハ受領ト同時ニ委任經理ノ取扱ニ移ルヲ以テ從テ其ノ利子收入モ直ニ委任經理ノ計算ニ入ルヘキモノナルニ之ヲ經常歲入ニ受入レタル向アリ
- 二 現金ノ寄附ハ經常歲入ニ屬スル用途指定費タルト資金部歲入ニ屬スルモノトヲ問ハス總テ一旦特別會計ノ當該歲入ニ受入レ然ル後歲出豫算ノ範圍ニ於テ之ヲ學校長ニ拂出シ委任經理ノ取扱ニ移スヘキモノナルニ此ノ手續ヲナサスシテ直ニ委任經理ニ移セシ向アリ
- 三 經理委任ノ爲學校長ヘ拂出シタル現金ハ經理委任ニ係ル現金出納（取扱方ハ歲入歲出外現金出納ノ例ニ準ス）トシテ別途整理ヲ要スルモノナルニ歲入歲出外現金トシテ一般

認テ要セス日本銀行ニ於テ拂戻スコト

注意 三ノ事項ハ實行上ノ問題トシ通牒文中ヨリハ削除相成タルニ付御承知ヲ請フ

● 委任經理ニ關スル有價證券ハ從來通處理方ノ件

大正十五年五月一日
發會一八號會計課長通牒

三月二十五日付當省發會一八號ヲ以テ申進メタル貴校（學）資金部ニ屬スル政府所有有價證券ヲ日本銀行本店ヘ寄託換ノ件ニ就テハ委任經理ニ係ル有價證券ハ大正十一年十一月八日發會三七八號通牒ノ次第モ有之從來ノ通御處理相成度此段通牒ス
追テ委任經理ニ係ル有價證券ニシテ日本銀行本店ヘ寄託換相成タル向ハ至急取戻方取計相成度

● 寄附金受領報告事項ニ關スル件

昭和六年四月十七日
會計課長 通牒

大學並學校ノ獎學寄附金（帝國學士院ノ學術研究獎勵寄附金）受領ノ報告事項ハ從來區々ニ互リ往復ヲ重ヌル場合モ不尠ニ付爾今左記事項ヲ具シ御報告相成度此段通牒ス
追テ新ニ寄附金ノ管理方法ヲ定ムルトキハ大臣ノ認可ヲ要ス

出納官更ノ現金出納簿ニ登記整理スル向アリ

四 經理委任ニ移リタル現金ヲ預金トシテ〔中央金庫〕ニ預ケ入ルル場合ハ預金通帳ヲ使用スルカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ學校一般ノ預金ト區別スヘキ管ナルニ何等區別ヲナサスシテ學校一般ノ預金ト混用シ爲ニ其ノ收支計算ノ錯誤ヲ生セシ向アリ

● 委任經理ニ係ル有價證券處理方ノ件

大正十一年十一月八日
發會三七八號會計課長通牒

貴學所屬委任經理ニ係ル有價證券ニシテ日本銀行ヘ寄託中ノモノアラハ爾今左記ノ通御處理相成度此段及通牒
追テ本件ハ日本銀行ト協議濟ニ付御承知相成度

- 一 現在寄託中ニ係ルモノハ此際其ノ種類額面、記號、番號ヲ列記シ委任經理所屬ノ分ナルコトヲ日本銀行（學校所在地ノ本支店又ハ代理店ヲ云フ）ニ通知シ置クコト
- 二 將來新ニ寄託スル場合ニハ特ニ委任經理所屬ノ分ナルコトヲ明記シ置クコト
- 三 「委任經理所屬有價證券ノ取扱者ハ學校長ナルモ便宜有價證券取扱主任官ノ口座ニ於テ寄託處理セシムルコト」
- 四 前記委任經理所屬ノ旨通知濟ノ分ハ拂戻ノ際文部大臣ノ承

ルニ付御了知相成度申添フ

記

- 一、寄附金額（有價證券ハ證券名、額面及時價）
- 二、寄附金受領年月日
- 三、寄附者ノ住所、身分、氏名
- 四、寄附ノ目的並條件
- 五、寄附金ノ名稱アルモノハ其ノ名稱
- 六、寄附金ノ管理方法
- 七、寄附金ノ取扱等ニ關シ新ニ規程ヲ設ケタルモノハ其ノ規程
- 八、寄附金ノ收入科目

第五章 契約

第五章 契約

●會計法第三十一條第二項適用ノ件

大正十一年二月十日
官會七號會計課長移牒

會計法第三十一條第二項ニ依リ指名競争又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ付別記ノ通り今般閣議決定ノ旨内閣總理大臣ヨリ通牒アリタルヲ以テ右様御了知相成度此段移牒ス

記

第一 各省大臣ハ左ニ掲クル事由ニ因リ一般ノ競争ニ付スルヲ不利ト認ムル場合ニ限り會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付スルコトヲ得

一 當業者相連合シテ不當ノ競争ヲ爲サムトスルノ虞アルトキ

二 不誠實又ハ不信用ノ者競争ニ加入シ不當ノ競争ヲ爲スノ虞アルトキ

三 特種ノ構造又ハ品質ヲ要スル工事製造又ハ物件ノ買入ニシテ検査著シク困難ノモノナルトキ

四 契約上ノ義務ニ違背アルトキハ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アルトキ

第二 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ限り會計法第三十一條第二

第五章 契約

項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 現ニ契約履行中ノ工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關聯スルモノニシテ之ヲ他ノ者ヲシテ分割履行セシムルコトヲ不利トスルトキ

二 隨意契約ニ依ルトキハ時價ニ比シ著シク有利ナル價格ヲ以テ契約ヲナシ得ヘキ見込アルトキ

三 買入ヲ要スル物品多量ニシテ分割購入ヲ爲スニ非サレハ買占其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ價格ヲ騰貴セシムルノ虞アルトキ

四 急速ニ契約ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲スノ機會ヲ失フノ虞アルトキ又ハ著シク不利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲ササルヘカラサルノ虞アルトキ

五 前項各號ノ場合ニ於テ指名競争ニ付スルコトヲ不利トスル特別ノ事由アルトキ

第三 前二項ニ掲クル場合ノ外一般ノ競争ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

備考

第三十一條政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シ競争ニ付ス

ハシ
國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但不動産賣拂ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

●會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般ノ競争ニ加ラントスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件

大正十一年四月 昭和二年
大藏省令第三十三號 二七號改正

第一條 工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスル者ハ一年以來其工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明スヘシ但合名會社、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ其ノ業務執行社員ノ一人、株式會社ニ在リテハ其ノ會社ヲ代表スル取締役ノ一人、組合ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル組合員ノ一人一年以來其ノ工事、製造又ハ物品供給ノ業務ニ從事スルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
工事、製造又ハ物品ノ供給ヲ營ム合名會社、合資會社及株式合資會社ノ業務執行社員、株式會社ヲ代表スル取締役又ハ組合ノ業務ヲ執行スル組合員タリシ者ニ付テハ其ノ在任期間中當該工事製造又ハ物品ノ供給ニ從事シタルモノト看做ス
第二條 工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスル者

ハ前條ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ證明スヘシ
一 個人ニ在リテハ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第三種所得稅、營業收益稅及乙種資本利子稅ノ合算額見積入札金額千分ノ一ヲ下ラサルコト
二 法人又ハ組合ニ在リテハ出資額又ハ拂込資本金額見積入札金額ヲ下ラサルコト但シ法人ニシテ二年以來其ノ毎年納メタル地租、第一種所得稅及營業收益稅ノ合算額見積入札金額千分ノ二ヲ下ラサルコトヲ證明シタルトキ又ハ合名會社、合資會社及株式合資會社ニシテ其ノ無限責任社員ノ一人、組合ニシテ其ノ組合員ノ一人前號ニ該當スルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關スル營業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ前營業者ノ當該營業ニ從事シタル期間及納付シタル稅額ハ承繼人ノ從事スル期間及納付シタル稅額ニ之ヲ通算ス
第四條 本令ノ規定ニ依リ證明ヲ要スル事項ハ當該官公署ノ認證アル書面ヲ以テ之ヲ立證スヘシ
第五條 公共團體ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスルトキハ本令ニ定ムル資格ヲ有スルコトヲ要セス
第六條 各省大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ一般ノ競争ニ加ラムトスル者ノ資格ニ付大藏大臣ト協議シテ本令ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條

朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ外國ニ於テ工事、製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ朝鮮總督府所屬ノ經費ニ付テハ朝鮮總督、臺灣總督府所屬ノ經費ニ付テハ臺灣總督、樺太廳所屬ノ經費ニ付テハ樺太廳長官、關東廳所屬ノ經費ニ付テハ關東長官、南洋廳所屬ノ經費ニ付テハ南洋廳長官、各省所屬ノ經費ニ付テハ所管大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前一般ノ競争ニ付スヘキコトヲ公告シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則

(昭和二年九月大藏省令第二七號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十一年大藏省令第三十三號第二條ノ規定ニ依リ昭和二年以前ノ納稅額ヲ計算スル場合ニ於テハ營業稅ハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

●一般ノ競争ニ加ハラムトスル者ノ資格ニ付解釋ノ件

昭和三年十一月一日主計局長通牒
同 月 二十 八 日會計課長移牒

大正十一年大藏省令第三十三號中解釋ノ件ニ付別紙寫ノ通大藏

省主計局長ヨリ通牒有之タルニ付爲念移牒ス
(別紙寫)

大正十一年大藏省令第三十三號(會計規則第九十六條ノ規定ニ依リ一般競争ニ加ハラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件)中解釋ノ件ニ付別紙寫ノ通海軍省經理局長ヨリ照會有之候ニ付(口)ノ通リト回答致シ置候條爲念及通牒候也
別紙 (昭和五年十月十九日海軍省經理局長ヨリ大藏省主計局長ヘ照會)

本件ニ關シ左記ノ通ノ疑義ヲ生シ候ニ就テハ貴省ノ御意見承知致度右照會ス
記

第二條中「二年以來其ノ毎年納メタル地租云々」トアルハ
(口) 1 毎年所定率以上納稅ヲ要スルカ
2 二年ヲ通算シ所定率ニ達スレハ可ナリヤ

●會計規則(第九十七條)ノ各號ニ該當スト認メラレタル者アル場合各省間互ニ相通知スルノ件

明治三十五年十月十四日
內 閣 通 牒

(本年八月勅令第二百號)ヲ以テ會計規則中改正相成候結果トシテ各省所管ニ於テ同規則第九十七條(舊規則第六十九條ノ二)ノ

各號ニ該當スト認メラレタル者アル場合ニ於テハ其ノ氏名住所及事實ヲ各省間互ニ通知スルハ取締上必要ノ儀ト被認候條爾後右様御取計有之度依命此段及御通牒候也

●年報ノ印刷及製本供給ノ競争者資格ノ件

明治三十年十月
文部省令第二十五號

文部省ニ於テ編纂スル年報ノ印刷及製本供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第九十六條第一項ノ外尙左ニ掲クル資格ヲ備フルコトヲ要ス

一 東京市内ニ於テ印刷及製本ノ工場ヲ有スルコト

●指名セサル者ト隨意契約ノ件

大正五年八月二十五日
次官 裁 定

指名入札不調ノトキ指名セサルモノト隨意契約差支ナシ

●指名競争入札ノ結果隨意契約ヲナシタルトキ報告ヲ要セサル件

大正五年五月五日會計検査院ト協議
同年六月三十日會計課長 通牒

貴學(校、館、臺、所)ニ於テ工事又ハ物件ノ購入ニ付指名競争入札ノ結果不調ニ終リ隨意契約ヲ締結シタル場合ニハ爾今報告書提出ニ及ハサルニ付右様御了知相成度此段及通牒候也

●隨意契約ノ場合契約書省略ノ件

大正十三年十一月二十五日
發會三五九號會計課長 通牒

當省所管ニ於テ官公署ト隨意契約ノ場合契約書省略ノ件ニ關シ別紙寫ノ通大藏大臣ト協議濟ニ付此段通牒ス

(別紙寫)

十月二十三日附發會第三五九號ヲ以テ御協議ニ係ル貴省所管ニ於テ官公署ト隨意契約ヲ爲ス場合契約書ノ作製ヲ省略スルノ件ニ付テハ異存無之候也(大正十三年一月十三日裁)
(一五二二一號大藏大臣回答)

●會計規則第百十四條第一項第十二號

解釋ノ件(一)

明治三十七年六月二十日
大臣 裁 定

會計規則第百十四條第一項第十二號(舊會計法第二十四條第十四號)中「政府ノ設立シタル(中略)教育ニ係ル各所ノ生産製造物品」トアルハ製造物品中ニハ大日本史料及大日本古文書ノ如キ編纂シタル圖書ヲ包含ス

●會計規則第百十四條第一項第十二號

解釋ノ件(二)

大正十二年八月十日裁理七六九八號大藏大臣通牒
同年同月二十日官會三〇一號會計課長 移牒

會計規則第百十四條第一項第十二號ニ關シ別紙寫ノ通大藏大臣ヨリ通牒有之タルニ付爲念此段移牒ス

(別紙)

會計規則第百十四條第一項第十二號ニ於テ「生産又ハ製造ニ係ル物品」トアルハ同號列舉ノ農工場等ニ於テ爲スヘキ生産又ハ製造手續、生産力製造ノ過程タル場合ハ雙方ノ手續終了ノ結果成レル物品ヲ意味スルモノニシテ未タ其ノ手續終了前ノ未成品ヲ賣拂フ場合ノ如キハ同號ニ依リ隨意契約ヲ爲スコトヲ得ルノ限ニ無之ト被存候條此段爲念及御通牒候也(大正十二年八月十日裁七六九八號大藏大臣通牒)

●醫師法ニ依リ設立セル醫師會ハ公共

團體ト認ムヘキノ件

大正十一年一月十四日衛醫一
五九二號內務省衛生局長回答

大正十年十二月文部省官會五三七號ヲ以テ御照會ニ係ル醫師法ニ依リ設立セル醫師會ハ公共團體ト認メ候右及回答候也

●文部省請負並購買規則

昭和五年三月六日
大臣 裁 定

第一章 競争入札

第一條 工事製造又ハ物品供給ノ一般競争ニ加ラントスル者ハ大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格證明書ヲ提出スヘシ

第二條 入札者ハ入札ノ日時前ニ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額ノ百分ノ五以上ノ入札保證金ヲ納ムヘシ但シ指名競争ニシテ入札保證金ノ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

前項ノ入札保證金ハ取扱官吏ノ調査ヲ受ケ其ノ面前ニ於テ封緘ノ上現金ニ在リテハ其ノ金額國債ニ在リテハ其ノ券面額、枚數及總額ヲ氏名ト共ニ封皮ニ明記シ第一號様式ノ納付書ト共ニ之ヲ提出スヘシ

登錄國債ナルトキハ國債規則第三十七條ニ依リ質權設定ノ手續ヲ爲シ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ

第三條 入札保證金ハ落札トナラサル者ニハ即時之ヲ還付シ落札者ニハ契約締結ノ上其ノ受領證書ト引換ニ之ヲ還付ス

第四條 入札者ハ公告又ハ通知書ニ示シタル日時迄ニ第二號様式ノ入札書ヲ封緘シ氏名ヲ表記シテ之ヲ入札執行ノ場所ニ提出スヘシ但シ代理人入札ヲ爲ス場合ニハ委任狀ヲ提出スヘシ

第五條 入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消

ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 左記各號ノ一ニ該當スル入札ハ無効トス

- 一 競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札
- 二 工事名又ハ物品名等ノ記載ニ重大ナル錯誤アルモノ
- 三 金額ヲ正確ニ認識シ難キモノ
- 四 金額ノ訂正ニ捺印ナキモノ
- 五 氏名(法人ニ在リテハ法人名及代表者名)ノ判明セサルモノ及捺印ナキモノ
- 六 入札保證金不足スルモノ

第七條 入札場ニハ入札者、掛員及本規則ニ規定スル者ノ外入場ヲ許サス

一旦入場シタル入札者ハ主任官吏ノ許可ナクシテ濫ニ退場スルコトヲ得ス

第八條 開札ハ公告又ハ通知書ニ示シタル場所日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシム

第九條 豫定價格以內ニシテ最低價格ノ入札ヲ爲シタル者ヲ以テ落札者トス

落札ト爲ルヘキ同價格ノ入札者二名以上アリタルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ

爲サシム

第十條 入札中豫定價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシム

第十一條 競争者相連合シ又ハ不穩ノ舉動ヲ爲ス等入札ヲ正當ニ執行スルコト能ハサル狀況アリト認めタルトキハ其ノ入札ヲ延期シ若クハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ

第二章 工事製造請負契約

第十二條 落札者ハ落札金額ノ百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ左ノ區別ニ依リ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 現金ナルトキハ保管金取扱規程第五條第二項ニ依リ日本銀行ニ振込ヲ爲スヘシ
- 二 國債ナルトキハ政府保管有價證券取扱規程第七條ニ依リ日本銀行ニ振込ヲ爲スヘシ
- 三 登錄國債ナルトキハ第二條第三項ニ依ルヘシ

第十三條 落札者ハ落札決定ノ日ヨリ七日以內ニ左記書類ヲ提出スヘシ但シ期間ノ變更ヲ必要トスルトキハ入札前ニ於テ之ヲ指示スヘシ

- 一 契約書(第三號様式)
- 二 契約保證金ニ對スル預金部預金振込済通知書、政府保管有價證券振込済通知書及其ノ印鑑又ハ登錄國債實權設定登録済通知書

第十四條 指名競争ヲ行フ場合ニ於テ契約保證金ノ必要ナシトスルコトアルヘシ

認ムルトキハ豫メ通告シテ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第十五條 落札者第十三條ノ書類ヲ其ノ期間内ニ提出セサルトキハ契約ヲ結ハサルモノト看做シ入札保證金ハ政府ノ所得トス但シ契約擔任官ニ於テ正當ノ事由ニ因リ延期ノ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限りニ在ラス

第十六條 請負人ハ契約締結ノ日ヨリ十日以內ニ請負金内譯書(第四號様式)並工程表(第五號様式)ヲ提出スヘシ但シ簡易ノ請負ニ對シテハ契約書ト共ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ内譯書及工程表中不適當ト認ムルモノアルトキハ期間ヲ指定シテ之ヲ訂正セシムルコトアルヘシ

第十七條 契約擔任官ハ請負契約締結後必要ニ應シ契約ノ一部ヲ解除シ又ハ設計ヲ變更シ若クハ施工ヲ中止セシムルコトアルヘシ

請負人ハ之ニ對シ異議ノ申立又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ契約期間ヲ伸縮スルノ必要アルトキハ契約擔任官ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 契約ノ一部ノ解除又ハ設計變更ノ場合ニ於テ其ノ減少部分ハ契約當時ノ請負金内譯書ニ依リ增加部分ハ時價ニ依リ雙方協議ノ上請負金額ヲ更正シ承諾書又ハ追加契約書ヲ提出セシメ増加額ニ對シテハ契約保證金ヲ追納セシムルコトアルヘシ

ルヘシ

第十九條 請負人ハ第十七條ニ依リ請負金額三分ノ一以上減少シタルトキ又ハ中止期間カ契約期間ノ二分ノ一以上ニ及フトキハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 請負人ハ天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ヲ證明シテ契約ノ解除又ハ履行ノ延期ヲ請求スルコトヲ得事由ノ認定及延期期間ノ決定ハ契約擔任官ニ於テ爲スモノトス

第二十一條 第十九條又ハ第二十條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ仕様書及圖面ニ適合セル既済部分ハ直ニ之ヲ引渡サシメ請負金内譯書ニ基キ其ノ代價ヲ支拂ヒ契約保證金ハ之ヲ還付ス但シ内拂ヲ爲シタル既済部分ニシテ減失又ハ毀損引渡ヲ爲スコトヲ得サルモノアルトキハ其ノ内拂金ヲ返納セシメタル後契約保證金ハ之ヲ還付ス

第二十二條 請負人契約ヲ履行セス又ハ施行緩慢ニシテ契約期間内ニ到底完成スルノ見込ナシト認めタルトキハ契約ヲ解除シ契約保證金ハ政府ノ所得トス契約保證金ヲ徵セサル場合ハ違約金トシテ請負金ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ徵收ス但シ情狀ニ依リ保證金ノ一部ヲ還付シ又ハ違約金ノ率ヲ減スルコトアルヘシ

第二十三條 契約擔任官ハ前條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ仕様書及圖面ニ適合セル既済部分ハ之ヲ引渡サシメ請負金内譯書ニ基キ其ノ代價ヲ支拂フコトアルヘシ但シ内拂ヲ爲

シタル既済部分ニシテ減失又ハ毀損引渡ヲ爲スコトヲ得サ
ルモノアルトキハ其ノ内拂金ヲ返納セシム

第二十四條 契約解除ノ場合ニ於テ引渡ヲ受ケサル物件ハ指定
ノ期間内ニ請負人ノ撤去シ其ノ他原状回復ヲ爲スヘシ

請負人前項ノ義務ヲ果ササルトキハ契約擔任官ニ於テ適宜處
分シ其ノ費用ハ請負人ニ負擔セシム

第二十五條 請負人ハ契約解除、設計變更又ハ請負事項ノ完成
ニ至リタル場合ニ於テ不用ニ歸シタル交付品アルトキハ直ニ
之ヲ返付スヘシ若シ之ヲ返付セサルトキハ契約擔任官ノ認定
ニ依ル賠償金ヲ指定ノ期間内ニ納付セシム

第二十六條 契約期間内ニ請負事項完成セサルトキハ遅延賠償
金トシテ請負人ハ遅延日數ニ應シ一日毎ニ引渡未済部分ニ對
スル請負金ノ千分ノ一ニ相當スル金額ヲ指定期間内ニ納ムヘ
シ

第二十七條 第二十條ノ事實アルニ非スシテ契約期間内ニ請負
事項ヲ履行スルコト能ハサルトキハ更ニ期間ヲ定メテ其ノ延
期ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ契約擔任官ニ於テ差
支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシト雖請
負人ハ前條遅延ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條 請負人ハ請負事項ノ完成ニ至リタルトキハ第六號
様式ニ依リ届出テ検査ヲ受クヘシ

検査中ノ日數ハ契約履行期間ニ算入セス

第三十六條 本則中ノ賠償金ハ請負金ト相殺シ不足ヲ生スルト
キハ更ニ之ヲ追徴スヘシ

第三十七條 請負人債權ノ讓渡ヲ爲ス場合ハ豫メ契約擔任官ノ
承認ヲ受クヘシ

第三十八條 請負人ハ請負事項ノ全部ヲ下請負セシムルコトヲ
得ス但シ他人ヲシテ其ノ一部ノ作業ヲ施行セシムルノ必要ア
ルトキハ豫メ其ノ施行者名ヲ届出テ契約擔任官ノ承認ヲ受ク
ヘシ

前項ニ違背シタルトキハ第二十二條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲ス
ヘシ

第三十九條 請負事項完成引渡後ニ於ケル瑕疵ノ修補ハ民法請
負ノ規定ニ依ル

第四十條 工事ニ使用スル材料ハ總テ使用前監督者ノ検査ヲ受
クヘシ検査未済ノ材料ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

検査ノ結果不合格トナリタル材料ハ直ニ場外ニ之ヲ搬出スヘ
シ

第四十一條 請負人仕様書ニ定メタル交付品ノ引渡ヲ受ケタル
トキハ其ノ都度領收書ヲ提出シ其ノ保管ノ責ヲ負ヒ若シ之ヲ
亡失毀損シタルトキハ天災事變其ノ他避クヘカラサル場合ヲ
除クノ外指定ノ期間内ニ代品ヲ辨償シ又ハ指揮ニ從ヒ其ノ修
理ヲ爲スヘシ

前項ノ辨償又ハ修理ヲ爲ササルトキハ契約擔任官ノ認定ニ依
リ

第二十九條 前條ノ検査ニ不合格トナリタルモノアルトキハ請
負人ハ契約擔任官ノ指定スル期間内ニ之ヲ修補又ハ改造シ更
ニ其ノ検査ヲ受クヘシ若シ指定期間内ニ工事ノ修補又ハ改造
ヲ爲ササルトキハ契約擔任官ニ於テ之ヲ施行シ請負金ヲ相當
減額スルコトアルヘシ

前項ノ修補又ハ改造ニシテ契約ノ履行期間外ニ涉ルトキハ第
二十六條ニ依リ遅延ノ責ヲ免レサルモノトス

第三十條 契約ノ目的物引渡前ニ生シタル損害ニシテ當事者雙
方ノ責ニ歸スヘカラサルモノハ總テ請負人ニ於テ負擔スヘシ

第三十一條 請負人ハ工事製造及材料ノ検査上特ニ必要ナル費
用ヲ負擔スヘシ

第三十二條 請負金ハ第二十八條及第二十九條ノ手續ヲ了シタ
ル上第七號様式ニ依リ請負人ノ請求ヲ俟テ之ヲ支拂フヘシ

第三十三條 契約上特ニ定メタルモノハ其ノ既済部分ニ對スル
代價ノ十分ノ九以內箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事ニ於ケル
各箇ノ完成部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ請負事項完成
以前ニ於テ第八號様式ニ依リ請負人ノ請求ヲ俟テ之ヲ支拂フ
爲スヘシ

第三十四條 本則中工事既済部分中ニハ加工セサル建築材料ヲ
含マサルモノトス

第三十五條 契約保證金ハ本則中ニ於ケル一切ノ義務ヲ履行シ
タル上其ノ受領證書ト引換ニ之ヲ還付ス

賠償金ヲ指定ノ期間内ニ納付セシム

第四十二條 監督者ニ於テ工作方法又ハ使用材料等ニシテ仕様
書及圖面ニ適合セスト認メタルモノアルトキハ何時ニテモ之
ヲ引換又ハ改造セシムヘシ

第四十三條 請負人ハ工事ニ使用スル材料中調査ヲ要スルモノ
ハ監督者立會ノ上之ヲ爲スヘシ立會ヲ受ケスシテ調査シタル
モノハ使用スルコトヲ得ス

水中又ハ地下ニ埋設スル工事其ノ他竣功後外面ヨリ明視スル
コト能ハサル工事ハ特ニ監督者立會ノ上施行スヘシ

第四十四條 請負人ハ工事ニ從事スル職工人夫等ノ取締ヲ爲シ
若シ監督者ノ指揮ニ從ハス又ハ不良ノ行爲アルトキハ直ニ之
ヲ退場セシメ再ヒ使役スヘカラス

第四十五條 請負人ハ工事ニ從事スル使用人其ノ他職工人夫等
ノ故意又ハ過失ニ因リ官有物ヲ滅失毀損シタル場合ニハ之ヲ
原形ニ復スルカ又ハ之カ賠償金ヲ指定ノ期間内ニ納ムヘシ

第四十六條 請負人ハ工事場ニ於ケル衛生及火災盜難等ノ取締
ヲ爲シ持込材料ハ請負人ニ於テ監守シ亂雜ニナラサル様藏置
スヘシ

第四十七條 請負人ハ工事完成後監督者ノ指揮ニ從ヒ内外ノ取
片付ヲ爲スヘシ

第三章 物品供給契約
第四十八條 物品供給契約ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第四十九條 供給人現品ノ納入ヲ遅延スルトキハ遅延賠償金トシテ遅延日數一日ニ付未納品ニ對スル代價ノ千分ノ一ニ相當スル金額ヲ指定ノ期間内ニ納ムヘシ

第五十條 購入物品ノ代價ハ第九號様式ニ依ル納品書ヲ提出セシメ檢收ノ上第十號様式ニ依ル供給人ノ請求ヲ俟テ之ヲ支拂フヘシ

分割支拂ノ場合ハ前項ニ準シ既納部分ニ對シ其ノ代價ヲ支拂フヘシ

附 則

本規則ハ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

納付書

一金 何程

但何々工事(何々物品)入札保證金

右納付ス

年 月 日

住所

納付人 氏

名 ⑩

出納官吏宛

第二號様式

入札書

一、何々工事(何々物品)

一、金 何程

右文部省請負並購買規則、仕様書、圖面(注文書)ニ從ヒ入札ス

年 月 日

住所

氏 名 ⑩

(法人ニ在リテハ法人名及代表者名、印)

契約擔任官宛

第三號様式(イ)

契約書

印 紙

何々工事ノ請負ニ對シ左記ノ通契約ス

一、請負金 何程

一、契約保證金 何程

但

一、請負人ハ何年何月何日迄ニ別冊仕様書、圖面ニ基キ之ヲ完成スヘシ

一、文部省請負並購買規則ハ契約者相互之ヲ確守スヘシ

一、請負金ハ文部大臣官房會計課ヨリ何回ニ支拂フヘシ

右相違ナキコトヲ證スル爲茲ニ契約書ニ通ヲ作成シ雙方記名捺印ノ上各一通ヲ保有シ置クモノ也

年 月 日

契約擔任官

文部大臣官房會計課長文部書記官 何某 ⑩

同 建築課長文部技師 何某 ⑩

住所

請 負 人 氏 名 ⑩

第三號様式(ロ)

契約書

印 紙

何々何點購買ニ對シ左記ノ通契約ス

一、代金 何程

一、契約保證金 何程

但

一、別冊仕様書、圖面及注文書ニ基キ何年何月何日迄ニ某所ニ納入スヘシ

一、文部省請負並購買規則ハ契約者相互之ヲ確守スヘシ

一、代金ハ文部大臣官房會計課ヨリ何回ニ支拂フヘシ

右相違ナキコトヲ證スル爲茲ニ契約書ニ通ヲ作成シ雙方記名捺印ノ上各一通ヲ保有シ置クモノ也

年 月 日

契約擔任官

文部大臣官房會計課長文部書記官 何某 ⑩

住所

供 給 人 氏 名 ⑩

第四號様式

何々工事請負金内譯書

一金何程

内譯

金何程

請負金額

何々教室
鐵筋混凝土造二階建延何坪

名	稱	材	種	寸	法	數	量	單	價	金	額
基礎ノ部	何々										
何々	何々										
小計	何々										
石工ノ部	何々										
何々	何々										
小計	何々										
合計	小計										

備考 建物、構造、坪數ハ仕様書記載ノ區分ニ依リ建物別ニ記載シ基礎、石工、混凝土、木工、屋根金屬、建具、左官、塗師、地均、排水、雜工等ノ部ニ區別掲上スヘシ

年 月 日 請負人 住所 氏 名

契約擔任官宛

第五號様式

何々工工程表

種別	建物名稱、構造坪數	契約		竣工	
		何々教室	何々	何々	何々
標準備	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
根切	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
杭打	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
割栗石地形	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
コンクリート打	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
根切埋メ戻	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
石材彫刻及据付	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
鐵筋組立	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
鐵骨組立	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
地階コンクリート打	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
一階同上	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
二階同上	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
蔽	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
コンクリート防水	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日
軸及小屋組	何々	著手豫定月日	終了豫定月日	著手豫定月日	終了豫定月日

右ノ通	何々	何々	何々	排	塗	建	左	タ	金	屋	内
	々	々	々	水	師	具	官	イル	屬	根	外
年	月	日	住所								
			請負人								
			氏名								
			契約擔任官宛								

第六號様式

工事竣功届書

何年何月何日契約

一、何々工事

内譯

何々教室

鐵筋混凝土造何階建何坪
或ハ木造何階建

右何年何月何日竣功ニ付御検査ノ上御受取相成度

年 月 日

請負人

住所

氏名

契約擔任官宛

第七號様式

何々工事請負金請求書

何年何月何日契約

一、金 何 程

但何年何月何日竣功

「又ハ」

何年何月何日契約請負金何程ノ内

一、金 何 程

但何年何月何日竣功

外

金 何 程

第一回内拂トシテ受領済

右請求ス

年 月 日

請負人

住所

氏名

契約擔任官宛

第八號様式

何々工事請負金第何回内拂請求書

何年何月何日契約請負金何程ノ内

一、金何程 何年何月何日迄既済部分價格

内

金何程 第一回内拂トシテ受領済

右ハ第何回内拂トシテ相當金額御支拂相成度別紙既済部分價格内譯書相添請求ス

年 月 日

住所

請負人

氏名 ㊦

契約擔任官宛

(別紙)

何々工事既済部分價格内譯書

一、金何程

何年何月何日迄既済部分價格

内 譯

備考 (既済部分價格ノ内譯ハ請負金内譯書ニ依ルヘシ)

第九號様式

納品書

何年何月何日契約

一、何々物品 何程(何程ノ内何程)

右何年何月何日完納(分納)ニ付御検査ノ上御受取相成度

年 月 日

供給 人

住所

氏名 ㊦

契約擔任官宛

第十號様式

請求書

一、金何程

但何年何月何日契約

「又ハ」何々物品何點供給代金

一、金何程

但何年何月何日契約金何程ノ内

何年何月何日何々物品何點分納供給代金

外 金何程

第一回内拂トシテ受領済

右請求ス

年 月 日 供給 人

住所

氏名 ㊦

契約擔任官宛

●文部省請負並購買規則改正ニ件フ處理方ノ件

昭和五年四月二十八日 建築課長 決定

一、從來請負金内譯書ノ作製兎角遅延シ往々ニ差支ヲ生セシコトアリ爾今規定ノ日數内ニ必ス作製セシメ出張所長ハ直ニ之ヲ調査シタル上受理並查了ノ月日ヲ記シ送付セラルヘシ但規定日數内ニ内譯書ヲ提出シ難キモノアルトキハ其ノ理由及期日ヲ定メ延期方申出ル様取計ハルヘシ

一、契約保證金ハ請負金支拂ト同時ニ之ヲ還付シ來リタルモ工事竣工後幾何モナクシテ生シタル補修其ノ他契約上ノ義務ヲ怠リ往々催告ニ應セサルモノアルヲ以テ請負金ハ工事竣工後直ニ支拂フト雖モ爾今契約保證金ハ(請負並購買規則)全部工事完了シタル旨出張所長ノ報告ヲ(別記書式)俟ツテ還付スルコトトナリタリ契約保證金ヲ徴セサル工事ニ付テハ契約義務履行ノ如何ヲ工事成績報告ニ記スヘキコト

右通知ス

記

一、工事名

一、請負契約保證金

但 何々

何 程

右工事全部完了シタルニ付前記契約保證金還付相成度

年 月 日

何々出張所長名

又ハ何々工事監督主任名

建築課長 宛
會計課長

●入札又ハ契約ノ保證金ニ關スル件

明治四十三年九月 大正九年
勅令第三百四十號 五八一號改正

入札又ハ契約ニ關シ保證金ヲ徵スヘキ規定ナキ場合ニ於テモ當該官吏特ニ其ノ必要アリト認メタルトキハ現金又ハ國債ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

附則 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 大正九年十二月
勅令第五八一號

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ効力ヲ有ス

●政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債等ノ價格ニ關スル件

明治四十一年十一月 明治四五年
勅令第二百八十七號 一三六號改正

政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債、帝國鐵道會計法第二條ノ二ノ證券及大藏省證券ノ價格ハ其ノ債權金額ニ依ル

明治三十八年勅令第二十號ハ之ヲ廢止ス

●會計規則第六條解釋ノ件

明治三十四年十二月五日
總務長官 裁定

競争入札ヲ執行スルニ當リ初度ノ入札ニ於テ法定ノ入札保證金額不足スルタメ該入札ハ無効ノ宣告ヲ與ヘタル者更ニ入札保證金ヲ増納セハ再度ノ入札(初度ノ入札ハ何レモ豫定價格ノ制限ニ達セサルタメ再度ノ入札ニ付シタルトキ)ヲナサシムルヲ得ルヤ否ノ件ニ付左ノ兩說有之候處乙說ノ通取扱可然乎至急御裁決ヲ仰候

甲說

再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

(理由)

會計規則第六條(舊會計規則第七十七條)中直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得ト云ヘルハ直ニ入札ヲ再行スト謂フ旨趣ニ外ナラス故ニ其ノ所謂入札人トハ入札希望者ト解釋シテ毫モ差支ナシ故ニ初度ノ入札無効ナリシモノト初度ノ入札ヲナサシテ新ニ加入スルモノトハ問ハス其ノ資格及保證金トヲ具備スルニ於テハ再度ノ入札ヲ爲サシムルハ會計規則第六條(舊規則第七十七條)ニ違背セス

乙說

再度ノ入札ヲ爲サシムルヲ得ス

(理由)

會計規則第六條(舊規則第七十七條)ニ於テ初度ノ入札悉ク豫定價格ノ制限ニ達セサルトキ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルハ初度ノ入札人ニ對シ其ノ入札金額豫定價格ノ制限ニ達セサル旨ヲ宣言シテ再ヒ其ノ意志ヲ問フニ外ナラスシテ甲說ノ如ク單ニ入札ヲ再行スト謂ヘル旨趣ニアラサルナリ若シ夫レ入札ヲ再行シ新ナル入札者ヲ加入セシムル如キハ更ニ廣告シテ競争ニ付セサルヘカラス故ニ初度ノ入札ニ加入セス若クハ初度ノ入札無効タリシモノハ再度ノ入札ニ加ハラシムルヲ得ス或ハ言ハン初度ノ入札其ノモノハ假令無効ノ宣告ヲ受ケタリトスルモ苟モ入札人タリシ以上ハ再度ノ入札ニ加入スルヲ得ヘントハ實ニ誤謬モ亦甚シキモノナリ何トナレハ無効ノ入札ハ入札セザリシト同一ナレハナリ

●指名競争入札執行報告書式

大正十年六月十三日
發會一八五號會計課長通牒
大正十四年六月二十七日
發會二四一號ニヨリ追加

會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争入札(隨意契約ノ場合モ亦之ニ準ス)執行ノ結果御報告可相成報告書ハ別記書式ニ準シ御作製御進達相成度此段通牒ス
追テ會計検査院ヘハ當省ヨリ報告ヲ要スル儀ト御了知相成度

記

當校 工事(又ハ物品購買)ヲ爲スニ際シ之ヲ一般競争入札ニ付スルトキハ不當ノ競争ヲナスノ結果品質ヲ粗惡ニシ延テ政府事業ニ支障ヲ來スノ虞アルニ依リ會計法第三十一條第二項ノ規定ニ基キ左記何名ヲ指名シ競争入札執行ノ結果別紙ノ通契約締結セシニ付通知ス

大正 年 月 日

部 局 長 印

大臣 宛

記

豫定價格金 圓也
請負金額金 圓也
入札年月日 年 月 日
契約年月日 年 月 日
竣工又ハ納入期限 年 月 日
請負人氏名
政府ノ契約擔任者
歳出又ハ歳入科目
指名者氏名、資力、經歷、營業場所並入札金額

氏名	資力	經歷	入札金額	營業場所
何某	直接國稅年度何圓以上	何年間何業ニ從事	初度再度	何縣何郡何村番地

●指名競争又ハ隨意契約ニ依リタル場合會計検査院ニ對スル通知事項ニ關スル件

大正十一年五月十二日
官會二七八號會計課長移牒

買賣貸借請負其ノ他ノ契約ニシテ一般競争ニ付スルヲ不利ト認メ會計法第三十一條第二項ヲ適用セラレタル場合ニ於ケル會計規則第一百十二條及第一百九條ニ基ク御通知ニハ別記各項ヲ記載相成候様致度此段及照會候也(大正十一年五月一日送七三二號文部大臣宛會計検査院長照會)

記

- 一 契約ノ目的、其ノ數量及金額並豫定價格
 - 二 政府ノ契約擔任者、歳出又ハ歳入科目
 - 三 契約者及指名者ノ氏名、資力、經歷、營業場所
 - 四 入札及契約年月日並入札金額
 - 五 一般競争ニ付スルヲ不利トスル事由
- 記載例
- 1 閣議決定第一項第一號及第二號ノ場合ニハ不當競争ヲ爲スノ虞アリト認メタル事實
 - 2 同第三號ノ場合ニハ構造又ハ品質ノ特種ナル點及検査ノ困難ナル事實
 - 3 同第四號ノ場合ニハ契約違背ニ因リ政府ノ事業ニ著シ

キ支障ヲ來スノ虞アル事實

- 4 決定第二項第一號ノ場合ニハ前契約事項トノ關聯程度及之ヲ分割履行セシムルヲ不利トスル事實
- 5 同第二號ノ場合ニハ調査シタル時價
- 6 同第三號ノ場合ニハ所要總數量及時價並價格ヲ騰貴セシムルノ虞アリト認メタル事實
- 7 同第四號ノ場合ニハ契約ノ機會ヲ失シ又ハ著シク不利ト爲ルヘキ虞アリト認メタル事實
- 8 同第五號ノ場合ニハ指名競争ニ付スルヲ不利トスル特別ノ事由
- 9 決定第三項ノ場合ニハ一般競争ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特種ノ事由

●政府ニ於テ物品ノ販賣ヲ問屋業者ニ委託スルコトヲ得ル場合ニ關スル件

大正十二年六月
勅令第二百九十九號

政府ニ於テ物品ヲ販賣スルトキハ左ノ場合ニ限り問屋業者ニ其ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得

- 一 輸出ノ目的ヲ以テ物品ヲ販賣スルトキ
- 二 專賣品又ハ其ノ副産物ヲ販賣スルトキ
- 三 林産物又ハ礦産物ヲ販賣スルトキ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正二年勅令第二百八十號(獸皮賣却ノ件)ハ之ヲ廢止ス

●數年ニ渉ル拂下契約締結ノ件

大正五年六月二十一日京都帝國大學
學照會同月二十二日會計課長回答

照 會

本學ニ於テ目下樺太古丹岸川流域所在演習林立木拂下ノ準備中ニ有之候處右ハ伐採搬出及製材等ニ多大ノ設備ヲ要シ從テ經營上短期拂下ニテハ希望者ヲ得ルコト甚タ困難ナル状態ニ有之候ニ付數年ニ渉ル年期契約致度候へ共右ハ特ニ大臣ノ經伺ヲ要セス總長限リ處理相成差支無之儀ト存候へ共御意見如何ニ候哉一應承知致度此段及照會候也

回 答

右ハ貴官(總長)限リ御處置相成差支無之候(拔)

●政府ヨリ賣拂フ代金ノ延納ニ關スル件

大正十年八月 昭和九年
勅令第三百七十四號 三九五號改正

政府ニ於テ物件ヲ賣拂フトキハ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ代金ノ延納ヲ許スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ擔保ノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

第五章 契約

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十五年勅令第二百一十一號
 - 明治四十年勅令第六十五號
 - 明治四十一年勅令第二百六十九號
 - 明治四十二年勅令第二百五號
 - 明治四十二年勅令第二百一十八號
 - 明治四十二年勅令第三百十八號
 - 明治四十三年勅令第十一號
 - 明治四十三年勅令第二百四號
 - 明治四十四年勅令第二百一十一號
 - 大正二年勅令第二百八十二號
 - 大正五年勅令第九十四號
- 本令施行前提供シタル國債以外ノ擔保ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●帝國大學資金所屬森林ノ產物又ハ製
品ノ賣拂代金延納ニ關スル件

大正十年十月
文部省令第四十三號

帝國大學資金所屬森林ノ產物又ハ製品ノ賣拂代金ハ一口五百圓以上ノ場合ニ限り擔保トシテ國債ヲ提供セシメ一年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ適用ス

●京都帝國大學化學研究所製成品拂下
代金延納ニ關スル件

昭和二年八月八日
次官 裁 定

化學研究所ニ於ケル製品ノ拂下代金ハ一口五百圓以上ノ場合ニ限り擔保トシテ國債ヲ提供セシメ六ヶ月以内延納ヲ許可スルコトヲ得

●傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘
苗血清類ノ賣拂代金延納ニ關スル件

大正十一年十月
文部省令第三十一號

傳染病研究所ニ於テ製造販賣スル痘苗血清類ノ賣拂代金ハ擔保トシテ參百圓以上ノ國債ヲ提供セシメ擔保額ニ達スルマテテ限度トシテ三月以内延納ヲ許可スルコトヲ得

ヲ講シ賃金不拂ニ關スル紛議ヲ生セシムルコトナキ様致度尙貴管下公共團體ニ對シテモ本文ト同一主旨ニ據ラシムル様御督勵相成度依命此段及通牒候也

記

- 一、工事請負契約締結ノ際請負契約書中ニ請負業者ヲシテ其ノ工事ニ使用セラルル労働者(下請負人ノ使用スル者及人夫供給契約ニ供給セラルル者ヲ含ム)ノ賃銀支拂ニ關シ其ノ責ニ任スヘキ旨ノ條項ヲ挿入セシムルカ又ハ其ノ旨別ニ誓約セシムルコト
- 尤モ労働者ヨリ相當ノ期間ニ賃金ノ請求ヲク請負人ニ於テ賃金不拂ノ事實ヲ知ラザリシ場合、又ハ請負人ノ代理人又ハ下請負人ノ代理人又ハ下請負人カ元請負人ノ負擔ヲ加重セシムル目的ヲ以テ不當ノ賃金ヲ支拂フヘキコトヲ約束シタル場合等ニ於テハ請負人ハ其ノ責ニ任スルヲ要セス必要アル場合ニハ其ノ主旨ヲ明カニスルモ差支ナシ
- 二、労働者ノ賃金不拂アルトキハ工事請負金ノ支拂又ハ工事保證金ノ返還ヲ留保シ又ハ保證金若ハ請負金カ賃金支拂ニ充テラルル様確實ナル方法ヲ講シテ之ヲ支拂フコト
- 三、第一項ノ契約ノ主旨ニ違反アルトキハ會計規則第九十七條第五號ニ該當スルモノトシテ入札ニ參加セシメサルコト

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土木建築事業ニ於ケル賃金支拂確保
ニ關スル件

昭和七年十二月二十八日社會局長官、內務次官通牒
同 八年一月二十日官會三號會計課長移牒

土木建築事業ニ於ケル賃金支拂確保方ニ關シ社會局長官、內務次官ヨリ別紙寫ノ通來旨有之タルニ付テハ貴官ニ於テモ同主旨ニ基キ適宜御處理相成様致度此段依命移牒ス

別紙一

標記ニ關シ地方長官並警視總監ニ對シ別紙ノ通牒致シ置キ候條貴官ニ於テモ右主旨ニ基キ労働者ノ賃金確保方ニ關シ何分ノ御高配相煩度此段依命及申進候也

別紙二

政府又ハ公共團體カ其ノ土木事業ヲ請負ニ付シタル場合ニ於テ請負人又ハ其ノ下請人カ労働者ノ賃金ヲ支拂ハス爲ニ紛議ヲ惹起スルノ事例往々ニシテ之ヲ見ルハ誠ニ遺憾トスル所ニ有之殊ニ近時ノ如ク官公土木工事カ失業救済ノ主旨ヲ以テ行ハルルコト多キ場合ニ於テ労働者ノ賃金カ不拂ニ陥ルカ如キコトハ甚タ其ノ主旨ヲ没却スルモノニ有之候ニ付テハ爾今土木建築工事ヲ請負ニ付スル場合ニ於テハ其ノ工事ニ於テ請負人(又ハ其ノ下請負人)ノ使用スル労働者ノ賃金支拂確保ニ關シ左記ノ方法

●國產獎勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關ス
ル件

昭和二年四月
法律第四十一號

國產獎勵ノ爲ニ必要アル場合ニ於テハ政府ハ當分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入ルル物品ニ付國產品タルコトヲ指定シ又ハ其ノ請負ヲ爲サシムル工事若ハ製造ノ材料ノ全部若ハ一部ニ付國產品ヲ使用スヘキコトヲ指定シテ契約ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國產獎勵ノ爲ノ會計法ノ特例ニ關ス
ル法律施行ニ關スル件

昭和二年十二月
勅令第三百七十三號

- 第一條 昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國產品ノ種目ハ大藏大臣之ヲ決定シ各省大臣ニ通知スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ國產品ノ種目ヲ決定セントスル場合ニ於テハ大藏大臣豫メ國產振興委員會ニ諮問スルコトヲ要ス
- 第二條 昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ會計規則中契約ニ關スル規定ニ拘ラス必要アルトキハ各省大臣豫メ大藏大臣ト協議シ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ通知ヲ爲シ又ハ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏

大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國産品ノ種目ニ關シ通牒ノ件

昭和三年四月二十五日
官會六八號會計課長通牒

昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國産品ノ種目ハ別紙ノ通決定セラレタルニ付御了知相成度此段通牒ス

昭和二年法律第四十一號ニ依リ契約ヲ爲シ得ル國産品種目

- 一、鉄 鐵 鑄物用又ハ製鋼用ニ適スルモノ
- 二、低磷鉄鐵 鑄物用又ハ製鋼用ニ適スルモノ
- 三、鐵合金 製鋼用ニ適スルモノ
- 四、軟鋼板 船體用又ハ蒸汽罐用ニ適スルモノ
- 五、特殊鋼

- 六、冷質引拔機目無鋼管 船體用又ハ蒸汽罐用ニ適スルモノ
- 七、冷質引拔機目無眞鍮管 船體用又ハ復水器用ニ適スルモノ
- 八、ネーバル眞鍮板 船體用又ハ復水器用ニ適スルモノ
- 九、錫 紙 紙卷煙草包裝用ニ適スルモノ
- 一〇、自動車
- 一一、自動自轉車
- 一二、航空機用發動機
- 一三、航空機々體及プロペラ
- 一四、力織機
- 一五、醫療用器械及附屬器具
- 一六、計測器
- 一七、球軸承
- 一八、人造研磨砥及研磨布紙 金屬研磨用ニ適スルモノ
- 一九、點火栓 內燃機用ニ適スルモノ
- 二〇、送信電球（水冷式ヲ除ク）

無線通信用ニ適スルモノ
二二、十六番銅覆銅線

野外通信用ニ適スルモノ
二二一、マグネト

內燃機用ニ適スルモノ
二三、炭素棒 探照燈用ニ適スルモノ

二四、炭素電極 電氣爐用ニ適スルモノ

二五、揮發油 內燃機用ニ適スルモノ

二六、礦 油 機械潤滑用又ハ電氣絶緣用ニ適スルモノ

二七、原 油

二八、頁岩油 艦船用燃料ニ適スルモノ

二九、オレイン油 工業用ニ適スルモノ

三〇、曹達灰 工業用ニ適スルモノ

三一、苛性曹達 工業用ニ適スルモノ

工業用ニ適スルモノ

同上種目追加第一回

昭和四年四月十日
官會四八號會計課長通牒

- 三二、硝酸加里 工業用ニ適スルモノ
- 三三、重クロム酸加里 工業用ニ適スルモノ
- 三四、人造染料及中間物
- 三五、無銀酸化鉛 金分試驗用ニ適スルモノ
- 三六、醫 藥
- 三七、毛織物
- 一、蒸汽機關車
- 二、空氣制動裝置 電車用ニ適スルモノ
- 三、外 輪 鐵道用車輛ニ適スルモノ
- 四、車 軸 鐵道車輛用ニ適スルモノ
- 五、臺 車 鐵道車輛用ニ適スルモノ
- 六、蒸汽暖房用品

- 七、航空機用發動機始動裝置
- 八、ストロージャー式私設自働電話交換機

私設電話用ニ適スルモノ

九、電話用試驗臺

一〇、電話用通知臺

一一、電話用障害受付臺

一二、電話用蓄電器

一三、電報受信用和文タイプライター

一四、電信用鑽孔紙

一五、電氣機關車

一六、電車モーター

一七、電車用制御器

一八、廻轉變流機

一九、電力用ケーブル

電力傳送用ニ適スルモノ

二〇、平等裝荷重信鉛被紙海底ケーブル（一四對以下）

電話通信用ニ適スルモノ但シスプリング式海底ケーブル及線輪裝荷海底ケーブルヲ除ク

二一、無裝荷重信鉛被紙海底ケーブル（五四對以下）

電話通信用ニ適スルモノ

同上種目追加第二回

昭和四年十月二十一日
官會二一五號次官通牒

一、ロードローラー

二、スチームシヨベル

三、浚渫機用グラブ

四、浚渫機用バケツト

五、内燃機關

六、潜水艦用蓄電池

七、低溫タール

同上種目追加第三回

昭和六年六月八日
官會七〇號會計課長通牒

一、木材

建築用又ハ家具製作用ニ適スルモノ

二、自働電話交換機及自働式電話ダイヤル

自働電話交換裝置用ニ適スルモノ（但シ國産品ノ代用カ技術上支障アル場合ニ限りS.H式及S.B式交換機ヲ除ク）

三、ケーブル裝荷線輪

ケーブル裝荷用ニ適スルモノ

同上種目追加第四回

昭和七年十一月三十日
官會二二〇號會計課長通牒

一、無裝荷G.P海底ケーブル

電信電話通信用ニ適スルモノ

二、平等裝荷G.P海底電話ケーブル

電話通信用ニ適スルモノ（但國産品ノ代用カ技術上支障アル場合及特殊品ヲ除ク）

同上種目追加第五回

昭和八年十二月二十二日
官會二三八號會計課長移牒

一、エチレングリコール

同上種目追加第六回

昭和十一年三月十一日
官會三三三號會計課長移牒

一、アルミニウム

●各省購入外國品目中内國品ニ代フルヲ可トスルモノト外國品ノ購入已ムヲ得サルモノトノ区分ニ關シ通牒ノ件

昭和四年十月二十一日 昭和一二年三月
官會二一三號次官通牒 追 加

別紙ノ通り大藏大臣ヨリ各省購入外國品中内國品ニ代フルヲ可トスルモノト外國品ノ購入已ムヲ得サルモノトノ区分ニ關シ通知アリタルニ付爾今第一項ノ物品ニ付テハ國産振興ノ趣旨ニ鑑

ミ授業研究上支障ヲ生セサル限り内國品ヲ使用相成様致度右通牒ス

一、各省購入外國品目中内國品ヲ以テスルヲ可ト認ムル種目

一、コンクリートミキサ

二、自動杭打機

三、時計

掛時計
置時計
普通標準時計
電氣時計（船舶用ヲ除ク）
懷中時計
腕時計

四、炭素鋼軌條（溝付軌條ヲ除ク）

長一米ニ付重量六、八、九、一〇、一一、一五、二二、三〇、三七、四五及五〇キログラムノモノ

五、金庫

六、鋼製書庫

七、輪轉磨寫機

八、旋盤（特殊品及精度特ニ高キモノヲ除ク）

九、鑽孔機（特殊品ヲ除ク）

一〇、螺錐

一一、携帶式電動鑽孔機

一二、内燃機關

瓦斯機關

四八二ノ一

ガソリン機關(ケロシン機關ヲ含ミ航空機自動車用其他輕量ノモノヲ除ク)

輕油機關

重油機關

一三、電熱器

一四、電氣鎔

一五、鉛蓄電池(潜水艦用ヲ除ク)

一六、電氣爐

抵抗爐(特殊品ヲ除ク)

電弧爐(特殊品ヲ除ク)

一七、有線電信機

海底電信機(特殊品及擬似ケーブルヲ除ク)

陸上電信機(印刷電信機、鍵盤鑽孔機及高速度用ノモノヲ除ク)

一八、有線電話機

手働式電話機

自動式電話機

手働式電話交換機

手働式電話記錄臺

手働式電話案内臺

手働式電話監督臺

一九、オイルベイント(船底塗料ヲ除ク)

二〇、ボイル油

二一、ワニス(電氣絶緣用ヲ除ク)

二二、リノリウム

二三、革調帶

二四、模造紙

二五、筆記用紙

二六、パラフィン紙

二七、筆記用鉛筆

二八、筆記用インキ

二九、毛織物

羅 紗

サージ

ヘ ル

フランネル

毛 布

三〇、窓 掛

三一、絨 氈

三二、カタン絲

三三、卓子掛

三四、キヤラコ

三五、テープ及リボン

三六、フェルト(特殊品ヲ除ク)

三七、窓硝子

三八、ゲージ硝子

三九、フラスコ

四〇、試験管

四一、硝子燃焼管

四二、硝子製計量器(特殊品ヲ除ク)

同上種目追加第一回

昭和五年六月二十五日 昭和十一年三月
官會八九號ノ一次官移牒 官會三三號更正

一、鑄鐵管

二、繼目無鋼管

三、瓦斯管(瓦斯、水、蒸氣等ノ輸送其他雜用)

四、水唧筒

五、消防用唧筒

六、氣體壓縮機(特殊品ヲ除ク)

七、送風機

八、通風機

九、自轉車

一〇、起重機

一一、捲揚機

一二、電動ホキスト

一三、シエーピングマシン

一四、プレスドリル

一五、製圖器

一六、携帶式電動グラインダー

一七、グラインディングマシン

一八、ピアノ(特殊高級品ヲ除ク)

一九、石炭ストーブ

二〇、瓦斯ストーブ

二一、トーチランプ

二二、ジャツク

二三、鋸

二四、製材用丸鋸

二五、筆記用ペン先

二六、發電機

二七、電動發電機

二八、電動機

二九、廻轉變流機

三〇、變壓器(變流器ヲ含ム)

三一、扇風器

三二、配電盤

三三、電力用繼電器

三四、電力用避雷器

三五、遮斷器

三六、開閉器

三七、包装用紙

- 三八、濾紙(特殊品ヲ除ク)
- 三九、吸取紙
- 四〇、羅紗紙
- 四一、複寫紙(特殊品ヲ除ク)
- 四二、タイプライター用ボンド紙
- 四三、研磨紙(金剛砂紙、エメリーペーパー)
- 四四、ゴムマツト
- 四五、ゴム絲
- 四六、字消ゴム
- 四七、製圖用繪ノ具
- 四八、印畫紙(航空寫眞X線寫眞其ノ他特殊ノ用途ニ供スルモノヲ除ク)

同上種目追加第二回

昭和六年六月八日
官會七〇號會計課長移牒

- 一、煖房用汽罐
- 二、水管式汽罐(特殊高壓品ヲ除ク)
- 三、印刷機械(特殊品ヲ除ク)
- 四、煖房用放熱器
- 五、人工太陽燈
- 六、チエーンプロツク(特殊品ヲ除ク)
- 七、把手式計算器

- 八、體溫計
 - 九、ミリングマシン(特殊品ヲ除ク)
 - 一〇、消火ピストル
 - 一一、小型消火器(航空機用ヲ除ク)
 - 一二、金錢登錄器
 - 一三、手形打拔器
 - 一四、電氣熔接用熔接棒(特殊品ヲ除ク)
 - 一五、自働番號器
 - 一六、宛名印刷器
 - 一七、ナフタリン
 - 一八、石炭酸
 - 一九、クレゾール
 - 二〇、サリチール酸
 - 二一、フォルマリン
 - 二二、醋酸
 - 二三、ステアリン酸
 - 二四、グリセリン(細菌試驗用ヲ除ク)
 - 二五、重炭酸曹達
 - 二六、硅酸曹達
 - 二七、硫酸アムモニア
 - 二八、燈油
- 普通燈油
信號燈油

動力用燈油

- 二九、輕油
- 三〇、スピンドル油
- 三一、マシン油
- 三二、冷凍機油
- 三三、マリンエンジン油
- 三四、ダイナモ油
- 三五、タービン油
- 三六、内燃機潤滑油(エアコンプレッサー油ヲ除ク)
- 三七、車軸油
- 三八、變壓器油
- 三九、開閉器油
- 四〇、パラフィン油
- 四一、旋盤油
- 四二、リノリウム油
- 四三、ギヤーグリース
- 四四、石蠟
- 四五、鋪道用アスファルト
- 四六、電壓計(特殊品ヲ除ク)
- 四七、電流計(特殊品ヲ除ク)
- 四八、直流用電壓電流計
- 四九、電力計(特殊品ヲ除ク)

- 五〇、電力用周波計(特殊品ヲ除ク)
- 五一、力率計(特殊品ヲ除ク)
- 五二、檢漏器

同上種目追加第三回

昭和七年六月一日
官會八九號會計課長移牒

- 一、天秤
- 二、浮秤
- 三、瓦斯計
- 四、水量計
- 五、晴雨計(特殊品ヲ除ク)
- 六、壓力計(特殊品ヲ除ク)
- 七、真空計
- 八、聯成計
- 九、經緯儀(トランシット)(特殊品ヲ除ク)
- 一〇、水準儀
- 一一、水準器
- 一二、プラニメーター
- 一三、パワーハンマー(特殊品ヲ除ク)
- 一四、パワープレス(特殊品ヲ除ク)
- 一五、ポンピングエンドシヤリングマシン(特殊品ヲ除ク)
- 一六、蓄電池車

- 一七、内燃機關車
- 一八、木工用旋盤
- 一九、丸鋸機
- 二〇、帶鋸機
- 二一、青寫真焼付機
- 二二、青寫真感光液塗布機
- 二三、エレベーター
- 二四、鑄物用モールドイングマシン
- 二五、スロツテイングマシン
- 二六、スレツテイングマシン(特殊品ヲ除ク)
- 二七、プレーニングマシン
- 二八、遠心分離機(特殊品ヲ除ク)
- 二九、噴霧塗裝機(特殊品ヲ除ク)
- 三〇、噴霧器
- 三一、自動連結器
- 三二、空氣制動機
- 三三、瓦斯熔接器
- 三四、瓦斯截斷器
- 三五、タイプレート
- 三六、アンチクリーパー
- 三七、リーマー
- 三八、ミリングカッター

- 三九、ギアカッター
- 四〇、ダイス(特殊品ヲ除ク)
- 四一、タツブ(特殊品ヲ除ク)
- 四二、金剛砥石(特殊品ヲ除ク)
- 四三、萬力
- 四四、苛性ソーダ
- 四五、アリザリン
- 四六、アンモニア
- 四七、過酸化ソーダ
- 四八、金屬ナトリウム
- 四九、二硫化炭素
- 五〇、晒粉
- 五一、重クロム酸カリ
- 五二、明礬
- 五三、アセトン
- 五四、アルコール
- 五五、硝酸
- 五六、亞硝酸ソーダ
- 五七、チフェニルアミン
- 五八、チメチルアニリン
- 五九、硫酸
- 六〇、發煙硫酸

- 六一、チオ硫酸ソーダ
- 六二、硫化ソーダ
- 六三、硫酸バリウム
- 六四、次亜硫酸ソーダ
- 六五、硫酸アルミニウム
- 六六、亞硫酸ソーダ
- 六七、硫酸銅
- 六八、炭酸
- 六九、醋酸ソーダ
- 七〇、醋酸鉛
- 七一、石鹼
- 七二、蠟燭
- 七三、セーム革
- 七四、擬革布
- 七五、印刷料紙(特殊品ヲ除ク)
- 七六、方眼紙
- 七七、放送用受信機
- 七八、無線用受信器
- 七九、デルヴイル送話器振動板
- 八〇、デルヴイル送話器炭素粒
- 八一、ソリットバツク送話器炭素粒
- 八二、電話用中繼線輪

- 八三、通信用濾波器
 - 八四、通信用繼電器(特殊品ヲ除ク)
 - 八五、漏話測定器
 - 八六、通話能率測定器
 - 八七、雜音測定器
 - 八八、光電管
 - 八九、電氣抵抗式溫度計
 - 九〇、熱電氣式溫度計
 - 九一、乾電池
 - 九二、電氣サイレン
 - 九三、電氣真空掃除器
 - 九四、水銀整流器
 - 九五、電氣鋸熱機
 - 九六、鐵道用自動信號機
 - 九七、踏切警報機
 - 九八、鐵道用電氣聯動機
 - 九九、電氣轉轍機
 - 一〇〇、電機車用集電裝置
 - 一〇一、車輛用戸閉裝置
- 同上種目追加第四回

昭和七年十一月三十日
官會二一〇號會計課長移牒

- 二、ナット
- 三、座金
- 四、鋼木ねじ
- 五、鋼リベット
- 六、ドックスパイク
- 七、ニクロム線(特殊品ヲ除ク)
- 八、鐵釘
- 九、鋼索(ロツクドコイルヲ除ク)
- 一〇、辨(特別高圧用ノモノヲ除ク)
- 一一、コツク
- 一二、鋳力板(特種罐詰用ノモノヲ除ク)
- 一三、蒸汽機關車
- 一四、蒸汽タービン
- 一五、ボールベアリング(特殊品ヲ除ク)
- 一六、ボーリングマシン(特殊品ヲ除ク)
- 一七、ポンピングマシン(特殊品ヲ除ク)
- 一八、ギアーホッピングマシン(特殊品ヲ除ク)
- 一九、ネオン管
- 二〇、電波計(特殊品ヲ除ク)
- 二一、真空管(特殊品ヲ除ク)
- 二二、短波長受信機
- 二三、マイクロフォン

二四、電氣熔接機(特殊品ヲ除ク)

同上種目追加第五回

昭和八年十二月二十二日 昭和十一年三月
官會二三八號會計課長移牒 官會三三號更正

- 一、紙綴器
- 二、計算尺
- 三、マイクロメーター(精度特ニ高キモノヲ除ク)
- 四、ダイヤルインデケーター(特殊品ヲ除ク)
- 五、截断庖丁(特殊品ヲ除ク)
- 六、ベンチ
- 七、レンチ
- 八、自動錐
- 九、布帛裁斷機
- 一〇、ニューマチツクツール(特殊品ヲ除ク)
- 一一、双眼鏡(特殊品ヲ除ク)
- 一二、雙眼鏡(特殊品ヲ除ク)
- 一三、望遠鏡(特殊品ヲ除ク)
- 一四、擴大鏡
- 一五、幻燈器械
- 一六、蝶番
- 一七、ドアチエツク
- 一八、活動寫真映寫機(特殊品ヲ除ク)

- 一九、ブレーキライニング
- 二〇、クラッチフエーシング
- 二一、回轉空氣壓縮機(特ニ大型ノモノヲ除ク)
- 二二、シートバイル
- 二三、トレーシングクロス(特殊品ヲ除ク)
- 二四、自動車タイヤ(特殊品ヲ除ク)
- 二五、自轉車チューブ
- 二六、ゴムホース(特殊品ヲ除ク)
- 二七、ゴムパッキング(特殊品ヲ除ク)
- 二八、石綿製品(特殊品ヲ除ク)
- 二九、クリリツチ管球(特殊品ヲ除ク)
- 三〇、レントゲン装置(深部治療用及工業用特ニ大型ノモノヲ除ク)

- 三一、絶縁抵抗試験器
- 三二、可搬ガソリン發電機
- 三三、簡易整流器

同上追加第六回

昭和十年二月十三日
官會一七號會計課長移牒

昭和十一年三月
官會三三號更正

- 一、硬度計(特殊品ヲ除ク)
- 二、工業用ピアノ線(特殊品ヲ除ク)
- 三、電氣鐵板(特殊品ヲ除ク)
- 四、ダイヤモンドツール

五、鑿岩機(特殊大型ノモノヲ除ク)

- 六、金切鋏
- 七、卷煙草製造機
- 八、ストリーカ
- 九、夜警時計
- 一〇、鉋削機
- 一一、堅鋸機
- 一二、碎鑽機
- 一三、アルミニウム箔
- 一四、タイムレコーダー
- 一五、顯微鏡(特殊品ヲ除ク)
- 一六、重油爐
- 一七、換氣棒
- 一八、箱錠
- 一九、草刈機
- 二〇、シヨツパー型抗張試験機
- 二一、陶齒
- 二二、ゴム手袋
- 二三、タイプライターリボン
- 二四、寫真用乾板(特殊品ヲ除ク)
- 二五、メタノール

- 二六、オイルシート、パツキング
- 二七、通信用蓄電器
- 二八、高聲電話機
- 二九、無線用サイフォン・レコーダー
- 三〇、無投影照明装置
- 三一、電氣冷蔵庫(特殊品ヲ除ク)
- 三二、交流用積算電力計
- 三三、電位差計(特殊品ヲ除ク)
- 三四、檢流計(特殊品ヲ除ク)
- 三五、石英水銀燈式褐色試験器

同上追加第七回

昭和十一年三月十一日
官會三三號會計課長移牒

- 一、ハツクソー(硬度大ナル特殊地金用ヲ除ク)
- 二、寫眞機(特殊品ヲ除ク)
- 三、引伸機(特殊品ヲ除ク)
- 四、炭酸ガス量記録計
- 五、回轉計(特殊品ヲ除ク)
- 六、濕度計(特殊品ヲ除ク)
- 七、溫度計(特殊品ヲ除ク)
- 八、ガソリン量器(特殊品ヲ除ク)
- 九、限界ゲージ

- 一〇、ピストンリング
- 一一、パイプカッター
- 一二、孵卵器
- 一三、真空ポンプ
- 一四、顯微鏡デツキガラス
- 一五、瓦斯熔接棒(特殊鋼材用ヲ除ク)
- 一六、血壓計
- 一七、自動溫度調節器(特殊品ヲ除ク)
- 一八、活性炭
- 一九、石英硝子製品(工業用大型製品ヲ除ク)
- 二〇、トレーシングペーパー
- 二一、水銀スキツチ

同上追加第八回

昭和十二年三月十八日
官會第三二號會計課長移牒

- 一、秒時計(特殊品ヲ除ク)
- 二、十六ミリ映畫攝影機(特殊品ヲ除ク)
- 三、家庭用ミシン
- 四、檢眼鏡(特殊品ヲ除ク)
- 五、膀胱鏡
- 六、尿道鏡
- 七、遠心沈澱器(特殊品ヲ除ク)

八、ルーペ

九、ミクロトーム(特殊品ヲ除ク)

一〇、分光器(特殊品ヲ除ク)

一一、ピツチゲージ

一二、テーパゲージ

一三、サーフスゲージ

一四、シツクネスゲージ

一五、畫 鋏

一六、蟲ピン

一七、寝 臺

一八、紙剪斷機(特殊品ヲ除ク)

一九、フロメータ(特殊品ヲ除ク)

二〇、顯微鏡用照光装置(特殊品ヲ除ク)

二一、時計油(特殊品ヲ除ク)

二二、寫眞用フィルム(特殊品ヲ除ク)

二三、齒科用ワックス

ステツキワックス

インレイワックス

パラフィンワックス

シートワックス

二四、齒科用ホキール

カーボランダムホキール

アランダムホキール

二五、齒科用カーボラダムポイント

二六、齒科用アマルガム

二七、齒科用合金

二八、齒科用セメント

磷酸セメント

珪酸セメント

二九、齒科用ゴム

ガクパアチャ

蒸和ゴム

ゴールドダストラバー

ウエーセツトラバー

三〇、齒科用埋没劑

三一、齒科用テンボラリストピンダ

三二、齒科用モルデン

三三、齒科用モデリングコムパウンド

三四、カーボランダム(特殊品ヲ除ク)

三五、アランダム(特殊品ヲ除ク)

三六、網入硝子

三七、型板硝子

三八、磨板硝子(特殊品ヲ除ク)

●各省購入外國品目中外國品ノ購入已

ムヲ得サルモノト認ムル種目

昭和四年十月二十一日 昭和一〇年二月
官會二一二號次官通牒 官會一七號改正

一、時計

天文振子時計

デツキウオウチ

クロノメーター

二、電氣爐

誘導爐

三、有線電話機

自動式電話交換機

●要塞地帯法ノ支配ヲ受クヘキ工事施

行ノ場合ハ當該陸軍官憲ノ承認請求

方

明治三十二年八月二十九日
會計課長通牒

今般法律第五條ヲ以テ要塞地帯法ヲ公布セラレ本月二十日ヨリ施行相成候ニ付テハ爾後(明治二十三年四月文部省直轄部局營繕事務取扱規則第一條)ノ工事ヲ施行セントスルニ當リ該法ノ支配ヲ受クルノ必要アル場合ニ於テハ各部局長ヨリ該法ノ規定ニ從ヒ要塞地帯法施行規則ニ準シ直接ニ當該陸軍官憲ノ承認ヲ求ムヘキ儀ト御承知相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

追テ本年陸軍省告示第七號及陸海軍省告示要塞地帯ノ各區内ニ於テ該法律ニ掲クル禁止制限ノ事項ニシテ本年八月二十日以前ニ著手シ同期日以前ニ終了スルノ見込ナキモノ有之候ハハ本年陸軍省令第二十一號ニ準シ同月三十一日迄ニ當該要塞司令官ニ通知スヘキ儀ト御承知相成度此段申添候也

第六章 國有財產

第六章 國有財產

●國有財產法

大正十年四月
法律第四十三號

第一條 本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂フ

第二條 國有財產ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財產 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財產 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財產 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財產 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財產ハ雜種財產ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財產ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

二 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財產ノ賣拂、讓與又ハ交換

ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財產ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財產引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財產ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日より起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財產ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損

ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財產ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財產ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財產ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公共若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財產ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財產ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財產ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ、國有財產現在額總計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則 (大正十一年三月勅令第六十) (一號同年四月一日ヨリ施行)

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財產ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條

ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定テ爲スコトヲ得

●國有財產法施行令

大正十一年一月 昭和九年
勅令第十五號 七七號改正

第一章 總 則

第一條 左ニ掲クル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
 - 二 不動產又ハ前號ニ掲クル動產ノ從物
 - 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
 - 四 地上權、地役權、礦業權、砂礦權其ノ他之ニ準スヘキ權利
 - 五 株式及出資ニ因ル權利
- 前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協議シ

タルモノヲ除クノ外用途廢止後滯留ナク之ヲ大藏大臣ニ引續クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財產ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、通信事業特別會計、簡易生命保險特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付テ之適用セス

第三條 各省大臣國有財產ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
 - 二 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
 - 三 雜種財產ヲ公用財產又ハ營林財產ト爲サムトスルトキ
 - 四 營林財產ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ
- 第五條 各省大臣公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ滯留ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財產法施行地外ニ在ル財產及帝國

追録第五號

鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財產ニ付テ之ヲ適用セス

第七條 國有財產ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財產ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルトコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルトコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財產ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルトコトヲ得但シ財產ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財產中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルトコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財產ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作

成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超過スルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財產ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財產ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途並之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財產ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルトコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徵スヘシ

第十九條 國有財產法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財產又ハ公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財產ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財產ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財產法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓

ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財產法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財產ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財產ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財產法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財產法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財產ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財產法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財產ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財產ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財產ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財產ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財產ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財產ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財產ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略ス

ルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格

五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込

價格

三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築

費、製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第

五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財產現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計及通信事業特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ滄疊外岸接近ノ官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上秘密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年四月一日ヨリ施行）

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ滄疊等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百十六號達

明治八年第四百十八號達

明治九年第四百十六號達

ル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則（昭和九年三月三十日勅令第七十七號）

本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國有財産法施行規則

大正十一年二月 昭和九年
大藏省令第十四號 第一號改正

第一條 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ
之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舎、工場、
倉庫、練兵場、作業場、演習場、射撃場、飛行場、牧場、農
場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スルモノハ付テハ國
有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議
スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續ス
ル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ
一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財産ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計
又ハ通信事業特別會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特
別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト
協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得

附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得
第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號
ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ
際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當
分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中

總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シ
テ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産増減報告書ハ第二號
及第三號様式ニ據ル

附 則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(昭和七年八月大藏省令第十七號)

本令ハ昭和七年度ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和七年三月三十一日現
在ニ於ケル國有財産現在額報告書ハ改正様式ニ依リ之ヲ調製ス
ヘシ

附 則

(昭和九年三月大藏省令第十一號)

本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式(國有財産臺帳)

國 有 財 産 臺 帳	
何 會 計 所 屬	何 財 産
管 理 廳 名	

備考

- 一 本臺帳ハ一般會計及各特別會計所屬別ニ公用財產、營林財產及雜種財產毎ニ別冊トシ尙公用財產中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上秘密ヲ要スルモノ、雜種財產中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各別冊ト爲スモノトス
- 二 各臺帳ニ登錄スヘキ國有財產ノ區分及種目ハ別表ノ定ムル所ニ依ルモノトス但シ工作物及器具機械ニ付テハ必要ニ應シ適宜其ノ種目ノ追補ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 三 各臺帳ハ土地ノ種目別一區域ヲ基準トシテ口座ヲ分チ當該土地ノ定著物ハ勿論其ノ上ニ存スル官廳其ノ他ニ從屬スル動産及權利ヲモ其ノ口座ニ整理スルモノトス但シ土地ヲ基準トスル口座ニ整理シ難キモノニ付テハ別ニ口座ヲ設クルコトヲ要ス
- 四 各臺帳ニハ卷頭ニ索引ヲ附シ卷末ニ總括ヲ附スルモノトス但シ索引及總括ハ便宜各別冊ト爲スコトヲ妨ケス
- 五 各臺帳ノ口座ハ公用財產ニ在リテハ土地ノ種目ニ冠シタル名稱(例ヘハ何處、何工場、何練兵場等ノ如シ)ヲ附シ所屬官廳順ニ、營林財產又ハ雜種財產ニ在リテハ名稱ヲ附セス道府縣郡市(市ニ區アルモノニ付テハ市及區)區町村順ニ、其ノ土地ヲ基準トセサル口座ハ末尾トシ保管ノ官廳順ニ編綴スルモノトス
- 六 各口座ハ土地(地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シ土地ノ次トス)立木竹、建物、工作物、器具機械、船舶、鑛業權(砂鑛權ハ鑛業權ニ準ス)、株式及持分ノ順序ニ依リ整理スルモノトス
- 七 各様式ノ標題ハ公用財產ニ在リテハ口座名、營林財產及雜種財產ニ在リテハ所在地(市區町村)名又ハ保管ノ官廳名ニ依ルモノトス但シ所在地名ニ依ルモノハ便宜之ヲ省略スルコトヲ妨ケス
- 八 沿革欄ニハ臺帳登錄ニ至ル迄ノ沿革ヲ詳細ニ記入スルモノトス
- 九 年月日欄ニハ得喪變更其ノ他登錄ヲ要スル事由ノ發生シタル年月日ヲ記入スルモノトス
- 十 公用財產中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財產中寺院若ハ佛堂ノ用ニ供シ又ハ公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノニ付テハ土地ノ價格及土地ノ定著物ニ關スル記入ヲ要セサルモノトス
- 十一 數量ノ單位ハ別表ノ定ムル所ニ依リ單位未滿ハ之ヲ切捨ツ但シ全額單位未滿ノモノ及特ニ單位未滿ヲ存スルノ必要アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 十二 一口座全部消滅シタル場合ニ於テハ之ヲ除斥シ別ニ編綴保存スルモノトス

口座	座	索引番號	口座	座	索引番號
何	廳	1			
何	倉庫	2			
何	練兵場	3			

(索引)

一 備考
 營林財產及雜種財產ノ分ニ付テハ口座欄ヲ「所在及所屬」欄トシ所在ノ道府縣郡市區町村名又ハ保管ノ官廳名ヲ記入スルモノトス

礦業權
(砂鐵權)

種目	何處山何區 探採礦區	登番 號	何府縣何權第何號	所在	何縣何郡何村大 字何	沿革	何年何月許可 何年何月面積何坪減社區許可	索引番號	
								8	8
年月日	摘要	增	減	現	備	考			
大正 11. 4. 1	現在	數量	價格	數量	價格	數量	價格		
13. 5. 1	增	430	8,600.00			8,780	171,600.00		
16. 3. 31	現在計					8,780	171,600.00		

備考 一 一鐵區毎ニ記入スルモノトス但シ種目ヲ同シクスルモノハ合併記入スルヲ妨ケズ此ノ場合ニ於テハ登錄番號欄ニ番號ヲ附シテ記入シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

株式及持分

種目	何株式	式要	内容	一株ノ金額	何圓	沿革	何年何月何令ニ依リ取得	索引番號	
								10	10
年月日	摘要	數量	價格	數量	價格	現	在	備	考
大正 11. 4. 1	現在					1,000	1,000,000.00		
13.10.10	引受	1,000	1,000,000.00			2,000	2,000,000.00		
16. 3. 31	現在計					2,000	2,000,000.00		

備考 一 内容欄ニハ一株式ハ一口ノ金額共ノ他株式又ハ持分ノ内容ヲ示スヘキ事項ヲ詳細記入スルモノトス

總括

年月日	區分	種目	増		減		現		備	考
			數量	價格	數量	價格	數量	價格		
大正 11. 4. 1	土地	敷地					3,500	297,545.00	樹木10.價格45圓	
	建物	事務所建					1,350 630	138,780.00		
	建物	雜工作物					6	555.00		
	船	汽船					1 120	73,230.00		
		計						510,110.00		
12.10.20	土地	敷地		120			3,620	309,545.00	買入	
14. 3. 20	"	"					3,270	279,786.00	用途廢止 樹木2.價格 9圓 樹木8.價格36圓	
14. 9. 30	建物	事務所建	70 40	17,500.00					増築	
15. 2. 9	"	"					600 230	65,530.00	取毀	
"	建物	雜工作物					2	60.00	"	
15. 3. 10	船	汽船							屬具買入	
14年度計	建物	事務所建					820 440	90,750.00		
	建物	雜工作物					4	495.00		
	船	汽船					1 120	73,245.00		

何

所在 何縣何郡何村何字何何 索引番號 5

何敷地歩	何敷地歩	(寺院佛堂供用地)	雑種地	寄洲	海濱地	墳墓地	鑛泉地	池沼	牧場	原野	森林	耕地	宅地歩	(雜種財産)
公園其ノ他特有名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ、特有名稱ナキモノハ普通名稱ヲ冠スルモノトス	寺院又ハ佛堂ノ名稱ヲ冠スルモノトス		他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スルモノトス											

築庭	下水	水道	圍障	門	雜屋建	倉庫建	工場建	住宅建	事務所建	材積	樹木	立木竹
築山、置石、泉水等(立木竹ヲ除ク)ヲ一團トシテ一箇所ヲ以テ一箇トス	溝渠、埋下水等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	一式ヲ以テ一箇トス	柵、塙、垣、生垣等ヲ包括スルモノトス	木門、石門等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	監房、厩舎、番小屋、物置、廊下、便所、門衛所、小使室等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スルモノトス	上屋ヲモ包括スルモノトス		官舎、合宿所等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	官署、學校、圖書館、病院、兵營、監獄(監房ヲ除ク)、停車場等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	(竹ハ束)	(箇數)	

池井	貯水池、濾水池、井戸等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス
鋪床	石敷、煉瓦敷、混凝土敷、木塊鋪、アスファルト鋪等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス
照明装置	電燈、瓦斯燈、弧光燈等ニ關スル設備、(常時取リ外ツス部分ヲ含マス)ノ各一式ヲ以テ一箇トス
煖房装置	煖爐、瓦斯煖爐等ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
冷室装置	一式ヲ以テ一箇トス
通風装置	一式ヲ以テ一箇トス
消火装置	一式ヲ以テ一箇トス
通信装置	私設電話、電鈴等ニ關スル設備ニシテ他ノ種目ニ該當セサルモノヲ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
煙突	獨立ノ存在ヲ有スルモノニシテ煙道等ノ設備ヲ一團トシ一基ヲ以テ一箇トス
貯槽	水槽、油槽、瓦斯槽等ヲ包括シ各其ノ箇數ニ依ル
橋梁	棧橋、陸橋等ヲモ包括シ各其ノ箇數ニ依ル
土留	石垣、構等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス
射場	射撃場ニ於ケル諸工作物ノ一式ヲ以テ一箇トス
岸壁	
陸道	間 哩鎖又ハ
軌道	
輕便軌道	

電信架空裸線	延長里間	
電信地下線	管路延長里 線條延長里	同報電信線ヲ包括スルモノトス
電信水底線	線條延長里 埋長里間	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス
電話架空裸線	延長里間	
電話地下線	管路延長里 線條延長里	
電話水底線	線條延長里 埋長里間	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス
電力架空線	延長里間	
電力地下線		
電車架空線		
氣送管路	里間	
空氣供給管路		
無線電信柱	(箇數)	一式ヲ以テ一箇トス
燈臺		燈船ヲモ包括シ一箇所ヲ以テ一箇トス

船	船	器具 機械	器具機械																				
			望	起	昇	船	艦	原	變	傳	作	諸	雜										
		(動産タル器具)	工	車	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	
			工場機械(箇數)	輛	工作物	標	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	
			事業所ニ於ケルモノニ付テノミ適用アルモノトス	機關車、客車、電車、貨車、自動車等ヲ包括スルモノトス	井戸屋形、揚示場、石炭置場、馬糞場、灰捨場、避雷針、船架等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括シ各一箇所ヲ以テ一箇トス	浮標、立標、信號標識等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	除塵装置、噴霧装置、製鹽装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	電動装置、シヤフチング等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	變流装置、變壓装置、蓄電装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	發電装置、發動装置、汽機、瓦斯發生装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	鎔鑪、反射爐、結晶爐、眞鍮爐等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	浮船渠ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス	一式ヲ以テ一箇トス	定置式ノモノニ付一式ヲ以テ一箇トス									

道條第三號

船	船	器具 機械	器具機械																				
			望	起	昇	船	艦	原	變	傳	作	諸	雜										
		(動産タル器具)	工	車	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜	雜
			工場機械(箇數)	輛	工作物	標	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置	置
			事業所ニ於ケルモノニ付テノミ適用アルモノトス	機關車、客車、電車、貨車、自動車等ヲ包括スルモノトス	井戸屋形、揚示場、石炭置場、馬糞場、灰捨場、避雷針、船架等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括シ各一箇所ヲ以テ一箇トス	浮標、立標、信號標識等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	除塵装置、噴霧装置、製鹽装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	電動装置、シヤフチング等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	變流装置、變壓装置、蓄電装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	發電装置、發動装置、汽機、瓦斯發生装置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	鎔鑪、反射爐、結晶爐、眞鍮爐等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	浮船渠ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス	一式ヲ以テ一箇トス	定置式ノモノニ付一式ヲ以テ一箇トス									

